2010年度

講義計画

桃山学院大学

講　義　計　画

科目名　クラス　講義区分	
資料特論　＜秋＞	
本　間　栄　男	２単位

【講義概要】
行政資料、郷土資料、視聴覚資料、電子資料などに関して、学内外からの講師に話を伺います。
各回の具体的な内容と担当者はシラバス執筆時（2010年１月）時点で未定です。

【学習目標】
公共図書館に勤務する司書として必要な知識である、行政資料・郷土資料・視聴覚資料・電子資料などについて、その特徴、収集・利用方法等を把握してもらうことが目標です。

【講義計画】
第１回　講義全体の概要を扱います。
　　各回の具体的な内容と担当者は未定なので、下記はあくまで予定です。
第２回　行政資料と図書館（１）
第３回　行政資料と図書館（２）
第４回　行政資料と情報公開（１）
第５回　行政資料と情報公開（２）
第６回　行政資料の保存（１）
第７回　行政資料の保存（２）
第８回　郷土資料と図書館（１）
第９回　郷土資料と図書館（２）
第10回　郷土資料と図書館（３）
第11回　視聴覚資料と図書館（１）
第12回　視聴覚資料と図書館（２）
第13回　電子資料と図書館（１）
第14回　電子資料と図書館（２）
第15回　まとめ

【成績評価の方法】
出席　100％
各回ごとに小テストや課題・レポートが出されます。それらを総合して単位を認定することになります。

【備考】
【準備学習の指示】
あらかじめ提示される主題について、簡単な概略でも良いので参考図書・インターネットなどから情報を集めておく。
・インテグレーション科目

科目名　クラス　講義区分	
資料分類法　＜春＞	
志保田　　務	２単位

【講義概要】
図書館における資料組織化のうち、主題からのアプローチとして分類と件名について講義する。

【学習目標】
図書館における資料組織化のうち、主題からのアプローチとして分類と件名について把握できるよう図る。下記の計画による。

【講義計画】
第１回　科目オリエンテーション、概説
　　主題からのアプローチa
第２回　「分類」と資料の分類
第３回　主要分類表と日本十進分類法
第４回　分類規程と各類概説
第５回　書架での配列（配架）
第６回　別置法と「図書記号」法
第７回　図書以外の資料分類
第８回　主題からのアプローチb
第９回　分類目録a
第10回　分類目録b
第11回　件名目録a
第12回　件名目録b
第13回　件名典拠ファイル
第14回　主題配列
第15回　総合

【成績評価の方法】
試験　85％　レポート　15％
出席は、それ自体としては評価の基準に入れない。ただし、出席は原則採り、理由なき出席不良者に対しては減点する。

【教科書】
木原通夫［ほか］資料組織法（第６版）第一法規

さ行

科目名　クラス　講義区分	
資料分類法演習　＜秋＞	
志保田　　務	１単位

【講義概要】
図書館の資料分類法について演習する。

【学習目標】
図書館分類法の演習をとおして、受講者に資料分類、件名付与の技量をつけてもらう。

【講義計画】
第１回　資料組織法演習と、資料分類演習
第２回　日本十進分類法概説
第３回　日本十進分類法　補助表a
第４回　日本十進分類法　補助表b
第５回　日本十進分類法　各類概説a
第６回　日本十進分類法　各類概説b
第７回　分類記号の付与の実際　書架分類a
第８回　分類記号の付与の実際　書架分類b
第９回　主題目録法：分類目録と件名作業．シソーラス適用の実際
第10回　主題目録法１：書誌分類a
第11回　主題目録法１：書誌分類b
第12回　主題目録法２：件名目録作業a
第13回　主題目録法２：件名目録作業b
第14回　主題目録法３：分類目録と件名目録作業
第15回　総合

【成績評価の方法】
試験　80%　レポート　20%
出席は、それ自体としては評価の基準に入れない。ただし、出席は原則採り、理由なき出席不良者に対しては減点する。

【教科書】
木原通夫［ほか］資料組織法（第６版）第一法規

木原通夫［ほか］資料組織法演習問題集＜赤版第３版＞ 第一法規

科目名　クラス　講義区分	
資料目録法　＜春＞	
志保田　　務	２単位

【講義概要】
図書館における資料組織化のうち、目録法総論、書誌ユーティリティの活用、総合目録などに照準し、タイトル、著者からのアプローチとしてタイトル目録と著者目録中心に講義する。

【学習目標】
図書館における資料組織化のうち、タイトル、著者からのアプローチとしてタイトル目録と著者目録中心に、共同目録作業とうについて把握できるよう図る。下記の計画による。

【講義計画】
第１回　資料組織法とは：書誌検索システム
第２回　配架と目録の関係
第３回　目録法総論　１　目録の意義と種類
第４回　目録法総論　２　目録構築の基本方針：アクセスポイントの設定ほか
第５回　目録法総論　３　書誌情報ネットワークと図書館目録
第６回　目録法総論　４　集中目録作業
第７回　目録法総論　５　共同目録作業
第８回　目録規則と目録基準　１　意義等
第９回　目録規則と目録基準　２　西洋におけるその発展と国際化
第10回　目録規則と目録基準　３　日本におけるその発展と国際化
第11回　目録規則と目録基準　４　構造的把握、メタデータ他
第12回　目録規則の今後
第13回　目録編成法　１
第14回　目録編成法　２
第15回　総合

【成績評価の方法】
試験　80%　レポート　20%

【教科書】
木原通夫［ほか］資料組織法（第６版）第一法規
出席は、それ自体としては評価の基準に入れない。ただし、出席は原則採り、理由なき出席不良者に対しては減点する。

科目名　クラス　講義区分	
資料目録法演習　＜秋＞	
志保田　　務	1単位

【講義概要】
図書館目録について演習する。

【学習目標】
図書館目録の演習をとおして、受講者に目録作成、目録検索の技量をつけてもらう。

【講義計画】
第1回　資料組織法演習と、資料目録演習
第2回　配架と目録の関係
第3回　目録法演習総論　1　目録の意義と種類
第4回　目録法演習総論　2　目録構築の基本方針：アクセスポイントの設定ほか
第5回　目録作成とアウトソーシング　1　書誌情報ネットワークと図書館目録の作成
第6回　録作成とアウトソーシング　2　集中目録作業の活用
第7回　目録作成とアウトソーシング　3　共同目録作業への参加
第8回　目録作成とアウトソーシング　4　アウトソーシングの問題点
第9回　目録作成と各館の目録（OPAC）管理
第10回　各館目録（OPAC）の作成と総合目録
第11回　総合目録と検索エンジン
第12回　記事索引　1　記事索引の意義と図書館
第13回　記事索引　2　記事索引の記述と外部データベース　1
第14回　記事索引　2　記事索引の記述と外部データベース　2
第15回　総合

【成績評価の方法】
試験　80%　レポート　20%
出席は、それ自体としては評価の基準に入れない。ただし、出席は原則採り、理由なき出席不良者に対しては減点する。

【教科書】
木原通夫［ほか］資料組織法（第6版）第一法規
木原通夫［ほか］資料組織法演習問題集＜赤版第3版＞ 第一法規

科目名　クラス　講義区分	
人権教育論　01＜通期＞	
久保井　規　夫	4単位

【講義概要】
人権教育を、今日において、人権を侵害している一切の差別を許さず、人間の尊厳を守り進める力を培う教育として位置付ける。具体的な現実の人権問題を歴史的社会的に正しく認識する価値観を培い、学校現場での教育内容・展開の課題を学ぶ。

【学習目標】
1．人権教育を、学校現場で、教師として実践・展開できる認識・力量の基礎を身に付けさせる。
2．子どもたちを取り巻く現実から、人権を守り進めめ生きる力を培うことができる教師を目指せさせる。

【講義計画】
第1回　人権教育論　講義ガイダンス。
総論　日本の人権問題を学び考えよう　現代の人権問題を学び、教師として人権教育を実践・展開できる目標を確認する。
第2回　第一章　日本の人権問題と教育
第3回　第二章　人権教育の歩みと課題
第4回　第三章　部落差別の実態と同和施策
第5回　第四章　格差社会と実質平等と真の解放
第6回　第五章　部落史・部落問題の虚と実Ⅰ　被差別部落の起源と身分制
第7回　第六章　部落史・部落問題の虚と実Ⅱ　被差別身分の変化と確立
第8回　第七章　部落史・部落問題の虚と実Ⅲ　さまざまな被差別身分
第9回　第八章　部落史・部落問題の虚と実Ⅳ　人間の尊厳を守った人々
第10回　第九章　部落問題の始まりと解放への道Ⅰ　被差別身分の廃止
第11回　第十章　部落問題の始まりと解放への道Ⅱ　部落差別の始まり
第12回　第十一章　部落問題の始まりと解放への道Ⅲ　部落解放運動
第13回　第十二章　伝統文化に見る差別と人権
第14回　第十三章　聖賤・浄穢による差別と人権
第15回　第十四章　タブー視とマスコミと人権
第16回　第十五章　生活・環境と人権
第17回　第十六章　労働の価値観と職業差別
第18回　第十七章　フェミズム、そしてジェンダーと人権
第19回　第十八章　日本の民族差別と人権Ⅰ　国際化と日本在留外国人
第20回　第十九章　日本の民族差別と人権Ⅱ　単一民族幻想と定住の背景
第21回　第二十章　平和と国際協調
第22回　第二十一章　「障害」者・高齢者の人権と社会福祉
第23回　第二十二章　病・医療と人権Ⅰ　日本医療の文化史から
第24回　第二十三章　病・医療と人権Ⅱ　伝染病への恐れと克服Ⅰ
第25回　第二十四章　病・医療と人権Ⅲ　伝染病への恐れと克服Ⅱ
第26回　第二十五章　病・医療と人権Ⅳ　ハンセン病史から学ぶ
第27回　第二十六章　病・医療と人権Ⅴ　身近な感染症への正しい理解
第28回　第二十七章　人権教育の実践・展開Ⅰ
第29回　第二十八章　人権教育の実践・展開Ⅱ
第30回　まとめ。テスト

【成績評価の方法】
試験　50%　レポート　40%　出席　10%
レポートは、二回(春期・秋期)提出させる。秋期の二回目のレポートは、授業案・教材案であり、模擬授業・発表とも結びつけ、評価点は高くする。最終講義時に、設問形式のテストを実施する。受講カードの感想・意見も出席評価の参考にする。受講態度は重視する。配慮すべき事由のない、欠席・大幅な遅刻・途中の入退室・私語・居眠りは減点するか、当日の受講を認めない。

【教科書】
久保井規夫 わかりやすく絵で学ぶ　人権論 未刊
適宜一部を抜粋印刷して、講義時に、無料で配布する。

【参考文献】
「病の文化史」「食肉・狩漁の文化史」「大日本帝国の子どもたち」「紫煙・毒煙、大東亜幻影」柘植書房新社。「日本民衆と部落の歴史」「朝鮮と日本の歴史」「地下軍需工場と朝鮮人強制連行」「日本の侵略戦争とアジアの子ども」「朝鮮と日本の歴史光と影」「教科書から消せない真実」「消され歪められた歴史教科書」「江戸時代の被差別民衆」「近代の差別と日本民衆の歴史」「戦争と差別と日本民衆の歴史」明石書店。「養護学校義務化と障害児」「隔離の壁を倒せ」障害児権利保障協議会。いずれも、久保井規夫著作。購入時には、著者が用意できる。

【備考】
・02～07生は読替一覧参照

さ行

科目名　クラス　講義区分	
人権教育論　02＜春集＞	
寺　木　伸　明	4単位

【講義概要】
本講義では、まず人権教育とは何か、またなぜ必要か、を説明する。続いて世界と日本における人権問題の歴史と現状について視聴覚教材を活用しながら理解を深めていく。さらに同和教育の成果を踏まえながら人権教育の歴史、人権教育の方法、人権教育の実際の進め方などについて学習する。その際、中学校および高校で人権教育に積極的に取り組んでいる教員をゲスト講師として招聘し、その体験を語っていただく予定である。授業の形態としては、できるだけ参加型学習を取り入れ、学期の後半には、受講生による人権教育の模擬授業を実施する。

【学習目標】
人権教育・同和教育の必要性を理解し、かつ人権問題の歴史と現状をふまえて学校教育のなかで実際に人権教育・同和教育をどのように進めていくべきかを学習し、そのスキルを習得する。

【講義計画】
第１回　本講義の到達目標・テーマ・授業の概要・授業計画・評価の方法について説明
第２回　人権の概念と人権教育・同和教育の概要
第３回　人権教育・同和教育の必要性についてのグループでの話し合いと説明
第４回　世界における人権拡張の歴史
第５回　日本における人権拡張の歴史
第６回　日本の人権問題①――アイヌ民族差別問題の歴史と現状
第７回　日本の人権問題②――定住外国人問題の歴史と現状
第８回　日本の人権問題①――ハンセン病者差別問題の歴史と現状
第９回　日本の人権問題②――被差別部落の現状
第10回　日本の人権問題③――被差別部落の歴史と解放運動
第11回　人権教育の歴史①――世界における人権教育の現状
第12回　人権教育の歴史②――日本における同和教育の歴史（戦前）
第13回　人権教育の歴史③――日本における同和教育の歴史（戦後）
第14回　人権教育の進め方①――人権概念と人権の重要性、日本国憲法と人権について
第15回　人権教育の進め方②――自らの課題としての人権問題の解決について、グループでの話し合い
第16回　人権教育の進め方③――部落問題学習（前近代の部落の歴史）指導の実際
第17回　人権教育の進め方④――部落問題学習（近現代の部落の歴史）指導の実際
第18回　人権教育の進め方⑤――在日韓国・朝鮮人問題学習の実際
第19回　中学校における人権教育の実際（ゲスト講師）
第20回　高校における人権教育の実際（ゲスト講師）
第21回　受講生による模擬授業①（グループ１・２）
第22回　受講生による模擬授業②（グループ３・４）
第23回　受講生による模擬授業③（グループ５・６）
第24回　受講生による模擬授業④（グループ７・８）
第25回　受講生による模擬授業⑤（グループ９・10）
第26回　受講生による模擬授業の反省（グループでの話し合い）
第27回　国連を中心とした世界の人権教育の流れ
第28回　人権教育・同和教育の課題と展望
第29回　講義のまとめ
第30回　定期試験

【成績評価の方法】
試験　70%　出席　30%
学期末に行う試験の点数（60点満点）に、出席点（毎回提出してもらう出席カードの記述内容がしっかりしていたら、出席とみなす）を加点して評価する。

【参考文献】
適宜、指示する。

【備考】
準備学習の指示
シラバスに基づいて講義を進めていくので、講義時までに次の講義のテーマを確認して（講義の最後に改めて次回のテーマを予告するが）、そのテーマに関する文献・資料を読んでおくこと。特にグループによる模擬授業の前には、グループでよく相談し、自分の分担を明確にして準備をしたうえ、教案および提示・配布資料を作成をしておくこと。
・02～07生は読替一覧参照

科目名　クラス　講義区分	
人工市場論　＜通期＞	
谷　口　和　久	4単位

【講義概要】
市場の存在とそのメカニズムは，経済学研究の重要なテーマのひとつであるが，従来の伝統的な経済学では，市場の存在を所与して扱うことがおおく，「なぜ市場が存在するのか」「どのようにして市場が誕生したのか」という問題は，そもそも問題として設定されることが少ない。また，市場参加者の意思決定にまで深く立ち入った議論がなされることはまれである。しかし，コンピュータの利用が簡便にできるようになり，市場を限定的な知識しか持たない経済主体が多数集まる制度としてとらえ，生身の人間や具体的な特性を持ったコンピュータ・プログラムマシンが参加する場を構築した上で，取引のシミュレーションを行い，その結果を分析することが可能になってきた。本講義では，人工市場研究の優れたテストベッドとして，開発から既に10年以上経過したU-Martシステムを利用する。近年では，インターネットを介したいわゆる「ネット証券」が盛んになり，証券会社が顧客獲得のために様々な人工の市場を提供するなど一般社会からの興味も引いている。だが,U-Martシステムは，ヒューマンとコンピュータ・プログラムマシンが同時に参加できるうえに，実験結果をトレースできる等，研究のみならず教育のツールとしても極めて優れたものである。

【学習目標】
先物市場・金融市場の仕組みや市場そのものの働きを理解する。また，トレーダーとして実験に参加することで，取引戦略を身につけ，先物取引の仕組みを実践的に理解する。さらに，実験結果を分析することで，数値分析の技術を身につける。金銭目的ではない(念のため)。
従来の講義とは異なる参加型の授業であるので，そのつもりで受講されたい。

【講義計画】
第１回　ガイダンス
第２回　市場について(１)
第３回　市場について(２)
第４回　人工市場の理論的背景(１)
第５回　人工市場の理論的背景(２)
第６回　金融市場と先物市場(１)
第７回　金融市場と先物市場(２)
第８回　金融市場と先物市場(３)
第９回　取引戦略(１)
第10回　取引戦略(２)
第11回　取引戦略(３)
第12回　マーケットシミュレーターの使い方
第13回　シミュレータの実習(１)
第14回　シミュレータの実習(２)
第15回　シミュレータの実習(３)
第16回　板よせによるU-Mart実験(１)
第17回　板よせによる実験結果分析(１)
第18回　板よせによるU-Mart実験(２)
第19回　板よせによる実験結果分析(２)
第20回　板よせによるU-Mart実験(３)
第21回　板よせによる実験結果分析(３)
第22回　エージェントのプログラミング(１)
第23回　エージェントのプログラミング(２)
第24回　エージェントのプログラミング(３)
第25回　ザラバによるU-Mart実験(１)
第26回　ザラバによる実験結果分析(１)
第27回　ザラバによるU-Mart実験(２)
第28回　ザラバによる実験結果分析(２)
第29回　試験

【成績評価の方法】
試験　60%　レポート　20%　出席　20%
講義への積極的な参加と指定されたレポートの提出を重視します。

【教科書】
塩沢由典、他　人工市場で学ぶマーケットメカニズム - U-Mart経済学編 - 共立出版

【参考文献】
『人工市場で学ぶマーケットメカニズム - U-Mart工学編 - 』，共立出版,2009.
進化経済学会編，『進化経済学ハンドブック』，共立出版,2006

【備考】
【準備学習の指示】
１．日本の証券市場の取引に関する知識を獲得しておく。
２．日本経済に関する全般的な知識を獲得しておく。
３．表計算ソフトを使えるようにしておく。

科目名　クラス　講義区分	
心理学　01＜通期＞ 心理学　02＜通期＞	
加　納　真　美	４単位

【講義概要】
『心理学』を学びたいと考えている人に、心理学とはどのような学問なのかを理解してもらうことを目標とする。そのため、心理学全体の統合的な見取り図を示し、心理学がどのような日常の問題を、どのように明らかにしてきたかを考察していきたい。この講義では、特に進化の過程にある人間のしくみに関する解明と社会の中での人間という観点から、人間の発達と行動に関する解明を心がけたい。

【学習目標】
心理学を通して、人の行動への理解を深めること。

【講義計画】
第１回　１心理学史と測定の仕方
第２回　15―１　脳と心１
第３回　15―２　脳と心２
第４回　16　脳損傷と心の働き
第５回　２　心の進化
第６回　３－１　心の発達（乳児期）
第７回　３－２　心の発達（乳児期～幼児期）
第８回　３－３　心の発達（愛着について）
第９回　３－４　心の発達（愛着について）
第10回　３－５　心の発達（児童期）
第11回　４－１　ライフサイクルと青年期１
第12回　４－２　ライフサイクルと青年期２
第13回　５－１　動機づけ
第14回　５－２　情動
第15回　５－３　情動の表出
第16回　６－１　パーソナリティーについて１
第17回　６－２　パーソナリティーについて２
第18回　６－３　パーソナリティーについて３
第19回　７　知能
第20回　８　ストレスとメンタルヘルス
第21回　９　カウンセリングと心理療法
第22回　10　感覚
第23回　11　知覚
第24回　12－１　記憶１
第25回　12－２　記憶２
第26回　13　学習
第27回　17－１　社会の中の人
第28回　17―２　社会のなかの人（文化比較）
第29回　18　心と社会１
第30回　18　心と社会２

【成績評価の方法】
試験　95%　出席　５%
期末試験の得点を重視する。

【教科書】
長谷川寿一・東條正城・大島尚・丹野義彦(著)　はじめて出会う心理学　有斐閣アルマ

【参考文献】
・ジョージ・バターワース他著　村井潤一監訳、『発達心理学の基本を学ぶ』、ミネルヴァ書房、1997年
・尾見康博・伊藤哲司編著、『心理学におけるフィールド研究の現場』、北大路書房、2001年
・菊池　聡・谷口高士・宮元博章編著、『不思議現象　なぜ信じるのか、こころの科学入門』、北大路書房　1995年

【備考】
私語厳禁、迷惑行為を行なった場合、退出をお願いします。
授業途中の自分勝手な入退出は、あらかじめ理由を申し出て下さい。

・SW生は履修不可

科目名　クラス　講義区分	
心理学　03＜通期＞ 心理学　04＜通期＞	
和　知　富士子	４単位

【講義概要】
わが国においては、社会福祉の実践分野に多くの心理学者が働いているにもかかわらず、これらの人たちを社会福祉の領域に積極的に包含していくことができず、社会福祉学は、社会科学系統の人たちから学問構築が始められて、実践科学としての心理学の関与が停滞してきた。しかしながら、最近、利用者のニーズが多様化する福祉現場の状況から、心理学的援助技術の導入を求める機運が急速に高まってきている。優れたケアの理論的根拠としての心理学理論が求められてきている。

【学習目標】
①心理学理論による人の理解とその技法について理解する。
②人の成長・発達と心理との関係について理解する。
③日常生活と心の健康との関係について理解する。
④心理的支援の方法と実際について理解する。
⑤人体の構造と機能および疾病、心理が期理論と心理的支援、社会理論と社会システムについて社会福祉の視点から理解する。

【講義計画】
第１回　人間の心理学的理解
　　社会福祉士における心理学的援助
第２回　心理学とは何か
第３回　心理学の歴史と領域
第４回　人間の心理学的理解　１．動機付け
第５回　２．感情
第６回　３．認知
第７回　４．学習
第８回　５．知能
第９回　６．人格（パーソナリティ）
第10回　７．適応
第11回　８．社会と人間
第12回　人間の成長。発達の心理　１．発達の概念と主要な理論
第13回　２．発達段階と生涯発達
第14回　３．発達課題
第15回　春期まとめ・試験
第16回　障害の心理的理解　１．発達障害の概要
第17回　２．発達障害への心理的援助
第18回　３．知的障害
第19回　４．情緒障害
第20回　５．自閉症と学習障害
第21回　６．精神障害
第22回　７．身体障害
第23回　さまざまな心理学的援助　１．心理測定と診断
第24回　２．心理療法
第25回　３．カウンセリング
第26回　４．家族療法
第27回　５．行動療法
第28回　６．遊戯療法（プレイセラピー）
第29回　７．精神分析
第30回　試験・まとめ

【成績評価の方法】
試験　60%　レポート　10%　出席　30%

【教科書】
福祉養成講座編集委員会 新版　社会福祉士養成講座10　「心理学」第３版 中央法規出版株式会社

【備考】
「準備学習の指示」
当科目は、「社会福祉士」「精神保健福祉士」の養成における指定科目である「心理学」において学ぶべきことを前提としている。したがって使用する教科書も「新版社会福祉士養成講座」シリーズの「心理学」を使用している。しかし履修学生は、すべての学部・学年にわたって履修可能であるため、教科書に一応沿ってではあるが、一般心理学の概論分野をカバーし、精神発達や人間関係・人間性にかかわる実生活と結びついた内容で、なおかつ社会福祉実践援助のために必要な内容を重視している。
特に「社会福祉士」「精神保健福祉士」資格取得を目指す学生においては、毎回の授業以前にあらかじめ教科書に目を通し、重要と思われる「心理学用語」を拾い出してインターネット等で語句の意味するものを理解しておくことが望まれる。
・SW生は03・04クラスのみ履修可

さ行

科目名　クラス　講義区分	
心理学　05＜春集＞	
冷　水　啓　子	4単位

【講義概要】
これから心理学を学ぼうとする人たちは、「心理学」という学問領域に対してどのようなイメージをいだいているであろうか。近年マスコミでよく取り上げられている「犯罪心理学」、「深層心理学」、「臨床心理学」、「カウンセリング」といった類のものが、すなわち「心理学」である（それら以外は、たとえ人間の「心」に関わりがあろうとも「心理学」とはみなさない）という固定観念にとらわれている人が多いのではないか。もちろん、それらは「心理学」のなかで重要な分野として取り扱われているが、「心のしくみとはたらき」を研究する科学としての「心理学」の研究領域はそれだけではなく、きわめて幅広く学際的である。

私たちの日常的活動を例に考えてみよう。私たちは、周囲の世界からさまざまな情報を取り入れ処理しながら日常生活を円滑に営んでいる。しかし、普段何気なく行っている、見る、聞く、感じる、考える、覚える、理解する、判断する、伝達するといった活動も、実に複雑な心のはたらきによるものであることがわかっている。このような人間における基本的な情報処理活動について研究する「認知心理学」というのも「心理学」の一分野である。

そこで、この講義では、近年の心理学研究上のさまざまな知見・成果を概観し、体系的に心理学を学ぶことを目指す。

【学習目標】
近年の心理学研究上のさまざまな知見・成果を概観しつつ、科学としての心理学理論を学ぶ。そして、人の心のしくみとはたらきについて総合的に理解することによって、客観的・批判的なものの見方や判断力を養う。

【講義計画】
第１回　授業を始める前に（授業のテーマ、到達目標、概要、履修上の注意事項などについて）
第２回　心理学とは何か
第３回　心理学研究法：客観的に人の心をとらえる方法
第４回　感覚と知覚（１）：そのしくみとはたらき
第５回　感覚と知覚（２）：現実の世界と錯覚
第６回　感覚と知覚（３）：見えの世界
第７回　記憶（１）：そのしくみとはたらき
第８回　記憶（２）：日常の記憶
第９回　記憶（３）：目撃証言と自白の心理
第10回　記憶（４）：記憶の不思議
第11回　学習（１）：学習の成立と応用
第12回　学習（２）：日常生活と学習
第13回　イメージ（１）：そのしくみとはたらき
第14回　イメージ（２）：心的イメージの世界
第15回　イメージ（３）：イメージ能力とイメージ・トレーニング
第16回　注意と認知（１）：そのしくみとはたらき
第17回　注意と認知（２）：注意とヒューマンエラー
第18回　思考と言語（１）：そのしくみとはたらき
第19回　思考と言語（２）：問題を解くということ
第20回　思考と言語（３）：「ことば」とコミュニケーション
第21回　思考と言語（４）：手話の世界
第22回　動機づけと情動（１）：人はなぜ行動を起こすか
第23回　動機づけと情動（２）：情動のはたらきと脳
第24回　脳と心（１）：心の生物学的基礎
第25回　脳と心（２）：脳損傷と心のはたらき
第26回　人格・性格（１）：人格・性格とはなにか
第27回　人格・性格（２）：人格・性格の発達
第28回　人格・性格（３）：人格・性格の測定
第29回　個人差を理解する
第30回　まとめと試験

【成績評価の方法】
試験　80%　レポート　20%
主体的・積極的な授業への出席・参加を重視する。学期中、必要に応じて簡単な実験・調査への参加やレポート提出などを求める。学期末には試験を実施する。それらの結果に基づき総合的に評価を行う。

【教科書】
テキストは使わないが、スライド（パワーポイント）、インターネット、ビデオ、印刷物などを通じて資料を提供する。

【参考文献】
・梅本堯夫・大山　正・岡本浩一（編）『心理学―心のはたらきを知る―』
（サイエンス社）
・大村彰道（編）『教育心理学Ⅰ―発達と学習指導の心理学―』
（東京大学出版会）
・金児曉嗣（編）『サイコロジー事始め』（有斐閣）
・長谷川寿一・東條正城・丹野義彦（著）『はじめて出会う心理学 改訂版』
（有斐閣アルマ）
・福祉士養成講座編集委員会（編）『新・社会福祉士養成講座２ 心理学理論　と心理的支援』（中央法規）
・中島義明（編）『メディアに学ぶ心理学』（有斐閣）

【備考】
【準備学習の指示】
共用のネットワークドライブ「"Nile１"のLesson(S:)」上にある「kshimizu」フォルダー内で公開している教材スライドや授業情報は、授業の前後で必ず確認し、予習・復習や自習のために役立てること。
・SW生は履修不可

科目名　クラス　講義区分	
スピリチュアルケア　＜通期＞	
谷　山　洋　三	1単位

【講義概要】
現代社会の新しいケア領域であるスピリチュアルケアと、その基礎概念であるスピリチュアリティについて概説する。

【学習目標】
スピリチュアルケアについて、その必要性、構造、隣接領域との関係、限界、そして専門職養成に関わる諸問題などを理解する。講義および学生による参考書購読によって目標を達成する。

【講義計画】
第1回　導入
第2回　スピリチュアルケアとスピリチュアリティ
第3回　スピリチュアルケアの臨床(1)
第4回　日本人のスピリチュアリティ(1)
第5回　日本人のスピリチュアリティ(2)
第6回　日本人のスピリチュアリティ(3)
第7回　仏教のスピリチュアリティ(1)
第8回　仏教のスピリチュアリティ(2)
第9回　キリスト教のスピリチュアリティ
第10回　諸宗教のスピリチュアリティ
第11回　心理学とスピリチュアリティ
第12回　芸術とスピリチュアリティ
第13回　スピリチュアリティの諸相(1)
第14回　スピリチュアリティの諸相(2)
第15回　総合ディスカッション
第16回　スピリチュアルケアの臨床(2)
第17回　死の臨床とスピリチュアルケア(1)
第18回　死の臨床とスピリチュアルケア(2)
第19回　死の臨床とスピリチュアルケア(3)
第20回　医療とスピリチュアルケア(1)
第21回　医療とスピリチュアルケア(2)
第22回　社会福祉とスピリチュアルケア(1)
第23回　社会福祉とスピリチュアルケア(2)
第24回　社会福祉とスピリチュアルケア(3)
第25回　宗教とスピリチュアルケア
第26回　教育とスピリチュアルケア
第27回　心理療法とスピリチュアルケア
第28回　スピリチュアルケア専門職(1)
第29回　スピリチュアルケア専門職(2)
第30回　総合ディスカッション

【成績評価の方法】
試験　20%　レポート　80%
ただし、出席回数が（欠席レポートによる make up 換算後）24回に達しない者は、成績評価対象とならない。

【教科書】
窪寺俊之・平林孝裕　編著 続・スピリチュアルケアを語る－医療・看護・介護・福祉への新しい視点 関西学院大学出版会

【参考文献】
谷山洋三・伊藤高章・窪寺俊之『スピリチュアルケアを語る』関西学院大学出版会
窪寺俊之『スピリチュアルケア学概説』三輪書店
谷山洋三編著『仏教とスピリチュアルケア』東方出版

科目名　クラス　講義区分	
スペイン語Ⅰa　01＜春＞ スペイン語Ⅰa　02＜春＞	
小　林　暁　子	1単位

【講義概要】
スペイン語は、スペイン、ラテンアメリカ諸国、アメリカ合衆国など多くの国々で使われる国際的な言語である。スペイン語を学ぶことは、‘言語’そのものだけでなく、ラテンの文化や歴史、そして多くの人々と触れ合える‘きっかけ’となる。本講義では、文法事項のみならず、音楽や映像なども用いて、より多くのスペイン語圏の文化を紹介していくので、受講者は、‘自分が興味を持てる分野’をいち早く見つけて欲しい。そのことが、学習をより一層楽しくさせ、スペイン語上達への近道にもなり得る。

【学習目標】
本講義では、「基礎的な文法知識を習得しながら、使えるスペイン語力を身につける」ことを目標とする。そのために、授業では数多くの会話文を用いながら、より多くの表現に触れ、「聞く・話す・読む・書く」すべての面において着実に基礎を固めていく。

【講義計画】
第1回　スペイン語の文字と発音／自己紹介と挨拶
第2回　名詞の性と冠詞
第3回　名詞の性と形容詞
第4回　お願いします（por favor）の表現
第5回　スペイン語のbe動詞①（ser動詞）
第6回　スペイン語のbe動詞②（estar動詞）
第7回　～があります（hay）の表現
第8回　指示代名詞、指示形容詞
第9回　時間の表現、数の表現
第10回　現在形規則活用（-AR動詞）
第11回　現在形規則活用（-ER動詞/-IR動詞）
第12回　現在形不規則活用
第13回　現在形不規則活用
第14回　総復習
第15回　試験

【成績評価の方法】
試験　20%　出席　60%
出席60%+試験20%+平常点20%（平常点＝課題提出、小テスト、授業態度等の総合評価）

【教科書】
阿由葉　恵理子 スペイン語レッスン初級1 スリーエーネットワーク
※　講義には、上記テキストのほかに、スペイン語辞典（西-和・和-西が1冊にまとめられた小辞典が望ましい）を必ず持参すること。出版社等は特に指定しない。

【参考文献】
『ポケットプログレッシブ　西和・和西辞典』高垣　敏博　ほか編　小学館
『スペイン語ミニ辞典』宮城　昇・宮本　博司　編　白水社
『CD付　やさしいスペイン語文法』大岩　功　著　三修社
『ニューエクスプレス　スペイン語（CD付）』福嶌　教隆　著　白水社

【備考】
【準備学習の指示】
耳からスペイン語の‘響き’に馴染んでゆくために、教科書付属のCDを予習・復習として活用することを強く勧めます。授業毎に取り扱う各課の内容を音声で聞き、そして、音読することを続けてください。予習の段階では全く意味がわからなくとも、音読をすることで‘響き’が印象付けられ、授業でその内容の説明を聞くことでより深い理解ができるでしょう。
・02～07生は読替一覧参照

さ　行

科目名　クラス　講義区分	
スペイン語Ⅰｂ　01＜春＞ スペイン語Ⅰｂ　02＜春＞	
浅　井　るり子	１単位

【講義概要】
英語に次いで世界で数多くの国々で使用されているスペイン語を学ぶことにより、スペイン語を話す国々の文化などにも触れ、異文化理解を深めるとともに、幅広い視野をもった国際人を育てる。視聴覚教材も活用し、日常会話から時事問題まで幅広い話題を取り上げ、積極的にコミュニケーションを図る態度を育てる。

【学習目標】
基本的語彙と初級文法の習得を目標とするが、文法が話す力・聞く力と平行して向上するように、徹底した反復練習を行う。実際役立つ簡単な表現など、慣れ親しみ進めていく。積極的に授業に参加して、耳、目、口をフルに使ってほしい。

【講義計画】
第１回　授業の概要･方針説明
　　簡単な挨拶、自己紹介
第２回　アルフアベット、発音、アクセント
第３回　名詞の性、名詞の数、冠詞、基数（０～10）
第４回　主語人称代名詞、人を紹介する　疑問文、否定文
第５回　動詞serの直説法現在形活用　基数（11～20）
第６回　直説法現在・規則動詞（－ar動詞）基数(復習)
第７回　直説法現在・規則動詞（－er動詞、－ir動詞）基数（21～50）
第８回　復習、中間試験
第９回　時刻の表現　基数（50～100）
第10回　動詞estarの直説法現在形活用
第11回　hayの用法、指示詞　基数（101～1000）
第12回　１人称単数が不規則な動詞、天気、月と季節
第13回　語幹母音変化動詞、基数（1000以上の数）
第14回　総合復習
第15回　試験

【成績評価の方法】
試験　30%　レポート　10%　出席　60%
平常点(授業における積極性、反応度、理解度）を基本とする。２回の筆記試験と適宜の小テストあるいはオーラル試験を授業中に行う。作文など提出物を求める場合もある。出席とこれらの材料から受講生各個の能力を総合的に判断して評価決定する。

【教科書】
四宮瑞枝、落合佐枝、Paloma Trenado Dean,Maria del Socorro Franco de Misawa アクション！ 白水社
教科書の他に辞書を必ず授業に持ってくること、スペイン語辞書（西ー和･西ー和）が一冊になっているもの、出版社等は特に指定しない。

【参考文献】
『スペイン語速修15日』細川幸夫　著　創拓社出版
『スペイン語の入門』瓜谷良平　著　白水社
『しっかり学ぶスペイン語』桜庭雅子　貫井一美　ベレ出版社

【備考】
・02～07生は読替一覧参照

科目名　クラス　講義区分	
スペイン語Ⅱａ　01＜秋＞ スペイン語Ⅱａ　02＜秋＞	
小　林　暁　子	１単位

【講義概要】
スペイン語は、スペイン、ラテンアメリカ諸国、アメリカ合衆国など多くの国々で使われる国際的な言語である。スペイン語を学ぶことは、‘言語’そのものだけでなく、ラテンの文化や歴史、そして多くの人々と触れ合える‘きっかけ’となる。本講義では、文法事項のみならず、音楽や映像なども用いて、より多くのスペイン語圏の文化を紹介していくので、受講者は、‘自分が興味を持てる分野’をいち早く見つけて欲しい。そのことが、学習をより一層楽しくさせ、スペイン語上達への近道にもなり得る。

【学習目標】
本講義では、「基礎的な文法知識を習得しながら、使えるスペイン語力を身につける」ことを目標とする。そのために、授業では数多くの会話文を用いながら、より多くの表現に触れ、「聞く・話す・読む・書く」すべての面において着実に基礎を固めていく。

【講義計画】
第１回　基本動詞活用の復習
第２回　目的語の人称代名詞（直接目的語）
第３回　目的語の人称代名詞（間接目的語）
第４回　動詞querer（～が欲しい）の表現応用
第５回　動詞tener（～を持っている）の表現応用
第６回　動詞ir（～へ行く）の表現応用
第７回　動詞gustar（～が好きです）の表現
第８回　比較の表現
第９回　再帰動詞
第10回　再帰動詞
第11回　過去の表現（点過去）
第12回　過去の表現（線過去）
第13回　過去の表現　まとめ
第14回　総復習
第15回　試験

【成績評価の方法】
試験　20%　出席　60%
出席60%+試験20%+平常点20%（平常点＝課題提出、小テスト、授業態度等の総合評価）

【教科書】
阿由葉　恵理子 スペイン語レッスン初級１ スリーエーネットワーク
※　講義には、上記テキストのほかに、スペイン語辞典（西-和・和-西が１冊にまとめられた小辞典が望ましい）を必ず持参すること。出版社等は特に指定しない。

【参考文献】
『ポケットプログレッシブ　西和・和西辞典』高垣　敏博　ほか編　小学館
『スペイン語ミニ辞典』宮城　昇・宮本　博司　編　白水社
『CD付　やさしいスペイン語文法』大岩　功　著　三修社
『ニューエクスプレス　スペイン語（CD付)』福嶌　教隆　著　白水社

【備考】
【準備学習の指示】
①教科書付属のCDを予習・復習として活用することを強く勧めます。ただ聞き流すだけでなく、ディクテーションや音読を繰り返すとより学習の効果が増します。
②教科書を始め、より多くの練習問題を解くこと。スペイン語では基礎がとても重要です。自分が本当に理解できているか確認しながら学習を進めていきましょう。
・02～07生は読替一覧参照

科目名　クラス　講義区分	
スペイン語Ⅱｂ　01＜秋＞ スペイン語Ⅱｂ　02＜秋＞	
浅　井　るり子	１単位

【講義概要】
英語に次いで世界で数多くの国々で使用されているスペイン語を学ぶことにより、スペイン語を話す国々の文化などにも触れ、異文化理解を深めるとともに、幅広い視野をもった国際人を育てる。視聴覚教材も活用し、日常会話から時事問題まで幅広い話題を取り上げ、積極的にコミュニケーションを図る態度を育てる。

【学習目標】
基本的語彙と初級文法の習得を目標とするが、文法が話す力・聞く力と平行して向上するように、徹底した反復練習を行う。実際役立つ簡単な表現など、慣れ親しみ進めていく。積極的に授業に参加して、耳、目、口をフルに使ってほしい。

【講義計画】
第１回　春学期の復習
第２回　venir,tener,decir,oir　動詞の活用、会話
第３回　旅行の計画を立てる　ir 動詞
第４回　趣味について話す　gustar動詞
第５回　比較、前置詞人称代名詞
第６回　再帰動詞活用、用法　生活習慣を述べる
第７回　体調や気分を述べる
第８回　復習、中間試験
第９回　現在分詞　estar+現在分詞
第10回　過去分詞　直説法現在完了
第11回　直接法点過去形　規則活用
第12回　直接法点過去形　不規則活用
第13回　直説法線過去形　規則活用　不規則活用
第14回　総合復習
第15回　試験

【成績評価の方法】
試験　30%　レポート　10%　出席　60%
平常点(授業における積極性、反応度、理解度）を基本とする。２回の筆記試験と適宜の小テストあるいはオーラル試験を授業中に行う。作文など提出物を求める場合もある。出席とこれらの材料から受講生各個の能力を総合的に判断して決定する。

【教科書】
四宮瑞枝、落合佐枝、Paloma Trenado Dean,Maria del Socorro Franco de Misawa アクション！ 白水社
教科書の他に辞書を必ず授業に持ってくること、スペイン語辞典（西ー和・和ー西）が一冊になっているもの、出版社は特に指定しない。

【参考文献】
『スペイン語速修15日』細川幸夫　著　創拓社出版
『スペイン語の入門』瓜谷良平　著　白水社
『しっかり学ぶスペイン語』桜庭雅子　貫井一美　ベレ出版

【備考】
・02～07生は読替一覧参照

科目名　クラス　講義区分	
スペイン語Ⅲａ　01＜春＞	
Gonzales Dario	１単位

【講義概要】
スペイン語の基本的な知識を応用した読解力、会話力を身につける。講義は視聴覚機材や辞書を活用しながら進めるので辞書の携帯は不可欠である。又、人に聞き取れる声で話すことは会話の基本となるので、学生諸君には口をしっかり開けて話すように心掛けてほしい。国際的な感覚や、視野を広げるためにもスペインや中南米諸国の生活習慣や文化についても適宜触れて幅広く学習を進めていきたいと考えている。

【学習目標】
英語に次いで数多い国々で使用されているスペイン語は、近年世界経済の動向、国際交流、観光の面から使用する機会が増えている現状から、実践的に使えるコミュニケーションの出来るスペイン語を目指す。

【講義計画】
第１回　イントロダクション
第２回　基本的な挨拶用語(１)
第３回　基数と時間
第４回　カフェテリア
第５回　観光訪問
第６回　市場
第７回　疑問詞を活用しての会話
第８回　復習
第９回　病院と薬局
第10回　家庭訪問
第11回　感情や好みを伝える表現
第12回　観光訪問
第13回　催物
第14回　まとめ

【成績評価の方法】
出席と授業の積極的参加（60%）と口頭テスト（40%）を総合的に評価する。

【教科書】
プリント配布

【参考文献】
適宜必要な際は指示します。

【備考】
・02～07生は読替一覧参照

科目名　クラス　講義区分	
スペイン語Ⅲａ　02<春>	
小　林　暁　子	1単位

【講義概要】
いよいよ初級から中級へさしかかる段階である。スペイン語の上達のために重要なのは、まず基礎をしっかり固めた上で、更なる文法事項を身につけることである。そのために本講義では、既に学んだ内容の反復練習と、新たな文法事項の習得を同時進行で行っていく。更に、実際の生活や旅行の際に使える表現を、視聴覚教材の活用やロールプレイングを通して数多く扱っていくので、受講者は積極的な姿勢で参加して欲しい。また、自分自身で、わからない単語を辞書で調べたり、正しい動詞の活用を表で確認したりと、日々の地道な努力を続けることが上達には不可欠であることを忘れないこと。

【学習目標】
本講義では、「基本文法の理解を更に深めながら、学んだ内容を応用し、自分自身で様々なことをスペイン語で表現できるような実践力、コミュニケーション力を高める」ことを目標とする。

【講義計画】
第１回　過去形までの復習
第２回　未来の表現
第３回　現在進行形
第４回　現在完了
第５回　受身の文
第６回　過去未来
第７回　関係代名詞
第８回　関係副詞
第９回　命令の表現
第10回　接続法現在（願望）
第11回　接続法現在（疑惑）
第12回　接続法現在（感情）
第13回　接続法現在（価値判断）
第14回　総復習
第15回　試験

【成績評価の方法】
試験　20%　出席　60%
出席60%+試験20%+平常点20%（平常点＝課題提出、小テスト、授業態度等の総合評価）

【教科書】
阿由葉　恵理子 スペイン語レッスン初級１ スリーエーネットワーク
※　講義には、上記テキストのほかに、スペイン語辞典（西-和・和-西が１冊にまとめられた小辞典が望ましい）を必ず持参すること。出版社等は特に指定しない。

【参考文献】
『ポケットプログレッシブ　西和・和西辞典』高垣　敏博　ほか編　小学館
『スペイン語ミニ辞典』宮城　昇・宮本　博司　編　白水社
『接続法を使って話そうスペイン語』吉川　恵美子　著　NHK出版
『スペイン語レッスン初級２』阿由葉　恵理子　著　スリーエーネットワーク

【備考】
【準備学習の指示】
①教科書付属のCDの活用すること：ディクテーションや音読を‘継続して’行うと学習効果が増します。
②練習問題を解くこと：自分が本当にその文法事項を理解できているか確認しながら基礎を確実にしていきましょう。
③より多くの文章を読む：自己学習を進めたい人は、とにかく文章を‘自力’で訳していきましょう。まずは短めの文章から挑戦してください。こまめに辞書と活用表を調べることを続けていけば語彙も着実に増えます。
・02～07生は読替一覧参照

科目名　クラス　講義区分	
スペイン語Ⅲｂ　01<春>	
浅　井　るり子	1単位

【講義概要】
スペイン語の基礎的な知識を応用して力を伸ばし、実践的にコミュニケーション出来るよう目指す。前年次に継続して基本的な文法を生かしながら、読解力、会話力、観光や国際交流に役立つ表現や知識、そして語彙数を伸ばす学習を進めていく。会話は積極的に反復練習し、文法が話す力と聞く力と平行して向上するように徹底した反復練習を行う。視聴覚教材を活用し国際的感覚や、視野を広める為に、スペインやラテンアメリカを中心に多くの国の生活習慣、文化や音楽などについても触れて、幅広く学習を進めていく。積極的に授業に参加してほしい。

【学習目標】
基本的語彙と初級文法の理解をさらに深め、文法が話す力・聞く力と平行して向上するように、徹底した反復練習を行いながら、応用力、実践力を育て、慣れ親しみ進めていく。積極的に授業に参加して、耳、目、口をフルに使ってコミュニケーション力を高めてほしい

【講義計画】
第１回　授業の概要･方針説明
　　スペイン語I.IIの復習と実践練習
第２回　喫茶店などでの注文、ﾊﾟｰﾃｨでの対応、色んな祭りや行事
第３回　銀行での両替、お金の数え方や言い方
第４回　人や物を描写する、形容詞
第５回　試着と買い物hayの用法Gustar の動詞
第６回　再帰動詞の直説法現在形　体調について述べる
第７回　直説法点過去形　規則活用･不規則活用
第８回　復習、中間試験
第９回　過去分詞　直説法現在完了形
第10回　直説法線過去形・規則活用・不規則活用
第11回　DVD教材を利用してヒヤリング力を身につける
第12回　曜日･日付・時刻未来形、スケージュールをスペイン語で述べる
第13回　直説法過去未来
第14回　接続法現在、総合復習
第15回　試験

【成績評価の方法】
試験　30%　レポート　10%　出席　60%
平常点（会話や例文の完成度、文法の理解度、授業における積極性、反応度）と授業中に行う小テスト（筆記または口頭）、レポートなど、と出席点で受講生各個の能力を総合的に判断して評価を決定する。

【教科書】
高橋覚二、伊藤ゆかり、杓谷茂樹、Maria Fernandez『スペイン語を学ぼうよ！』朝日出版社
教科書の他に辞書を必ず授業に持ってくること、スペイン語辞典(西―和･和―西)が一冊になっているもの、出版社等は特に指定しない。

【参考文献】
『スペイン語速修15日』細川幸夫　著　創拓社出版
『スペイン語文法ドリル』西村君代、菊田和圭子、斉藤華子、高垣敏博、宮本正美、Francisco Barrera　朝日出版社
『スペイン語語彙練習帳』GIDE語彙研究班　編　朝日出版社
『愛でる！スペイン語DVD』福島教隆　朝日出版社

【備考】
・02～07生は読替一覧参照

科目名　クラス　講義区分	
スペイン語Ⅲｂ　02<春>	
Gonzales Dario	1単位

【講義概要】
スペイン語の基本的な知識を応用した読解力、会話力を身につける。講義は視聴覚機材や辞書を活用しながら進めるので辞書の携帯は不可欠である。又、人に聞き取れる声で話すことは会話の基本となるので、学生諸君には口をしっかり開けて話すように心掛けてほしい。国際的な感覚や、視野を広げるためにもスペインや中南米諸国の生活習慣や文化についても適宜触れて幅広く学習を進めていきたいと考えている。

【学習目標】
英語に次いで数多い国々で使用されているスペイン語は、近年世界経済の動向、国際交流、観光の面から使用する機会が増えている現状から、実践的に使えるコミュニケーションの出来るスペイン語を目指す。

【講義計画】
第１回　イントロダクション
第２回　基本的な挨拶用語(１)
第３回　基数と時間
第４回　カフェテリア
第５回　観光訪問
第６回　市場
第７回　疑問詞を活用しての会話
第８回　復習
第９回　病院と薬局
第10回　家庭訪問
第11回　感情や好みを伝える表現
第12回　観光訪問
第13回　催物
第14回　まとめ

【成績評価の方法】
出席と授業の積極的参加（60%）と口頭テスト（40%）を総合的に評価する。

【教科書】
プリント配布

【参考文献】
適宜必要な際は指示します。

【備考】
・02～07生は読替一覧参照

科目名　クラス　講義区分	
スペイン語Ⅳａ　01<秋>	
Gonzales Dario	1単位

【講義概要】
スペイン語の基本的な知識を応用した読解力、会話力を身につける。講義は視聴覚機材や辞書を活用しながら進めるので辞書の携帯は不可欠である。又、人に聞き取れる声で話すことは会話の基本となるので、学生諸君には口をしっかり開けて話すように心掛けてほしい。国際的な感覚や、視野を広げるためにもスペインや中南米諸国の生活習慣や文化についても適宜触れて幅広く学習を進めていきたいと考えている。

【学習目標】
英語に次いで数多い国々で使用されているスペイン語は、近年世界経済の動向、国際交流、観光の面から使用する機会が増えている現状から、実践的に使えるコミュニケーションの出来るスペイン語を目指す。

【講義計画】
第１回　イントロダクション
第２回　基本的な挨拶用語(２)
第３回　空港
第４回　タクシー乗り場
第５回　ホテル
第６回　観光訪問
第７回　両替所
第８回　観光訪問
第９回　レストラン
第10回　乗り物
第11回　クリスマスと新年
第12回　ラテンアメリカ
第13回　意見を述べる表現
第14回　まとめ

【成績評価の方法】
出席と授業の積極的参加（60%）と口頭テスト（40%）を総合的に評価する。

【教科書】
プリント配布

【参考文献】
適宜必要な際は指示します。

【備考】
・02～07生は読替一覧参照

科目名　クラス　講義区分	
スペイン語Ⅳａ　02＜秋＞	
小　林　暁　子	１単位

【講義概要】
本講義では、習得した基本的事項を実際に活用していけるよう、多様なアプローチで実践的な練習を行っていく。日常的に用いる会話は勿論のこと、ディクテーション、スピーチ、講読、作文等を取り入れることで、「聞く・話す・読む・書く」という総合的な能力を養っていく。受講者は、これまで努力して学んできた成果を、自分自身のスペイン語で大いに表現できるようになって欲しい。

【学習目標】
本講義では、「基本文法の理解を更に深めながら、学んだ内容を応用し、自分自身で様々なことをスペイン語で表現できるような実践力、コミュニケーション力を高める」ことを目標とする。

【講義計画】
第１回　接続法現在（願望/疑惑/感情/価値判断）復習
第２回　接続法現在（その他の主要表現）
第３回　接続法現在（その他の主要表現）
第４回　接続法過去
第５回　接続法過去
第６回　旅行会話/講読
第７回　旅行会話/講読
第８回　日本を観光案内/講読
第９回　料理/講読
第10回　病院での表現/講読
第11回　電話表現/講読
第12回　作文
第13回　作文
第14回　総復習
第15回　試験

【成績評価の方法】
試験　20%　出席　60%
出席60%+試験20%+平常点20%（平常点＝課題提出、小テスト、授業態度等の総合評価）

【教科書】
阿由葉　恵理子 スペイン語レッスン初級１ スリーエーネットワーク
※　講義には、上記テキストのほかに、スペイン語辞典（西-和・和-西が１冊にまとめられた小辞典が望ましい）を必ず持参すること。出版社等は特に指定しない。

【参考文献】
『ポケットプログレッシブ　西和・和西辞典』高垣　敏博　ほか編　小学館
『スペイン語ミニ辞典』宮城　昇・宮本　博司　編　白水社
『接続法を使って話そうスペイン語』吉川　恵美子　著　NHK出版
『スペイン語レッスン初級２』阿由葉　恵理子　著　スリーエーネットワーク

【備考】
【準備学習の指示】
①教科書付属のCDの活用すること：ディクテーションや音読を‘継続して’行うと学習効果が増します。
②練習問題を解くこと：自分が本当にその文法事項を理解できているか確認しながら基礎を確実にしていきましょう。
③より多くの文章を読む：自己学習を進めたい人は、とにかく文章を‘自力’で訳していきましょう。まずは短めの文章から挑戦してください。こまめに辞書と活用表を調べることを続けていけば語彙も着実に増えます。
・02～07生は読替一覧参照

科目名　クラス　講義区分	
スペイン語Ⅳｂ　01＜秋＞	
浅　井　るり子	１単位

【講義概要】
基本的語彙と文法などの知識を応用して実践的に使えるスペイン語を目標としながら日常会話や、読解力、文化、観光、映画等についても紹介していく。国際交流に役立つ話す力、聞く力と平行して向上するように徹底した反復練習を行う。積極的に授業に参加して、少しでもマスターできるよう努力してほしい。

【学習目標】
基本的語彙と初級文法の理解をさらに深め、実践的な演習形式を多く取り入れて、聞く力･話す力の向上を目指す。国際交流に役立つ会話力、読解力、文化、観光、映画等について少し意見が述べられるよう目指す。

【講義計画】
第１回　一日の日常生活を語る　再帰動詞の直説法現在形
第２回　現在までの経験について語る　直説法現在完了
第３回　過去の出来事を直説法点過去で会話する
第４回　比較級を使用し、語彙を増やし文章作成する
第５回　過去での出来事を直説法点過去と線過去で語る。
第６回　明日の計画について、疑問詞を用いて疑問文、肯定文、否定文
第７回　春、夏、冬休みの計画や過ごし方、将来の展望を未来形で語る
第８回　命令文利用し、実践的に行いながら反復練習する
第９回　依頼する･許可を求める･与える･助言する
第10回　手紙を書く、現在形･現在完了形・現在進行形
第11回　予定を述べる・天候について述べる
第12回　日本を紹介(学習した知識を活かしショートスピーチなど)
第13回　意見を述べる･自分について述べる･感情を述べる
第14回　人の一生を語る･思い出を語る、ビデオ鑑賞
第15回　試験

【成績評価の方法】
試験　30%　レポート　10%　出席　60%
平常点（会話や例文の完成度、文法の理解度、授業における積極性、反応度）と授業中に行う小テスト（筆記または口頭）、レポートなど、と出席点で受講生各個の能力を総合的に判断して評価を決定する。

【教科書】
高橋覚二、伊藤ゆかり、杓谷茂樹、Maria Fernandez『スペイン語を学ぼうよ！』朝日出版社
教科書の他に辞書を必ず授業に持ってくること、スペイン語辞典(西ー和･和ー西)が一冊になっているもの、出版社等は特に指定しない。

【参考文献】
『スペイン語速修15日』細川幸夫　著　創拓社出版
『スペイン語文法ドリル』西村君代、菊田和圭子、斉藤華子、高垣敏博、宮本正美、Francisco Barrera　朝日出版社
『スペイン語語彙練習帳』GIDE語彙研究班　編　朝日出版社
『愛でる！スペイン語DVD』福島教隆　朝日出版社

【備考】
・02～07生は読替一覧参照

科目名　クラス　講義区分	
スペイン語Ⅳｂ　02＜秋＞	
Gonzales Dario	１単位

【講義概要】
スペイン語の基本的な知識を応用した読解力、会話力を身につける。講義は視聴覚機材や辞書を活用しながら進めるので辞書の携帯は不可欠である。又、人に聞き取れる声で話すことは会話の基本となるので、学生諸君には口をしっかり開けて話すように心掛けてほしい。国際的な感覚や、視野を広げるためにもスペインや中南米諸国の生活習慣や文化についても適宜触れて幅広く学習を進めていきたいと考えている。

【学習目標】
英語に次いで数多い国々で使用されているスペイン語は、近年世界経済の動向、国際交流、観光の面から使用する機会が増えている現状から、実践的に使えるコミュニケーションの出来るスペイン語を目指す。

【講義計画】
第１回　イントロダクション
第２回　基本的な挨拶用語（２）
第３回　空港
第４回　タクシー乗り場
第５回　ホテル
第６回　観光訪問
第７回　両替所
第８回　観光訪問
第９回　レストラン
第10回　乗り物
第11回　クリスマスと新年
第12回　ラテンアメリカ
第13回　意見を述べる表現
第14回　まとめ

【成績評価の方法】
出席と授業の積極的参加（60%）と口頭テスト（40%）を総合的に評価する。

【教科書】
プリント配布

【参考文献】
適宜必要な際は指示します。

【備考】
・02～07生は読替一覧参照

科目名　クラス　講義区分	
スポーツ文化論　＜通期＞	
井　上　邦　子	４単位

【講義概要】
スポーツといえばオリンピック競技を代表とする競技スポーツのみに注目されがちであるが、それを「文化」として考えるならば、民族スポーツ、過去スポーツ、武道や舞踊、遊び、養生などをも含めた、より広義の領域として捉えなおすこともできる。そうした広義の「スポーツ文化」とは、あらゆる時代のあらゆる地域の人々に独自の世界観の中で伝承されてきた、多様な内容をもつものである。本講義では、そうしたスポーツ文化の多様性を多面的に捉えなおし、現代に生きる我々にとってスポーツ文化とは何かを考察する。

【学習目標】
本講義では、①スポーツ文化の歴史②民族のスポーツ文化③スポーツと「21世紀の身体」の３つの観点からスポーツ文化を考察することを目的とする。まず、スポーツ文化をその起源から現代まで歴史的視点から理解し、続いて世界各地域のスポーツ文化に関して民族学的視点から考察することにより、スポーツ文化の多面的な理解を深める。その後、スポーツを身体論の立場から考えることにより、スポーツ文化の今日的テーマの理解を深める。

【講義計画】
第１回　ガイダンス
第２回　「スポーツ」および「文化」概念の理解
第３回　「スポーツ文化」というまなざし
第４回　スポーツ文化の歴史①スポーツ文化の起源１
第５回　②スポーツ文化の起源２
第６回　③古代のスポーツ文化
第７回　④前近代のスポーツ文化
第８回　⑤近代スポーツの誕生１
第９回　⑥近代スポーツの誕生２
第10回　⑦現代生活とスポーツ文化１
第11回　⑧現代生活とスポーツ文化２
第12回　民族のスポーツ文化①「民族スポーツ」の文化について
第13回　②日本の民族スポーツ文化
第14回　③アジアの民族スポーツ文化
第15回　④ヨーロッパの民族スポーツ文化
第16回　⑤オセアニアの民族スポーツ文化
第17回　⑥アフリカの民族スポーツ文化
第18回　⑦民族スポーツの祝祭性
第19回　⑧民族スポーツの現代的意味
第20回　スポーツと「21世紀の身体」①21世紀の身体の問題
第21回　②スポーツ文化と身体
第22回　③共同体とスポーツ
第23回　④「オリンピック」からみる身体
第24回　⑤身体の表象性とスポーツ
第25回　⑥スポーツと身体技法
第26回　⑦世界観・身体・スポーツ１
第27回　⑧世界観・身体・スポーツ２
第28回　まとめ
第29回　試験

【成績評価の方法】
試験　40%　レポート　20%　出席　40%
成績は、期末に課す試験ならびに、出席点、授業中のレポートにおいて総合的に評価します。

【教科書】
稲垣正浩・今福龍太・西谷修　近代スポーツのミッションは終わったか　平凡社

【参考文献】
船井廣則・松本芳明・三井悦子・竹谷和之編著『スポーツ学の冒険』，黎明書房，ISBN　978-４-654-01821-５

【備考】
準備学習の指示
テキストで指定した『近代スポーツのミッションは終わったか』（稲垣正浩・今福龍太・西谷修著、平凡社）を読み、理解できない語彙について辞書等で調べ、意味を理解できるようにしておいてください。

さ行

科目名　クラス　講義区分	
生産管理論　＜春集＞	
信　夫　千佳子	４単位

【講義概要】
本講義では、現代の生産システムについて発展過程に沿って概説する。まず、戦後アメリカから導入された「大量生産システム」や「統計的品質管理」などを説明する。次に、トヨタ自動車が独自に開発したトヨタ生産システム、そのトヨタ生産システムが海外からは「リーン生産システム」と呼ばれて普及していった経緯、1990年代以降、電機・電子業界などを中心に普及した「セル生産システム」などについて紹介する。トヨタ自動車、ソニー、NEC、KOA、前川製作所等の事例の紹介も行う。最後に、「ポスト・リーン（次世代）生産システム」と私たちの未来の生活について学生諸君と議論したい。

【学習目標】
本講義は、特に日本企業において優れた製品がどのように生み出され管理されているかについて基礎的な知識を修得することが目標である。日本企業は、自動車、家電製品や携帯電話など、世界的に高い評価を得ている製品を次々に生み出している。しかしながら、学生はそれらの生産システムについて直接接する機会は少ない。本講義では、教科書に準拠しながら、具体的な生産システムをパワーポイントやビデオなどで紹介する。製造関係はもとより、営業・販売、企画・開発、会計などの職種にも必要な経営管理の基礎知識である。

【講義計画】
第１回　オリエンテーション　授業の進め方と受け方
第２回　生産とは　生産管理とは
第３回　テイラー・システムー標準化ー
第４回　フォード生産システムー標準化、専門化、単純化ー
第５回　大量生産システムの特徴
第６回　統計的品質管理
第７回　QCサークルと提案制度ーKAIZENー
第８回　トヨタ生産システムー多品種少量生産システムー
第９回　トヨタ生産システムの特徴ーJITと自働化ー
第10回　トヨタ生産システムの方策
第11回　トヨタ生産システムからリーン生産システムへ
第12回　リーン生産システムの限界
第13回　CIMーコンピュータ統合生産システムー
第14回　CIMの事例（ビデオ）
第15回　CIMとリーン生産システム
第16回　小括
第17回　セル生産システムの導入経緯ー1990年代以降の製造業界ー
第18回　セル生産システムの事例ーソニー、NEC、KOAなどー
第19回　不確定性とセル生産システム
第20回　小括ー日本の生産システムー
第21回　海外の生産システムーアメリカー
第22回　海外の生産システムードイツー
第23回　海外の生産システムースウェーデンー
第24回　海外の生産システムーイタリアー
第25回　ポスト・リーン生産システムー自律化の視点からー
第26回　ポスト・リーン生産システムー統合化の視点からー
第27回　ポスト・リーン生産システムー前川製作所の事例ー
第28回　ポスト・リーン生産システムーセル事業システムの構想
第29回　未来の生産システムと私たちの生活
第30回　まとめ

【成績評価の方法】
試験　100％　レポート　０％　出席　０％

【教科書】
信夫千佳子　ポスト・リーン生産システムの探究ー不確定性への企業適応ー　文眞堂

【参考文献】
随時指示する。

【備考】
準備学習の指示：原則として、経営学、経営管理、経営学基礎などの経営関係の単位を修得してから履修してください。３回生以上で履修することが望ましい。

科目名　クラス　講義区分	
政治学　＜春集＞	
小　宮　　京	４単位

【講義概要】
現代の政治を理解するために、西欧で生まれた近代政治思想・制度・国家体制などを講義する。その後、国際政治へと視野を広げ、そして日本政治の過去と現在を講義する。
具体的には、講義の前半は近代に限定し、西欧の政治思想や学説を背景にして国家の特質や近代デモクラシーの原理を中心に論じる。中盤は、現代世界の政治的課題を国際政治システムの形成と変遷、民族紛争や環境問題といった現代的課題も論じる。後半は、明治以降から現在にいたる日本政治、さらに日本国憲法下の行政機構や政策形成過程、選挙制度などを論じる。
全体を通して、思想、歴史、さらに世界や日本といった幅広い対象を取り上げ、多面的なアプローチにより、日本をはじめ現代世界の直面する政治問題を考える基礎的な講義を目指す。

【学習目標】
（１）西洋の近代を通じて、基礎的な政治学的概念を身に付けること。
（２）国際政治を通じて、現代の政治的課題を理解すること。
（３）日本政治の過去と現在を理解すること。
日本をはじめ現代世界の直面する政治問題を理解・考察するために必要な、基礎的な政治学的概念、歴史的経緯など、基礎的な知識を獲得する。

【講義計画】
第１回　政治学とは何か
第２回　近代国家の成立
第３回　ルネサンスと大航海時代
第４回　宗教改革
第５回　近代政治思想の形成①
第６回　近代政治思想の形成②
第７回　議会政治の発達
第８回　啓蒙思想の発展
第９回　アメリカ独立革命と自由・平等
第10回　フランス革命と市民革命
第11回　社会主義
第12回　大衆民主主義とファシズム
第13回　国際政治①　ウェストファリア体制から20世紀初頭まで
第14回　国際政治②　２つの世界大戦
第15回　国際政治③　国際連合の設立から冷戦の終結まで
第16回　国際政治④　主権国家の変貌と欧州連合の成立
第17回　国際政治⑤　民族紛争、テロリズム
第18回　国際政治⑥　南北問題、人権、環境
第19回　明治憲法と政党政治
第20回　政党政治の時代
第21回　政党政治の終焉
第22回　55年体制
第23回　日本の政治機構
第24回　日本の政策決定過程
第25回　日本の行政機構
第26回　日本の選挙制度
第27回　メディアと政治
第28回　現代日本政治の課題
第29回　まとめ（１）
第30回　まとめ（２）

【成績評価の方法】
試験　100％
春学期末試験のみで評価する。

【教科書】
特定の教科書は使用しない。

【参考文献】
天川晃・御厨貴・牧原出『日本政治外交史　転換期の政治指導』放送大学教育振興会、2007年
久米郁男・川出良枝・古城佳子・田中愛治・真渕勝『政治学』有斐閣、2003年
成美堂出版編集部編『図解世界史』成美堂出版、2006年

【備考】
【準備学習の指示】教室で毎回配布される講義レジュメの指示に従って、参考文献の関連部分を予習・復習してください。

科目名　クラス　講義区分	
政治学原論　＜秋集＞	
小　宮　　京	4単位

【講義概要】
現在の日本が直面している政治問題を理解するためには，政治学の基本的な知識を身に付けることのみならず、日本のこれまでの歩みに関する知識が不可欠です。本講義では、最初に現在の日本政治の中心である政党と政治家に関して、基礎的な概念や制度について説明します。次に20世紀の日本の歩みを概観します。最後に現代の政治思想や政治も紹介します。
　本講義は「政治学」と若干重複していますが、より現代的、かつ、より日本に特化した内容です。

【学習目標】
（1）　日本政治の中心である政党に関する政治学的概念を身に付けること。
（2）　20世紀の日本政治に関する基礎的知識を身に付けること。

【講義計画】
第１回　政治学について
第２回　政治システム
第３回　政党
第４回　政党システム
第５回　選挙制度
第６回　政党間競争と連合
第７回　有権者の政治意識と投票行動
第８回　政策過程
第９回　日本政治のアクター①
第10回　日本政治のアクター②
第11回　日本政治①　大日本帝国憲法
第12回　日本政治②　明治末期
第13回　日本政治③　大正デモクラシー
第14回　日本政治④　政党政治
第15回　日本政治⑤　戦争と社会
第16回　日本政治⑥　総括
第17回　日本政治⑦　占領期
第18回　日本政治⑧　講和独立
第19回　日本政治⑨　安保闘争から高度成長まで
第20回　日本政治⑩　社会政策と沖縄返還
第21回　日本政治⑪　保革対立から生活保守へ
第22回　日本政治⑫　自民党一党支配の終焉
第23回　日本政治⑬　連立政権
第24回　日本政治⑭　政権交代
第25回　現代政治思想①
第26回　現代政治思想②
第27回　現代政治の課題①
第28回　現代政治の課題②

【成績評価の方法】
試験　100%
秋学期末試験のみで評価する。

【教科書】
特定の教科書は使用しない。

【参考文献】
天川晃・御厨貴・牧原出『日本政治外交史　転換期の政治指導』放送大学教育振興会、2007年
石川真澄『戦後政治史　新版』岩波書店、2004年
川人貞史・吉野孝・平野浩・加藤淳子『現代の政党と選挙』有斐閣、2001年
北山俊哉・久米郁男・真渕勝『はじめて出会う政治学〔第３版〕』有斐閣、2009年
佐々木毅『政治学講義』東京大学出版会、1999年

【備考】
【準備学習の指示】教室で毎回配布される講義レジュメの指示に従って、参考文献の関連部分を予習・復習してください。

科目名　クラス　講義区分	
精神医学　＜通期＞	
岡　田　　章	4単位

【講義概要】
精神医学全般について、総論と各論に分け、前者では主に脳の解剖学的構造や精神症状について、後者では認知症から自閉症を中心とした広汎性発達障害まで個別の疾患について最新の知見に基づいて講義を行う。講義において理解を深めるためDVDやビデオを使用する予定である。

【学習目標】
1　精神医学、精神医療の歴史を理解させる。
2　脳および神経の生理・解剖の基礎を理解させる。
3　精神医学の概念について理解させる。
4　精神医学の診断の基本的な方法について理解させる。
5　代表的な精神障害について理解させる。
6　治療の概要について理解させる。
7　病院精神医学および地域精神医学について理解させる。

【講義計画】
第１回　精神医学の概念
　　1.精神医学の概念
　　2.精神障害の分類、診断
　　3.精神障害の頻度
　　4.精神障害の問題点
第２回　脳および神経の生理・解剖（1）
　　1）形態的構造
　　2）神経細胞
　　3）神経膠細胞
　　4）脳の発達
第３回　脳および神経の生理・解剖（2）
　　1）形態的構造
　　2）神経細胞
　　3）神経膠細胞
　　4）脳の発達
第４回　脳および神経の生理・解剖（3）
　　1）形態的構造
　　2）神経細胞
　　3）神経膠細胞
　　4）脳の発達
第５回　脳および神経の生理・解剖（4）
　　1）形態的構造
　　2）神経細胞
　　3）神経膠細胞
　　4）脳の発達
第６回　精神症状（1）
　　1）精神症状
　　2）精神状態像（精神病像）、症候群
　　3）神経心理学的症状（巣症状）
第７回　精神症状（2）
　　1）精神症状
　　2）精神状態像（精神病像）、症候群
　　3）神経心理学的症状（巣症状）
第８回　精神症状（3）
　　1）精神症状
　　2）精神状態像（精神病像）、症候群
　　3）神経心理学的症状（巣症状）
第９回　精神科診断学
第10回　精神科の臨床検査（1）
第11回　精神科の臨床検査（2）
第12回　精神科の治療（1）
　　1.身体療法
　　2.精神療法
　　3.行動療法、活動療法、認知療法
　　4.社会療法、環境療法
　　5.リエゾン精神医学
第13回　精神科の治療（2）
　　1.身体療法
　　2.精神療法
　　3.行動療法、活動療法、認知療法
　　4.社会療法、環境療法
　　5.リエゾン精神医学
第14回　症状性を含む器質性障害（1）
　　1.総論

さ　行

2.認知症を主とする器質性精神障害
第15回　症状性を含む器質性障害(2)
1.総論
2.認知症を主とする器質性精神障害
第16回　症状性を含む器質性障害(3)
1.総論
2.認知症を主とする器質性精神障害
第17回　症状性を含む器質性障害(4)
1.総論
2.認知症を主とする器質性精神障害
第18回　症状性を含む器質性障害(5)
1.総論
2.認知症を主とする器質性精神障害
第19回　統合失調症
第20回　気分障害
第21回　神経症性障害(1)
第22回　神経症性障害(2)
第23回　精神作用物質使用による精神および行動の障害
第24回　人格障害
第25回　生理的障害および身体的要因に関連した行動症候群
第26回　てんかん
第27回　児童青年期の精神障害(1)
第28回　児童青年期の精神障害(2)
第29回　精神医学と社会

【成績評価の方法】
試験　50%　レポート　50%
前期：レポート
後期：試験

【参考文献】
改訂　精神保健福祉士養成セミナー　精神医学　第1巻　へるす出版
ICD-10 精神および行動の障害　WHO編　医学書院
DSM-IV-TR 精神疾患の分類と手引き　APA編　医学書院
精神病　笠原嘉編　岩波書店
現代児童青年精神医学　山崎晃資ら編　永井書店

科目名　クラス　講義区分	
精神科リハビリテーション学　＜春集＞	
栄　　セツコ	4単位

【講義概要】
精神科リハビリテーションの概念、歴史、理論と技術を学習した上で、ソーシャルワーカーである精神保健福祉士の視点や役割を理解するため、様々な領域で実践している精神保健福祉士、作業療法士、臨床心理士などの外部講師を招き、インテグレーション形式で講義を行う。

【学習目標】
1　精神科リハビリテーションの概念について理解させる。
2　精神科リハビリテーションの構成について理解させる。
3　精神科リハビリテーションのプロセスと技術について理解させる。
4　精神保健福祉士が行うリハビリテーションについて理解させる。
5　精神科リハビリテーションにおける連携について理解させる。

【講義計画】
1　精神科リハビリテーションの概念
1）リハビリテーションの概念と歴史
2）リハビリテーションの理念、意義と基本原則
3）精神科リハビリテーションの概念
4）精神科リハビリテーションの理念と意義
5）精神科リハビリテーションの基本原則と技法
6）わが国及び諸外国の精神科リハビリテーションの現状
2　精神科リハビリテーションの構成
1）精神科リハビリテーションの対象
2）精神科リハビリテーションにおける精神保健福祉士の役割
3）精神科リハビリテーションに関わる専門職等との連携
4）精神科リハビリテーションの施設
(1)病院リハビリテーション施設等
(2)社会復帰施設及びその他の社会資源（小規模作業所、グループホーム、地域生活支援事業など）
(3)精神保健福祉センター及び保健所
(4)その他の協力機関、支援団体
5）精神科リハビリテーションの関連領域
3　精神科リハビリテーションのプロセス
1）リハビリテーション計画
2）アプローチの方法
(1)病院におけるリハビリテーション
(2)社会復帰施設及びその他の社会資源におけるリハビリテーション
(3)地域におけるリハビリテーション
3）疾病の経過、ライフサイクルと精神科リハビリテーション
4　医療機関におけるリハビリテーション
1）作業療法およびレクリエーション療法
2）集団精神療法
3）行動療法
4）認知行動療法(生活技能訓練を含む)
5）家族教育プログラム
6）デイケアおよびナイトケア
7）精神科退院時指導、退院前訪問、訪問看護・指導
5　精神保健福祉士が行うリハビリテーション
1）精神保健福祉士が関わる医学的リハビリテーション
(1)集団精神療法における精神保健福祉士
(2)生活技能訓練における精神保健福祉士
(3)デイケアおよびナイトケアにおける精神保健福祉士
(4)訪問看護・指導における精神保健福祉士
2）社会的リハビリテーション
(1)日常生活への適応のための訓練
(2)社会復帰のための相談・助言・指導
6　精神科リハビリテーションの総合化

【成績評価の方法】
試験　100%　出席　100%
インテグレーション科目ですので、全回出席が前提となります。

【教科書】
適宜、資料等を配布します。

【備考】
・インテグレーション科目

科目名　クラス　講義区分	
精神保健学　＜春集＞	
郭　　麗　月	4単位

【講義概要】
精神保健について以下に掲げる各項目を教科書、資料を用いて講義する。その時点で話題となっている精神保健関連のテーマについても適宜取り上げて行く。また精神保健福祉士国家試験受験資格科目であるため、試験に必要な知識の獲得も目指す。

【学習目標】
1　精神保健についての基本知識について理解させる。
2　ライフサイクルにおける精神保健について理解させる。
3　精神保健における個別課題への取り組みと実際について理解させる。
4　地域精神保健と地域保健について理解させる。
5　諸外国における精神保健の概要について理解させる。
6　関連法規および施設について理解させる。

【講義計画】
第1回　精神保健についての基礎知識
　　1）精神保健の概要
第2回　精神保健についての基礎知識
　　2）精神保健の意義と課題
第3回　ライフサイクルにおける精神保健
　　1）胎児期および乳幼児期における精神保健
第4回　〃　2）学童期における精神保健
第5回　〃　3）思春期における精神保健
第6回　〃　4）青年期における精神保健
第7回　〃　5）成人期における精神保健
第8回　〃　6）老年期における精神保健
第9回　精神保健における個別課題への取り組み
　　1）精神障害者対策①
第10回　〃　〃　②
第11回　〃　2）老人性痴呆疾患対策
第12回　〃　3）アルコール関連問題対策
第13回　〃　4）薬物乱用防止対策
第14回　〃　5）思春期精神保健対策
第15回　〃　6）地域精神保健対策
第16回　〃　7）ターミナルケアと精神保健
第17回　精神保健活動の実際　1）家庭における精神保健①
第18回　〃　〃　②
第19回　〃　2）学校における精神保健①
第20回　〃　〃　②
　　〃　〃　②
第21回　〃　3）職場における精神保健①
第22回　〃　〃　②
第23回　〃　4）地域における精神保健①
第24回　地域精神保健と地域保健　1）地域精神保健施策の概要
第25回　〃　2）地域保健施策の概要
第26回　〃　3）関係法規
第27回　〃　4）関連施策
第28回　諸外国における精神保健
第29回　レポート指導
第30回　テスト

【成績評価の方法】
試験　70%　レポート　30%　出席　0%
レポート、定期試験で評価する。

【教科書】
（精神保健福祉士養成セミナー編集委員会編）『精神保健福祉士養成セミナー2「精神保健学」（改定第3版）』へるす出版

【参考文献】
適時紹介する。

【備考】
予習、復習として教科書の単元を通読し、疑問点は質問すること。

科目名　クラス　講義区分	
精神保健福祉援助演習　＜通期＞	
郭　　麗　月	4単位

【講義概要】
春学期　面接ロールプレイ；各学生が交代でワーカーとクライエント役になり、さまざまな機関におけるワーカーの役目について学ぶ。同時に、ワーカーとして自分の話し方、態度等が適切であるかについて自己覚知を深める。
秋学期　グループワーク　；ＳＳＴの手法を用いて、学生自らがリーダー、コリーダーなどを担当して、グループワークの運営について体験し、学ぶ。

【学習目標】
1　精神保健福祉士の専門的援助技術及びリハビリテーション技法について、実習指導を中心とする演習形態により具体的事例を取り上げ、個人指導及び集団指導を通してその制度を高めつつ習得させる。
2　学生自身が自分自身で学習し、考え、主体的に行動する態度を養成する。

【講義計画】
精神障害者に対する援助技術及びリハビリテーション技法が学生個々人に身につくよう、精神障害者の社会復帰に対する援助事例を取り上げるなどして、担当教員による個別指導並びに集団指導の下で、学生自身が積極的に報告し論議しあう形で事例研究及びロールプレイ等を行う。その際次の点に留意する。
1　実習前に置いては、少なくとも精神病院等保健・医療施設及び社会復帰施設等福祉施設における精神障害者援助技術のモデル的な事例を取上げ、講義の内容を深め、実習の教育効果が上がるようにする。
2　演習を通して援助関係の実際及びチーム医療の実践を身につけるようにする。
3　実技指導等
　（1）面接実技指導
　（2）記録実技指導
　（3）集団実技指導
　（4）評価・効果測定実技指導
4　精神保健福祉士としての、職業倫理についての理解を身につけるようにする。
5　実習後においては、実習総括をふまえて、精神障害者に対する援助技術及びリハビリテーション技法をより深めて身につけさせるようにする。

【成績評価の方法】
レポート　50%　出席　50%
出席・討議参加状況、レポートを総合して評価する。

【教科書】
適宜指定する。

【備考】
分担したテーマについて調べ、資料の作成をすること。

科目名　クラス　講義区分	
精神保健福祉援助技術各論　＜通期＞	
金　　文　美	4単位

【講義概要】
精神保健福祉分野におけるソーシャルワークの方法論を、体系的に学び、基本的概念・各援助活動における事例を踏まえながら、具体的に理解する。

【学習目標】
1　精神障害者の疾病及び障害に配慮した個別援助技術（ケースワーク）についてその概念、及び具体的事例に基づき理解させる。
2　精神障害者の疾病及び障害に配慮した集団援助技術（グループワーク）についてその概念、及び具体的事例に基づき理解させる。
3　精神障害者ケアマネジメントについてその概念、及び具体的事例に基づき理解させる。
4　精神障害者を対象とした地域援助技術（コミュニティワーク）についてその概念、及び具体的事例に基づき理解させる。
5　精神障害者を対象とした援助技術について具体的事例に基づき理解させる。

【講義計画】
第１回　精神保健福祉援助技術各論について
　　精神保健福祉分野における個別援助技術（ケースワーク）
　　１）疾病及び障害に配慮した個別援助技術
第２回　精神保健福祉分野におけるケースワークの援助過程１
第３回　精神保健福祉分野におけるケースワークの援助過程２
第４回　精神保健福祉分野におけるケースワークの援助過程３
第５回　精神保健福祉分野におけるケースワークの具体的展開１
第６回　精神保健福祉分野におけるケースワークの具体的展開２
第７回　精神保健福祉分野における集団援助技術（グループワーク）
　　疾病及び障害に配慮した集団援助技術
第８回　集団援助技術（グループワーク）の基本的概念・原則
第９回　集団援助技術の実際と適用分野（生活技能訓練を含む）
第10回　集団援助技術におけるスーパービジョン
第11回　精神科デイケア
第12回　精神科デイケア
第13回　精神保健福祉分野における集団援助技術とセルフヘルプグループ
第14回　援助活動と精神保健福祉士
第15回　春季筆記試験
第16回　精神保健福祉分野におけるチームアプローチの基本的考え方
第17回　チームアプローチにおける専門職の機能と役割
第18回　チームアプローチにおける精神保健福祉士の役割
第19回　精神保健福祉分野における地域援助技術（コミュニティーワーク）
　　地域援助技術の概念と基本的性格
第20回　地域援助技術の具体的展開
　　（１）ノーマライゼーションの推進と住民参加
　　（２）社会資源の活用と開発
第21回　地域援助活動の原則
第22回　精神保健福祉ボランティアとセルフヘルプグループ
第23回　セルフヘルプグループとピアサポート
第24回　精神保健保健福祉分野における地域援助活動の実際
第25回　精神障害者のケアマネジメント
　　ケアマネジメントの原則
第26回　ケアマネジメントの意義と留意点
　　（１）ケアマネジメントの意義と留意点
　　（２）関係機関との連携
第27回　ケアマネジメントのプロセス
　　（１）受理面接（インテーク）
　　（２）ニーズの把握とその評価
　　（３）目標設定と計画的実施
第28回　ケアマネジメントと包括的サービス
第29回　障害福祉計画の作成方法と進行管理
　　１）基本指針とニーズ調査
第30回　障害福祉計画の作成プロセス・計画の進行管理と評価

【成績評価の方法】
試験　30%　レポート　40%　出席　30%

科目名　クラス　講義区分	
精神保健福祉援助技術総論　＜通期＞	
辻　井　誠　人	4単位

【講義概要】
まず、精神保健福祉士が援助技術を用いて取り組む課題について、VTRなどを使用し理解を促す。また、それらを使用した際には「記録」を意識したトレーニングを実施する。
次に精神保健福祉士の置かれている社会的な位置づけとその専門性について解説する。
最後に実践の具体的展開場面を各ステージごとに解説する。

【学習目標】
○援助技術を用いて取り組む課題について理解する。
○精神障害者に対する社会福祉施策とその具体的展開場面である援助活動（個別、集団、地域に対する取り組み）を体系的に理解する。
○精神障害者への社会福祉援助活動を展開する専門職（価値及び倫理、専門技術、専門知識）について理解する。
○精神保健福祉士が用いる専門技術の展開について理解する。

【講義計画】
第１回　本講義の概要、構成、進め方、ルール及び評価などについてのガイダンス
第２回　精神科疾患の急性症状と入院治療・記録の作成
第３回　退院に向けての取り組み・記録の作成
第４回　入院者を地域に迎える様々な取り組み・記録の作成
第５回　地域で支える取り組み・記録の作成
第６回　社会的入院の解消に向けての取り組み・記録の作成
第７回　地域で支える新たな取り組み・記録の作成
第８回　薬物依存について
第９回　アルコールと体質
第10回　アルコール依存症とその回復に向けた取り組み（個別、集団、自助グループ）
第11回　主な精神疾患の概要
第12回　統合失調症とその支援
第13回　「精神障害者」の定義及びわが国の施策の体系
第14回　「精神障害者」の生活の困難性
第15回　援助技術を用いて取り組む課題のまとめ
第16回　障害者福祉サービスが現実化されるシステム
第17回　障害者福祉サービスが現実化されるシステムと援助技術（地域、調査、運営管理、社会計画）
第18回　精神保健福祉士の専門性（総論的理解）
第19回　精神保健福祉士の専門性（価値と倫理）
第20回　精神保健福祉士の専門性（倫理綱領）
第21回　精神保健福祉士の専門性（権利擁護を中心とした実践課題）
第22回　相談支援の原則
第23回　個別支援の展開過程（インテーク）
第24回　個別支援の展開過程（アセスメント）
第25回　個別支援の展開過程（プランニング）
第26回　個別支援の展開過程（インターベンション）
第27回　個別支援の展開過程（エバリュエーション）
第28回　個別支援の展開過程（ターミネーション）
第29回　個別支援の展開過程（アウトリーチ）
第30回　試験・まとめ

【成績評価の方法】
試験　100%
視聴覚教材使用時の記録の作成提出は試験の点数に加点する。また出席をとった場合も同様に加点する。

【教科書】
使用しない。

【参考文献】
第１回の講義において紹介する。また必要に応じて講義中に紹介する。

【備考】
[準備学習の指示]
1．日本では「障害者」及び「精神障害者」を、法制度上どのように位置づけているかを整理しておくこと。
2．「精神障害」を抱えた人が暮らしていく上で、どのような課題や困難を伴うかを考えておくこと。
3．社会福祉援助における専門技術について調べておくこと。
4．PSW（psychiatric social worker）とはどんな専門職かを考えておくこと。
5．日本精神保健福祉士協会「倫理綱領」を読んでおくこと。

科目名　クラス　講義区分	
精神保健福祉援助実習　＜通期＞	
栄　　セツコ	6単位

【講義概要】
ソーシャルワーカーである精神保健福祉士として、必要とされる理論や実践および価値を習得するために精神保健福祉領域の医療機関や保健所、社会福祉施設等において実習を体験する。その実習を通じて、実践現場に求められる専門性に対するスーパービジョンを行い、精神障害当事者の視点にたったソーシャルワーカーとしての実践知を指導する。

【学習目標】
1　現場体験を通して精神保健福祉士として必要な知識及び技術並びに関連知識の理解を深める。
2　精神保健福祉士として必要な知識及び技術並びに関連知識を実際に活用し、精神障害者に対する相談援助及びリハビリテーションについて必要な資質・能力・技術を修得する。
3　職業倫理を身につけ、専門職としての自覚に基づいた行動ができるようにする。
4　具体的な体験や援助活動を、専門的援助技術として概念化し理論化し体系だてていくことができる能力を涵養する。
5　関連分野の専門職種との連携のあり方を理解する。

【講義計画】
1　実習オリエンテーション
2　視聴覚学習
3　現場体験学習
4　見学実習（急性期病棟など）
5　専門援助技術実習指導
6　リハビリテーション実習指導
7　配属実習
8　全体総括

【成績評価の方法】
全出席（学内・学外）を条件とする。
実習記録、実習レポート、実習研究報告、実習先評価を総合して評価する。

【教科書】
特になし

科目名　クラス　講義区分	
精神保健福祉論　＜秋集＞	
栄　　セツコ	4単位

【講義概要】
我が国における精神医療の歴史をふまえ、精神障害者の障害特性や生活上の困難、社会的人権を学習する。その上で、我が国における障害者福祉領域および精神保健福祉領域の法・制度を理解し、ソーシャルワーカーである精神保健福祉士に必要な価値や理論および実践を講義の中心として行う。

【学習目標】
1障害者福祉の理念と意義及び障害者基本法等全ての障害者に共通の福祉施策の概要について理解させる。
2精神障害者の人権について理解させる。
3精神保健福祉士の理念、意義、対象について理解させる。
4精神障害者に対する相談援助活動等を理解させる。
5精神保健福祉法、精神保健福祉士法等精神障害者に関する法律の意義と内容を理解させる。
6精神保健福祉施策の概要について理解させる。
7精神保健福祉の関連施策について理解させる。

【講義計画】
1障害者福祉の理念と意義
　1）障害者福祉の理念
　　（1）障害者福祉の発達
　　（2）ノーマライゼーション
　　（3）リハビリテーション
　　（4）生活の質（QOL）
　　（5）生活支援
　2）障害及び障害者
　　（1）障害の概念
　　（2）障害分類（国際障害分類を含む）
　　（3）精神障害の特性
　3）障害者福祉の基本施策
　　（1）障害者基本法
　　（2）障害者プラン
　4）現代社会と精神障害者
　　（1）精神障害者の概念
　　（2）精神障害者と家族
　　（3）精神障害者と地域社会
　　（4）精神障害者のノーマライゼーション
2精神障害者の人権
　1）精神障害者の権利擁護
　2）精神医療における権利擁護
　3）インフォームドコンセント
　4）地域社会における精神障害者の人権
3精神保健福祉士の理念と意義
　1）精神保健福祉の歴史と理念
　2）精神保健福祉士の意義
　3）精神保健福祉士の対象
　4）精神保健福祉士の専門性と倫理
4精神障害者に対する相談援助活動
　1）精神障害者を取りまく社会的障壁（バリアー）
　2）精神障害者の主体性の尊重
　3）相談援助活動の方法
　　（1）医療施設における相談援助活動
　　（2）社会復帰施設等における相談援助活動
　　（3）地域社会における相談援助活動
　4）相談援助活動の事例
5精神保健福祉法、精神保健福祉士法等精神障害者に関する法律
　1）精神保健福祉法の意義と内容
　2）精神保健福祉士法の意義と内容
　3）関連法について
6精神保健福祉施策の概要
　1）精神保健福祉に関する行政組織
　2）精神保健福祉に係る公的負担制度（公費負担医療等）
　3）精神保健福祉施策の課題
　　（1）精神障害者福祉対策
　　（2）社会復帰対策
　4）精神保健福祉における社会資源
　　（1）精神障害者保健福祉に関わる専門職との連携
　　（2）社会資源
7精神保健福祉の関連施策
　1）雇用・就業（障害者雇用促進法等の概要を含む）
　2）所得保障
　3）経済負担の軽減
　4）生活環境の改善

【成績評価の方法】
出席状況、レポート、試験を総合して評価する。

【教科書】
（精神保健福祉士養成講座編集委員会編）『精神保健福祉論』（中央法規出版社）

さ行

科目名　クラス　講義区分	
生徒・進路指導論　01＜春＞ 生徒・進路指導論　02＜秋＞	
松　岡　敬　興	２単位

【講義概要】
今日の学校教育現場が直面している生徒の問題行動の実態を把握し、その原因究明と解決に向けた手だてについて考察する。学校組織として行われる生徒指導の実情を正確に捉え、指導者として的確なかかわり方を模索し検討する。具体的な生徒指導にかかわる場面を取りあげ、生徒指導が抱えもつ課題について認識を高める。さらに進路指導の視点から、生徒の将来を見据えた生き方教育のあり方についても理解を深める。

【学習目標】
教育機能の一つである生徒指導、進路指導に関する基礎基本の理解をめざす。また、今日的なさまざまな課題について検討を加えることにより、課題解決に向けた具体的な手だてについて理解を深める。

【講義計画】
第１回　ガイダンス（本授業の目的・内容・進め方・評価、など）
第２回　生徒指導とは（意義と課題）
第３回　進路指導とは（現状と課題）
第４回　生徒理解の手だて
第５回　生徒指導と教育課程（道徳・特別活動との連動化）
第６回　進路相談を生かした生徒指導
第７回　生徒指導における問題行動①（いじめ）
第８回　生徒指導における問題行動②（非行）
第９回　生徒指導における問題行動③（不登校）
第10回　生徒理解に向けた実践①（保護者との連携）
第11回　生徒理解に向けた実践②（継続的な教育相談）
第12回　生徒指導における学級経営
第13回　生き方教育を見据えた進路指導
第14回　まとめ
第15回　試験（60分）およびその解説

【成績評価の方法】
・授業参加評価：授業態度及び講義中に出された課題への回答（レポート）による。
・試験評価：講義内容についての確認を図る。
以上を総合し、評価を出す。

【参考文献】
・八並光俊・國分康孝『新生徒指導ガイド』図書文化、2008年
・加澤恒雄・広岡義之『新しい生徒指導・進路指導』ミネルヴァ書房、2007年
・吉田辰雄『最新生徒指導・進路指導論』図書文化社、2006年
・上地安昭・西山和孝『「叱る」生徒指導』学事出版、2003年
・坂本昇一『生徒指導の機能と方法』文教書院、1990年

【備考】
・テキストは使用しません。授業毎に資料を配付します。
・参考文献は、適宜授業中に紹介します。
【準備学習の指示】
毎回、事例研究の課題を出します。講義内容や参考文献をもとに、受講生のみなさんが具体的な対応について考察を加え、小レポートにまとめて提出する。授業ではその解説および意見交換を通して、生徒指導・進路指導の本質に迫ります。適宜、みなさんにも発表をお願いします。必ず、事例研究に取り組むとともに、講義内容について十分復習をしてから、授業に臨みましょう。また、みなさんが経験した生徒指導に関わる事例に着目し、講義の内容を踏まえながらそのよさや改善点をまとめ、最終段階で提出できるように準備を進めてください。
・02～07生は読替一覧参照

科目名　クラス　講義区分	
税法Ａ　＜春＞	
浦　東　久　男	２単位

【講義概要】
税法の基本的な原則を理解するために、相続税法、所得税法などを素材にして、講義する。

【学習目標】
憲法が求める租税法律主義についてその内容と理解する。
相続税法を学び、税法の適用において私法（民法）が基礎なることを理解する。所得税法の基本的な仕組みを知る。

【講義計画】
第１回　導入　授業計画の説明　わが国の税制を概観する
・税財政の状況
・税法と他の科目（法分野）との関係
・各税目の特徴
第２回　租税法の体系と構造（税法の法源）・基本原則（租税法律主義）
第３回　租税法の解釈と適用
第４回　租税回避と「事実認定による否認」
第５回　相続税法（１）納税義務者と課税対象財産：民法と税法の関係を考える
第６回　相続税法（２）納税額の計算の仕組み：遺産取得税とはどんなものか　租税の中立性
第７回　相続税法（３）相続税と贈与税との関連（相続時精算課税制度）
第８回　相続税法（４）土地などの財産の評価（路線価方式と倍率方式）
第９回　所得税法（１）所得課税の基礎、所得概念、法人税と所得税
第10回　所得税法（２）所得区分と各種所得の金額（その１）事業所得と給与所得
第11回　所得税法（３）各種所得の金額（その２）譲渡所得
第12回　所得税法（４）所得控除（配偶者控除、扶養控除など）、累進税率
第13回　所得税法（５）確定申告と源泉徴収
第14回　租税手続法　租税債務の成立と確定　強制徴収との関係

【成績評価の方法】
試験　70%　レポート　10%　出席　20%
（１）試験：定期試験として実施
（２）レポート：次の課題について、1000字程度で説明しなさい。
課題「相続税法のみなし相続財産」
提出期限：６月の第１回目の授業日
（３）「出席」は、授業中に小テストを２回程度実施。その受験で判定する。

【教科書】
清永敬次 税法（７版）ミネルヴァ書房
第１編序論、第２編租税実体法のうち第２章、第３章第３節、同章第１節、第４章、第３編のうち第２章第１節、同章第２節を取り上げる予定。

【参考文献】
1　岡村忠生・渡辺徹也・髙橋祐介著『ベーシック税法（最新版）』（有斐閣）
2　新川浩嗣編著『図説日本の税制平成21年度版』（財経詳報社）
3　水野忠恒・中里実・佐藤英明・増井良啓編『租税判例百選［第４版］』（有斐閣）
4　小池正明『知っておきたい相続税の常識［第11版］』（税務経理協会）

【備考】
税法は、憲法、行政法、民法、会社法など基本的な分野で学んだことを基礎とする応用的な科目である。また、今後、わが国の社会がどのように変化するのかを税制のあり方と関連させて考えていきたい。
・02～07生は読替一覧参照

科目名　クラス　講義区分	
税法Ｂ　＜春＞	
浦　東　久　男	２単位

【講義概要】
企業課税についての基本原則を理解するために、法人税法、消費税法などを素材にして、講義する。

【学習目標】
租税法律主義を前提にその内容と理解する。
法人税法を学び、会社法を中心とする起業法と税法の関係を理解する。その後間接税の代表例としての消費税法の基本的な仕組みを知る。

【講義計画】
第１回　導入　授業計画の説明　わが国の税制を概観する
　・税財政の状況
　・税法と他の科目（法分野）との関係
　・各税目の特徴
第２回　租税法の法源・基本原則（租税法律主義）・租税法の解釈適用
第３回　法人税と所得税との関係　～法人段階の課税と株主段階の課税～
第４回　法人税法における法人の種類　～同族会社に対する課税～
第５回　法人税法と企業会計　～法人税法22条と企業会計原則～
第６回　法人税法における益金　～受取配当、資産の評価益～
第７回　法人税法における損金（１）　～売上原価、減価償却など～
第８回　法人税法における損金（２）　～役員給与、交際費、寄付金～
第９回　消費税法（１）　～直接税と間接税、納税義務者と課税対象～
第10回　消費税法（２）　～非課税取引と累積課税の排除～
第11回　消費税法（３）　～簡易課税制度～
第12回　法人税法における連結納税と組織再編税制
第13回　国際課税（１）　国際的二重課税と外国税額控除
第14回　国際課税（２）　租税条約と国内税法

【成績評価の方法】
試験　70%　レポート　10%　出席　20%
（１）試験：定期試験として実施
（２）レポート：次の課題について、1000字程度で説明しなさい。
　課題「法人税法における同族会社」
　提出期限：11月の第１回目の授業日
（３）「出席」は、授業中に小テストを２回程度実施。その受験で判定する。

【教科書】
清永敬次 税法（７版）ミネルヴァ書房

【参考文献】
1　岡村忠生・渡辺徹也・髙橋祐介著『ベーシック税法（最新版）』（有斐閣）
2　新川浩嗣編著『図説日本の税制平成21年度版』（財経詳報社）
3　水野忠恒・中里実・佐藤英明・増井良啓編『租税判例百選［第４版］』（有斐閣）

【備考】
税法は、憲法、行政法、民法、会社法など基本的な分野で学んだことを基礎とする応用的な科目である。
・02～07生は読替一覧参照

科目名　クラス　講義区分	
西洋経済史　＜秋集＞	
前　田　治　郎	４単位

【講義概要】
18世紀後半のイギリスに始まる産業革命は、人類史的観点からしても、巨大なインパクトをもった。それ以後、資本主義という経済システムが確立・発展し、その下で、人間の生産力は加速度を加えながら飛躍し今日に至る。とはいえ、この過程は常に平坦な道のりであったわけではない。すなわち、一方で、経済成長が順調に進展する時期と成長が鈍化し様々な対立が生じる時期が交替したし、また他方では、資本主義の世界的展開過程において、戦争に象徴されるような諸国民国家間の対立も伴わざるを得なかった。本講義では、イギリス産業革命から第１次大戦までを対象時期として、イギリス、フランス、ドイツ、アメリカにおける各国資本主義の確立・展開過程を縦軸に、各国資本主義の関係の緊密化＝資本主義の世界体制の形成過程を横軸にとり、いわゆるパクス・ブリタニカの歴史的発展を考えたい。

【学習目標】
この講義の対象はイギリス中心のパクス・ブリタニカであるが、第二次大戦後の世界はアメリカ合衆国中心のパクス・アメリカーナに変転している。資本主義の世界体制の構造と動態要因について理解を深め、現代世界を理解する一助としたい。

【講義計画】
第１回　講義概要の説明
第２回　18世紀半ばのヨーロッパ
第３回　イギリス産業革命（綿工業）
第４回　イギリス産業革命（農業革命）
第５回　イギリス産業革命（生産手段生産部門）
第６回　フランス革命
第７回　プロイセン改革
第８回　アメリカ独立革命
第９回　19世紀第２・四半期イギリス経済の概要
第10回　工場法
第11回　新救貧法
第12回　チャーティスト運動
第13回　反穀物法同盟
第14回　ピール銀行法
第15回　19世紀第３・四半期世界経済の概要
第16回　中心国イギリスによる世界の編成
第17回　フランスの産業革命
第18回　ドイツの産業革命
第19回　アメリカの産業革命
第20回　ロシア、イタリア、日本
第21回　植民地・従属諸国（アイルランド・インド）
第22回　19世紀末大不況期
第23回　独占資本主義
第24回　ドイツの独占資本主義
第25回　アメリカの独占資本主義
第26回　イギリス・フランスの独占資本主義
第27回　第一次世界大戦
第28回　講義のまとめ

【成績評価の方法】
試験　100%
授業中に予告なく７回の小テスト（20点満点）を行い、成績上位５回の合計点で評価する。したがって出席も間接的に成績に反映する。

【参考文献】
藤瀬　浩司（著）『資本主義世界の成立』ミネルヴァ書房

【備考】
【準備学習の指示】
高校世界史の教科書や歴史概説書によって、授業の進行に対応する西洋近・現代史の流れを予習しておくこと。

さ　行

科目名　クラス　講義区分	
西洋思想史　＜通期＞	
山　川　偉　也	4単位

【講義概要】
桃山学院大学の理念は、「キリスト教精神に基づいて人格を陶冶し、豊かな教養を体得させ、深い専門的学術を研究・教授することにより、世界の市民として広く国際的に活躍しうる人材を養成し、国際社会、世界文化の発展に寄与する」、となっている。建学の経緯からして、「キリスト教」精神が顕揚されるのは当然であろう。しかし、「世界市民の養成」のほうはどうか。この句が意味していること、それは、正確に言って何であるか。

【学習目標】
本講義は上の問いに対して学生諸君が十分に答えられるように指導しようとするものである。

【講義計画】
第１回　序章　「世界市民」の原像としてのディオゲネス
第２回　シノペ―通貨変造事件前夜
第３回　シノペ―通貨変造事件当日
第４回　通貨変造事件直前・直後の顛末
第５回　象徴戦略としての「犬」のシンボリズム
第６回　狂ったソクラテス
第７回　ディオゲネスとアレクサンドロス大王
第８回　アレクサンドロスの「世界市民国家」構想
第９回　ゼノンの「世界市民国家」構想
第10回　アレクサンドロスとアリストテレス
第11回　アリストテレスとディオゲネス
第12回　ポリス的動物と「獣」のアナロギア
第13回　「ポリス的動物」、その種差
第14回　獣のアナロギアとディオゲネス
第15回　人間中心主義的自然観
第16回　生命ある財産・道具としての奴隷
第17回　自然と反自然
第18回　目的論的自然観
第19回　ミクロ・ポリーテイア
第20回　アリストテレスの奴隷制擁護論
第21回　ディオゲネスの奴隷制批判
第22回　「自足」という概念
第23回　「徳への捷径」としての「自足」生活
第24回　キュニコス派のユートピア思想
第25回　アリストテレス的正義の二義性
第26回　アリストテレスの正義論における矛盾の諸相
第27回　「万物の尺度は金銭（ノミスマ）である」
第28回　ペーレー（頭陀袋）の国
第29回　世界市民主義の地平
第30回　まとめ

【成績評価の方法】
小試験ならびに学年末試験

【教科書】
山川偉也『哲学者ディオゲネス―世界市民の原像』講談社学術文庫

【備考】
【準備学習の指示】
受講には準備学習が大切である。特に、授業を受ける前にテキストを事前によく読んでおくことが大事である。

科目名　クラス　講義区分	
西洋文化史　＜秋集＞	
岩　津　洋　二	4単位

【講義概要】
今日のヨーロッパはEU(欧州連合)として統合が進みつつある。各国人意識を越えた「ヨーロッパ人」意識をもつ人々も増えているが、他方では自民族の文化的伝統の独自性をまもろうとする運動も高まりを見せている。この講義は、おおきく変わりつつあるヨーロッパを全体的にとらえ、ますます多文化的になっていくヨーロッパの現在を理解するための枠組みを提示することを目的とする。
したがって、建築や美術といった特定の文化領域の歴史やイタリアやイギリスといった特定の地域の文化の特徴をたどるような講義ではない。多くの日本人にとって憧れの的であったヨーロッパの、一般にはあまり注目されてこなかった側面に焦点を当てながら、その文化的特質について考察する。ヨーロッパの過去・現在・未来を見通す視座を提供するような講義にしたいと考えている。

【学習目標】
近代日本のモデルであり、今日でも憧れの地であるヨーロッパについての知見を深める。

【講義計画】
第１回　ガイダンス
第２回　「西洋」の概念
第３回　「西洋」の地域
第４回　西洋文化の一般的特徴
第５回　西洋の多様性
第６回　感性の変貌Ⅰ　風景の誕生
第７回　感性の変貌Ⅱ　清潔観
第８回　感性の変貌Ⅲ　食文化
第９回　聖遺物信仰
第10回　キリスト教化について
第11回　非キリスト教的ヨーロッパ
第12回　ヨーロッパ史の謎
第13回　ヨーロッパ人意識
第14回　ヨーロッパ統合の歴史的基盤Ⅰ
第15回　ヨーロッパ統合の歴史的基盤Ⅱ
第16回　騎士道とヨーロッパ文化
第17回　国民性とはなにか
第18回　ナショナリズムの問題
第19回　民族性について
第20回　非ヨーロッパとの関係
第21回　ヨーロッパ近代と植民地
第22回　ヴァレリーのヨーロッパ論
第23回　アメリカ対ヨーロッパ
第24回　多文化的ヨーロッパ
第25回　ライフスタイルの変化
第26回　新しいヨーロッパ人像
第27回　欧州連合（EU）の未来
第28回　まとめ

【成績評価の方法】
試験　70%　レポート　30%
ただし、試験は期末試験だけでなく、平常の授業時間内にも随時おこなわれることがある。

【参考文献】
授業中に適宜指示する。

科目名　クラス　講義区分	
世界経済事情　＜春集＞	
モグベル　ザファル	４単位

【講義概要】
今日の世界経済では、もはや「対岸の火事」と悠長なことは言っていられません。すべての経済現象が同時進行でグローバルに展開し、国境を無視した形でボーダレスに迫ってきます。「GLOBAL」と「LOCAL」の垣根がぼやけて行く中で、世界の経済状況に関する的確な情報と理解が問われていることは言うまでもありません。このような観点から、講義の前半部分では「世界経済入門」を通じて世界経済の現状について理解を深め、後半部分では世界経済に関係したトッピックスを取り上げて、日本国内の問題に関連づけながら説明します。できるだけタイムリーな、そして受講生が強い関心を持てるようなトピックスを選ぶことを目指します。
なお、後半の世界経済に関連するトピックスの内容や順序は、世界情勢の展開により変わることがあります。

【学習目標】
世界経済の仕組と今日的トッピックスについて分かりやすく解説することがこの講義の狙いです。受講生が新聞の国際経済記事を興味をもって読み、自分なりの理解とオピニオンを持てるようになればこの講義の目的は果たされたと考えます。

【講義計画】
第１回　はじめに：　今日の世界経済を展望して
第２回　「ヒト・モノ・カネの国際移動とその分類
第３回　先進国・中進国・途上国とその他の分類
第４回　世界銀の「所得番付表」に見る各国経済のランキング
第５回　様々な観点から見た世界の中の日本のランキング
第６回　国連「ミレニアム開発計画」とその目標
第７回　開発の三つのキーワード：Empowerment, Ownership, Grassroots
第８回　開発途上国の貧困の問題
第９回　グラミン運動と貧困の克服（ビデオ上映）
第10回　まとめ
第11回　世界経済のルールとその起源
第12回　GATT・WTO体制と世界貿易
第13回　GATT・WTO体制の三大原則とその例外措置
第14回　ドーハ・ラウンド交渉の経過と結末
第15回　IMFと国際金融制度
第16回　金融危機とIMFコンディショナリティー
第17回　外国為替市場の仕組み
第18回　変動相場制のもとでの日本円の歴史・前半
第19回　変動相場制のもとでの日本円の歴史・後半
第20回　日本を変えたプラザ合意（ビデオ上映）
第21回　まとめ
第22回　アメリカ発の金融危機
第23回　機軸通貨ドルをめぐる諸問題
第24回　石油情勢と「第３次石油危機」
第25回　経済グローバル化の光と陰
第26回　グローバル化への日本の対応
第27回　東アジア地域統合と日本の対応
第28回　日本のODA（政府開発援助）の現状と行方
第29回　総まとめ
第30回　試験

【成績評価の方法】
試験　80%　レポート　０%　出席　20%
出席点は授業中に行う数回の小テストの結果によって決まる。

【参考文献】
テキストの代わりに資料をほとんど毎回配布するので、配布資料の責任ある管理を各人に期待します。

【備考】
準備学習の指示：
１．経済学の基礎を復習しておくこと。
２．配布資料を正しく管理し、その内容について予習・復習を行うこと。

科目名　クラス　講義区分	
世界市民－医と倫理と人権　＜春＞	
永　水　裕　子	２単位

【講義概要】
科学技術･医療技術の発展により、今までは不可能だったことが可能となり、例えば、自然の状態では子どものできないカップルが、生殖補助医療技術により子をもうけることも可能となった。しかし、技術的には可能なことであっても、当事者の人権や尊厳を侵害していないか、かりに侵害していないとしても、本当にそのような技術を利用することが倫理的に適切なのかというジレンマが生ずることがある。この講義では、このような問題について取り上げ、受講生自らに考えてもらうことにより、様々な問題に対して、皆さんが、マスコミが作り出すイメージや感情論から独立して自らの意見を形成できるように材料を提供していく。

【学習目標】
この講義で扱うテーマには、絶対的な正解はない。従って、答えを覚えようという作業は全く意味を成さない。生命倫理の観点から対立のある問題については、とにかく自らの頭で考え続けて自分なりの結論を導き出すしかない。感情論ではなく、受講生が、自分の頭で色々な観点から考えた上で自分の意見を形成できるようになるのが目標である。

【講義計画】
第１回　イントロダクション－患者の権利
第２回　医療訴訟
第３回　医療安全管理
第４回　医療情報およびプライバシーに関する問題
第５回　生殖補助医療をめぐる問題
第６回　生命誕生の場面における選択と問題（出生前診断、着床前診断等）
第７回　重症新生児の治療をめぐる問題
第８回　クローン、ES細胞等をめぐる問題
第９回　終末期医療をめぐる問題
第10回　臓器移植に関する問題
第11回　薬をめぐる規制
第12回　医学研究に関する問題
第13回　人体をめぐる問題
第14回　死因究明に関する問題
第15回　期末試験

【成績評価の方法】
試験　100%

【参考文献】
宇都木･塚本編『現代医療のスペクトル』（尚学社）、手嶋『医事法入門第２版』（有斐閣）、甲斐編『ブリッジブック医事法』（信山社）、久々湊＝旗手編『はじめての医事法』（成文堂）

【備考】
＜準備学習の指示＞講義で得た知識をさらに発展させるために、講義の際に示した当該項目に関する参考文献を読むこと。また、講義についていくために、上記参考文献のいずれか、あるいは自分で選んだ本の中の該当箇所を事前に読んで予習すること。

科目名　クラス　講義区分	
世界市民－イノベーションの新時代　01＜春＞ 世界市民－イノベーションの新時代　02＜秋＞	
鈴　木　幾多郎	２単位

【講義概要】
今、日本国内では将来を悲観的に見る論調が多くみられる。だがそうした負の影響を克服した未来を想像し、その実現に何をすべきか考えてみたらどうか。そのためには、いかなる社会システム、いかなる経済システムとすることが、より多くの人々を幸福にするのか。その命題は日本人自身が解かねばならない問題である。ここでは、日本の未来を悲観的にみるのではなく、自分たちで社会を創造し、その実現を考えるためにも「イノベーション」とは何かを考えてみたい。

【学習目標】
イノベーションとは、「単なる技術革新ではなく、変化を探し、変化に対応し、変化を機会としとらえる」と考、現在、日本にみられる将来への悲観論を排し、将来を基点とする思考を育てることを目標としている。

【講義計画】
第１回　オリエンテーション
　　―なぜ今、イノベーションが必要なのか―
第２回　2020年の日本人
第３回　日本型イノベーション
第４回　破壊的創造とイノベーション
第５回　イノベーションとなにか(１)
第６回　イノベーションとななにか(２)
第７回　市場創造とイノベーション
第８回　技術に勝れている日本がビジネスで負けているのはなぜか
第９回　グローバリエーションと新たなビジネスモデル
第10回　イノベーションのジレンマ
第11回　フラット化は本当に進んでいるのか
第12回　BOPは新たな市場創造の場となるのか
第13回　世界市民としてのビジネスマンになにが求められるのか
第14回　未来像をどのように描くのか
第15回　まとめ

【成績評価の方法】
レポート　50%　出席　50%

【教科書】
このクラスの中で取り上げるテーマに関する論文・資料等は、事前に配布する。

【備考】
配布した論文・資料等を事前に読んでくること。授業は、どこまで事前学習をしたかを確めてから始める。

科目名　クラス　講義区分	
世界市民－家庭と人権:過去・現在・未来　＜秋＞	
佐　藤　啓　子	２単位

【講義概要】
家族の過去の姿から未来への進化とあわせて、今の自分にとっての過去（たとえば胎児の「人権」）から未来(たとえば高齢者)にいたるまでに起こりえた、いわば足もとの人権問題を、家族を基点に取り上げる。
一度は見たことのある問題や、今話題になっていることがテーマになる。身近なだけに中身はハードかもしれない。特に他人の痛みがわかる人にとっては「しんどい」授業になるかもしれない。しかし、自分のためにも人のためにも知っておいた方がよい内容が多いと思われるラインナップを用意した。
なお、講義の進行には若干の前後や入れ替えなどがあるかもしれないことを留保しておく。

【学習目標】
身近な問題を人権問題として取り上げることのできる法的意識と法的思考を身につけることを目標とする。とはいえ、条文は使うが、体系的思考よりもむしろ、きちんと事態に向き合って考えることができる能力を法律面から養えるようになってもらいたい。

【講義計画】
第１回　授業そのものの導入
　　家族制度について　－大家族、「家」から小家族へ－
第２回　生殖補助医療　－命はどこからくるのか－
第３回　中絶　－人はいつから人となるのか－
第４回　児童虐待
第５回　非嫡出子差別
第６回　養子制度と児童福祉
第７回　性の多様性と社会
第８回　人の氏名
第９回　ドメスティック・バイオレンス
第10回　失業と生活扶助
第11回　家族と国境
第12回　老老介護
第13回　尊厳死・安楽死と臓器移植
第14回　全体のまとめ
第15回　テスト

【成績評価の方法】
試験　87%　出席　13%
抜き打ちで取る出席と、定期試験の結果とで評価する

【教科書】
2011年版デイリー六法 三省堂
秋学期の初めにはまだ売っていないかもしれない。販売次第入手してほしい。販売までの配慮はこちらで行う。また、テストのときには六法は持ち込み可とする。

【備考】
準備学習の指示：新聞の記事のタイトルだけでも、毎日、最初から最後まで読んでほしい。テレビ欄とスポーツ欄と広告以外はほぼ全部講義に出てくるからである。

科目名　クラス　講義区分	
世界市民－環境問題へのアプローチ　＜春＞	
巖　　圭　介	2単位

【講義概要】
この講義は、担当者のほか、本学の専任教員等が各々の専門分野から環境問題に関わる部分を中心に講義を行います。様々な角度から環境問題についての基礎的な知識を学ぶことによって、今後さらに深く環境問題を考えるきっかけになることを期待します。

【学習目標】
現在、環境問題はそれ自体が問題であるというばかりではなく、社会経済活動の様々な面において影響を与えています。日々の暮らしの中から企業経営に至るまで、環境問題をどのように考え、どのように対処するかを考えることなくして、私たちの社会をこのまま持続することはできません。
世界全体が取り組むべき環境問題について、世界市民の一人として、どのように考え、どのように参加し、どのように行動するのか、解決への処方箋を探ってみてください。

【講義計画】
第１回　環境問題へのアプローチ
第２回　日本の発展と公害問題
第３回　憲法と環境権について
第４回　廃棄物問題とリサイクル産業（１）
第５回　廃棄物問題とリサイクル産業（２）
第６回　環境問題と企業経営（１）
第７回　環境問題と企業経営（２）
第８回　生態系と生物多様性の保全（１）
第９回　生態系と生物多様性の保全（２）
第10回　南大阪の再生と自然環境の保全・活用（１）
第11回　南大阪の再生と自然環境の保全・活用（２）
第12回　日本の森林問題の歴史的起源とその構造（１）
第13回　日本の森林問題の歴史的起源とその構造（２）
第14回　地球温暖化問題と環境政策（１）
第15回　地球温暖化問題と環境政策（２）

【成績評価の方法】
試験　70%　出席　30%

【参考文献】
必要に応じて適宜紹介する

【備考】
【準備学習の指示】
毎回の講義内容をきちんと自分なりにまとめておき、次の授業前に読み返しておくこと。
・インテグレーション科目

科目名　クラス　講義区分	
世界市民－キリスト教Ⅰ　01＜春＞ 世界市民－キリスト教Ⅰ　02＜秋＞	
滝　澤　武　人	2単位

【講義概要】
本学の「建学の精神」である「キリスト教精神」から「世界市民」に光をあてることがこの講義の概要であり目標です。桃山学院のモットーである「我に従え」の「我」とは、もちろん「イエス・キリスト」のことです。したがって、一人の偉大な人間イエスの歴史的な姿を明らかにすることが中心的な課題となります。そのためにはどれがほんとうのイエスの言葉なのか、どのような状況の中で、誰に向かって、どんな意図とニュアンスで語られたものなのかを、学問的に慎重に判断しなければなりません。
全体的には、私の著書『イエスの現場』に基づいて講義します。

【学習目標】
イエスは社会の最下層・最底辺の人間たちと共に生き、彼らの自由と愛のために闘い、十字架刑で処刑された人間と言えるでしょう。そして、そのようなイエスの生き方は、「キリスト教」の枠をはるかに越えた普遍性と世界市民性を獲得しています。イエスの精神は、アッシジのフランシスコ、ザビエル、マザー・テレサらに受け継がれ、現代においても人権・福祉・ボランティア・教育などの問題に関心を有する世界中の多くの人々に、大きな感動と希望を与えつづけています。
なじみ難いテーマかもしれませんが、真面目な学生諸君の熱心でねばり強い受講を期待しています。なお、大学における授業ですので、「信仰」の有無などはまったく関係ありません。

【講義計画】
第１回　「新約聖書」「福音書」「イエス」
第２回　ビデオ（１）
第３回　山上の説教
第４回　神の国とは？
第５回　論争物語
第６回　癒し物語
第７回　譬え
第８回　ビデオ（２）
第９回　どんな人？
第10回　終末をどう生きる？
第11回　受難物語
第12回　復活物語
第13回　誕生物語
第14回　ビデオ（３）

【成績評価の方法】
試験　75%　レポート　10%　出席　15%
最初の授業で詳しく説明しますので、必ず出席してください。

【教科書】
滝澤武人 イエスの現場～苦しみの共有 世界思想社
ギデオン協会版『新約聖書』をキリスト教センターで無料配布の予定ですので、毎時間必ず持参してください。

【備考】
【準備学習の指示】余りなじみのないテーマなので、予習・復習が必要である。テキストとして指定した『イエスの現場』と『新約聖書』の該当部分を必ず読んでおいてほしい。

科目名　クラス　講義区分	
世界市民－経済開発、貧困削減と環境問題　01＜春＞ 世界市民－経済開発、貧困削減と環境問題　02＜秋＞	
厳　　善　平	２単位

【講義概要】

2009年12月に、第15回締約国会議(Conference of Parties＝COP15)がデンマークで開催された。地球温暖化を防止するために、二酸化炭素(CO２)の総排出量を削減する必要性が広く認識されたものの、各国が排出量の削減義務をどう履行していくかをめぐっては、先進国と途上国の間で激しい対立が見られた。背景に貧困・開発・環境の三者関係に関する先進国と途上国の理解、利害関係が深く絡んでいる。

宇宙地球号に住む我々は世界市民として貧困・開発・環境をどう考えるべきか、地球温暖化を防ぐためにどのような行動がとれるのか。そうした問題を考えるための基礎知識をこの講義で学べる。

授業ではなるべく多くの映像を観てもらい、問題の姿をリアルに捉えてもらう。そのうえで解説などを行う。

受講者数などの状況を見て、受講生と相談の上、授業の進め方を微調整することがある。

【学習目標】

地球環境問題の実態をある程度理解し、問題の所在およびあるべき対策について自分なりの考えを持つ。

【講義計画】

第１回　授業の進め方、講義内容の概要などについて説明する。
第２回　環境問題とはなにか
第３回　地球温暖化とはなにか:経済開発との関係から
第４回　NHKドキュメンタリー「地球温暖化①　人類のつめ跡」＋解説
第５回　NHKドキュメンタリー「地球温暖化②　予測を超える気象災害」＋解説
第６回　NHKスペシャル「救え!かけがえのない地球:破局回避へのシナリオ」＋解説
第７回　NHKスペシャル「環境革命が始まった:循環型社会への挑戦」＋解説
第８回　ガイアの夜明け「中国の『水の危機』を救え」＋解説
第９回　ドキュメンタリー「中国・環境汚染との戦い:長江デルタ地域からの報告」＋解説
第10回　ドキュメンタリー「大国のゴミ捨て場」＋解説
第11回　貧困削減と経済開発
第12回　NHKドキュメンタリー(貧困の解決に何ができるか　2002/10　45分)＋解説
第13回　NHKドキュメンタリー(貧困撲滅への長い道　2006/11　50文)　＋解説
第14回　総括・復習・質疑応答
第15回　期末試験

【成績評価の方法】

試験　50%　レポート　０%　出席　50%
出席確認は出席カードで不定期に行う。

【教科書】

テキストは使用しない。

【参考文献】

①『地球白書・2008-09年:持続可能な社会への変革』(2008)ワールドウォッチ研究所等。同シリーズの各年版。
②アジア経済研究所「連載・もっとやさしい開発経済学」『アジ研ワールドトレント』(2007年12月～2009年12月、計25回)をはじめ、同雑誌の関係記事を印刷して配布する。
③環境省『環境白書』各年。

科目名　クラス　講義区分	
世界市民－現代イスラーム情勢　01＜春＞ 世界市民－現代イスラーム情勢　02＜秋＞	
今　澤　浩　二	２単位

【講義概要】

この講義では、西アジアの現代イスラーム情勢に重点を置き、現在、イスラーム世界で何が起こっているのかについて考えていく。

よく宗教紛争と誤解されるパレスチナ問題とは実際いかなるものなのか。イスラーム主義運動（いわゆる「イスラーム原理主義」）とはどのようなものなのか。湾岸戦争やイラク戦争はなぜ起こり、現在イラクはどうなっているのか。なぜイスラーム世界では反米感情が渦巻いているのか。こうした点を中心に検討する。

【学習目標】

イスラームの現代情勢について、その原因と経過を理解し、それを通じて現代の世界情勢を把握することを目標とする。これは、「世界市民」となるための必須のものである。

【講義計画】

第１回　中東諸国の成り立ち①
第２回　中東諸国の成り立ち②
第３回　中東諸国の成り立ち③
第４回　「イスラーム原理主義」とは
第５回　アフガニスタン①-タリバンとオサマ・ビン・ラーディン-
第６回　アフガニスタン②-タリバンとオサマ・ビン・ラーディン-
第７回　パレスチナ問題①
第８回　パレスチナ問題②
第９回　パレスチナ問題③
第10回　パレスチナ問題④
第11回　イラン①
第12回　イラン②
第13回　イラク①
第14回　イラク②

【成績評価の方法】

試験　90%　出席　10%
初回の授業で、講義内容や成績評価の方法などについて詳しく説明するので、必ず出席すること。

【参考文献】

高橋和夫『アラブとイスラエル-パレスチナ問題の構図』(講談社現代新書、1992)
広河隆一『パレスチナ　新版』(岩波新書、2002)
酒井啓子『イラクとアメリカ』(岩波新書、2002)
酒井啓子『イラク　戦争と占領』(岩波新書、2004)
田中宇『タリバン』(光文社新書、2001)
宮田律『現代イスラムの潮流』(集英社新書、2001)
島敏夫『中東世界を読む』(創成社新書、2006)

科目名　クラス　講義区分	
世界市民－憲法・司法・人権　01＜春＞ 世界市民－憲法・司法・人権　02＜秋＞	
松　田　聰　子	２単位

【講義概要】
憲法は、国民の人権を守るために国家権力を制限し拘束する規範であり、そうであるからこそ国家の最高規範である。そのことを確認したうえで、最高裁判所の判例を素材にして人権保障とは何かを具体的に考察していく。

【学習目標】
日本国憲法の条文を実際に読みながら、条文を解釈することと、それを事実にあてはめて憲法問題を解決していくプロセスを習得することを目標にする。

【講義計画】
第１回　立憲主義の意味
第２回　人権の思想と体系
第３回　子どもの人権（バイクと校則、政治参加の権利）
第４回　外国人の人権（選挙権・公務就任権）
第５回　平等原則（尊属殺人と平等）
第６回　平等原則（非嫡出子と平等）
第７回　平等原則（国籍法と平等）
第８回　死刑制度と憲法
第９回　国家と宗教（剣道不受講と信仰の自由）
第10回　国家と宗教（愛媛県玉串料事件）
第11回　表現の自由と名誉毀損
第12回　表現の自由とプライバシー
第13回　企業と人権（三菱樹脂事件）
第14回　自由と平等（生存権訴訟）
第15回　試験

【成績評価の方法】
試験　100％

【教科書】
法学六法（2010年版）信山社
他の六法でも可能（但し最新版であること）。

【参考文献】
初宿正典他『いちばんやさしい憲法入門』（有斐閣）、笹田英司他『ケースで考える憲法入門』（有斐閣）、高橋和之他『ジュリスト・憲法判例百選ＩＩ』（有斐閣）

【備考】
復習をして、わからない用語があれば書きだして調べておくこと。

科目名　クラス　講義区分	
世界市民－国民国家を文化遺産保護の制度から考える01＜春＞ 世界市民－国民国家を文化遺産保護の制度から考える02＜秋＞	
井　上　　敏	２単位

【講義概要】
本学のスクールモットーは「世界市民の養成」である。しかし学生の皆さんにとって、何を手掛かりとして「世界市民」について考えていくのだろうか。本講義では「文化遺産」を保護する制度を通して、それにかかわる宗教や歴史観等の様々な価値観と国民国家の関係を示し、「世界市民」について考える材料を示していく予定である。講義の前半は日本や他の国民国家における文化財保護の制度の抱える問題を通して、国民国家と文化財保護制度の関係を理解してもらい、後半は世界遺産条約を中心とした国民国家を超える文化遺産保護の取り組みの難しさも合わせて、講義します。

【学習目標】
「文化財」は日本では国民共有の財産とされ、「世界遺産」は世界共通の顕著で普遍的な価値をもつもの、とされている。これはさまざまな問題をはらんだ構造であることを理解し、「世界市民」たることの難しさを感じてもらうとともに、そこから自分なりの「世界市民」観を構築すること。

【講義計画】
第１回　ガイダンス
第２回　古代ローマとキリスト教－宗教と価値観－
第３回　日本の文化財保護制度（１）－廃仏毀釈と日本の宗教－
第４回　日本の文化財保護制度（２）－埋蔵文化財の保護制度（１）－
第５回　日本の文化財保護制度（３）－埋蔵文化財の保護制度（２）－
第６回　日本の文化財保護制度（４）－埋蔵文化財の保護制度（３）－
第７回　国家と戦争と文化遺産
第８回　世界遺産条約（１）－条約の仕組みと問題点－
第９回　世界遺産条約（２）－宗教と世界遺産－
第10回　世界遺産条約（３）－オーセンティシティと多様な価値－
第11回　世界遺産条約（４）－国境を超える世界遺産－
第12回　ユネスコ条約と国境を超える不法取得文化財
第13回　まとめ－国境、国の歴史と文化財保護制度
第14回　まとめ－世界市民として文化財を守る、とは？
第15回　試験

【成績評価の方法】
試験　100％

【教科書】
使用しない。講義中に資料を配するする予定。

【参考文献】
適宜指示する。

【備考】
「準備学習の指示」
国民国家についての理解を自分なりにしておくこと。また文化財保護の難しさについても様々な文献にあたっておくこと。

さ行

科目名　クラス　講義区分	
世界市民－サバイバルのための４つの思考様式　＜秋＞	
矢　根　眞　二	２単位

【講義概要】
世界的な視野で同じ市民としての人権擁護に貢献したくとも，実際には国連のミレニアム目標を自分なりに評価することさえ難しいのが現実です。これでは世界市民失格なんでしょうか，こんな事態に陥る理由は何でしょうか，何から＆どのように手をつけるべきでしょうか，といった改善の糸口を共に考えてみたい入門のための基礎的な授業です。

【学習目標】
できれば少人数の演習のように個々人が設定した目標と結果のギャップを実際に認識・改善できるディスカッションの機会を設けたいのですが，それが不可能な場合でも形式論的な講義内容を実際の自分の目標-成果設定に使ってみることで判断力を高めることが最終的な目標です。

【講義計画】
第１回　＜履修選択情報：「世界市民」失格？＞
　講義内容は，前半(１ － ７)の幸福追求の必要条件としての自由＆科学的思考と，後半(８ － 14)の賢明な選択の論理としての選択費用＆集団的合理性に大別できます。初回は，全体を通じての学習内容・方法および成績評価の原則等の履修選択の基本情報を説明します。
第２回　It's a Wonderful Life! ＜１＞： 目標吟味＆読書期間
第３回　It's a Wonderful Life! ＜２＞： 目標吟味＆読書期間
第４回　利己的な遺伝子への反逆： 利己心・幸福・制度・自由
第５回　因果応報： 科学的な論理の基本
第６回　大数の法則： 科学的な実証の基本
第７回　Discussion 1 or Exam 1
第８回　多様な欲求を選択する： トレードオフと希少性
第９回　現在と将来を選択する： 希少性と機会費用
第10回　利己的な行動と幸福な社会： 集団的合理・非合理性
第11回　相手の立場からも考える： 最適反応戦略
第12回　予想結果から選択する： バックワードインダクション
第13回　Discussion 2 or Exam 2
第14回　世界市民へのハードル？： 学習内外の主要な課題

【成績評価の方法】
受講者の人数等によって，Discussion (and / or) Report か 授業時のExamのいずれをベースにするかは異なりますが，いずれの場合にも前半45%・後半45%・参加点10%で,60%が合格基準，いずれかを未受験の場合には「X」評価が原則です。

【参考文献】
図書館で利用できる＜ラッセル・ロバーツ (03)『インビジブルハート―恋におちた経済学者』日本評論社＞等の参考文献リストは初回に配布予定です

科目名　クラス　講義区分	
世界市民－世界市民の基礎知識　01＜春＞ 世界市民－世界市民の基礎知識　02＜秋＞	
宮　本　孝　二	２単位

【講義概要】
　世界市民の形成への動きは、激しく変動し多くの問題に直面している現在の世界にはわずかしか見ることはできないと思われるかもしれない。たしかにそれはかすかな可能性でしかない。しかし、人類史を回顧するならば、１万年前の農業の発明以来の伝統的社会の歴史が終わり、200年ほど前に本格化した近代化のなかで諸民族を統合した国民国家が形成され、国民に市民権が保障されるようになり、さらに市民権の種類と適用範囲が拡大し、それらが国民を超えていく方向性を展望できるのも確かである。もちろん、直面する諸問題はあまりに多く、さらには解決困難なものばかりである。この講義では、人類史を総括しつつ、それらの問題の内容、原因と対応策について解説し、世界市民であるための基礎知識を提供したい。

【学習目標】
　この講義は、本学の建学の理念でもある世界市民の育成に向けて、その基本となる世界市民の基礎知識を習得してもらうことを目的としている。世界市民とは現在のところは理想にとどまっているが、これこそ現代世界が目標とすべきものであり、現代に生きる人々が世界市民となるべく自己形成し役割遂行することが期待される。そのための基礎知識として、この講義ではまず、目標となる世界市民の理念ないし理想を、その歴史的形成過程をたどりつつ示し、次いでその理想の実現を妨げている現代世界の主要問題の現状、原因、対策を可能な限りわかりやすく示したい。以上のように世界事情を解説するなかで、市民権すなわち人権や、これも本学建学の理念の基礎にあるキリスト教や、現代世界での大学生の役割などについても理解を深めていただけるであろう。

【講義計画】
第１回　序論:世界市民とは誰のことか
第２回　貧困、不平等、飢餓と資本主義
第３回　産業化と環境破壊
第４回　国民国家、民族、民主主義
第５回　戦争、紛争、テロリズム
第６回　宗教対立と原理主義
第７回　グローバル犯罪
第８回　人身売買と児童労働
第９回　移民、難民、先住民
第10回　世界市民とアイデンティティ問題
第11回　比較文化と異文化理解
第12回　グローバルな危機管理
第13回　まとめと補足(１)
第14回　まとめと補足(２)
第15回　試験

【成績評価の方法】
試験　100%
　学期末試験（重要用語の空欄埋め問題と自由選択テーマの論論述問題）の結果によって評価する。

【教科書】
使用しない

【備考】
準備学習の指示：授業計画に示したテーマについて、初回に配布する「講義の要点」を参照しつつ、いくつかのキーワードの意味内容を図書館や情報センター（ネット）を活用して予習し、受講後にも再度調べるという復習を実施すれば、学習効果は高度になると期待される。

科目名　クラス　講義区分	
世界市民－世界についての想像力　01＜春＞ 世界市民－世界についての想像力　02＜秋＞	
岩　津　洋　二	２単位

【講義概要】

「世界市民」の定義は簡単ではない。しかし、他の世界、他の人生について思い描く意欲と能力がなければ、世界市民であることができないのは確実である。想像力は、世界市民の前提であるだけでなく、人間が自由であることのあかしでもある。

この講義は、今日の日本社会では眠りがちな想像力を刺激して、自分の世界を広げ、自己中心世界のくびきから脱するきっかけとなることをめざしている。他の世界、他の人生を描いたドキュメンタリーなどのさまざまな素材を利用しながら、この目的を追求したい。

【学習目標】

講義を受動的に受講するのではなく、提示される素材をきっかけとして他の世界をみずから疑似体験することをめざす。

【講義計画】

第１回　ガイダンス
第２回　想像力とは何か
第３回　ジョン・レノン『イマジン』
第４回　想像力から行動へ
第５回　他者の視線
第６回　視線の交流
第７回　想像力が広げる世界
第８回　歴史の認識
第９回　想像力の練習
第10回　飢える人々
第11回　想像力に導かれて
第12回　アフリカの多様性
第13回　子どもたちの未来
第14回　まとめ

【成績評価の方法】

試験　100％
毎回の授業中に出される課題に対応したテーマの小レポートの提出を求める。評価はレポートの提出回数と内容によって決定される。

【参考文献】

授業中に適宜指示する。

科目名　クラス　講義区分	
世界市民－世界の文化思いつくままに－異文化見聞録＜秋＞	
Philip　Billingsley	２単位

【講義概要】

First of all, please note that the lectures will all be in ENGLISH! However, the English will be very easy to understand, so, even if you don't feel confident, why not give it a try?
Whenever I get the chance, I like to "hit the road" (旅に出る) to visit a new country. Places I've visited in the last few years include Southeast Asia, China, Korea, Kenya, Egypt, the USA, Canada, New Zealand, Australia, and Finland. When I go to a country, I try not to be just a "tourist", taking photographs of famous places and then going on to the next place. I try to talk to people who live in that country, and to find out about the way they live. And then, because I'm a teacher, I like to bring their stories home and tell them to my students. The classes in this course will be based on some of the things I've learned in the places I visited.

【学習目標】

People naturally think that their own country's way of doing things is "normal", so they feel surprised or may even suffer from "culture shock" when they go abroad for the first time and find that people in other countries do things differently. That's why travel to other places is so important: it's a way of "broadening your horizons" (視野を広める), because what is "normal" (「当たり前」) for you might be "strange" (「変わっている」) to other people, and vice-versa (逆もまた同じ). In other words, learning about a new country or culture is also a way of learning about your own country, your own culture, and about yourself. By the end of this course, if you attend regularly, not only will you have a much greater understanding of the world; your English hearing ability will be much better too! Most important, I hope that you will be able to say to yourself, "so that's what "citizen of the world" means! (なるほど、「世界の市民」ってそういうことだったのか！)

【講義計画】

第１回　What is a "citizen of the world"? Introduction to the course: how to make the lectures easier for yourselves, what you will have to do, etc. (「世界市民」とは何もの？コース内容の説明、授業の賢い受け方、宿題の説明、受講生の責任など。)
第２回　(Continued)What is a "citizen of the world"? Introduction to the course: how to make the lectures easier for yourselves, what you will have to do, etc.
第３回　Why Travel? (何のために旅をする？)
第４回　A Lesson from the Arizona Desert (アリゾナ砂漠で気づいた事)
第５回　The Masai of Kenya: education vs. tradition (ケニヤのマサイ族：教育の良し悪し) (1)
第６回　(Continued)The Masai of Kenya: education vs. tradition (2)
第７回　Egypt, the Bedouins, and Islam (エジプトのベドウィン、そしてイスラム教；日本文化との不思議な重なり) (1)
第８回　(Continued)Egypt, the Bedouins, and Islam (2)
第９回　Egypt & China: the power of the mobile phone (エジプトと中国：携帯電話のパワー) (1)
第10回　(Continued)Egypt & China: the power of the mobile phone (2)
第11回　Lessons from China: "of course" revisited (中国で学んだ事；「当たり前」を超えて) (1)
第12回　(Continued)Lessons from China: "of course" revisited (2)
第13回　(Continued)Lessons from China: "of course" revisited (3)
第14回　Summary (総括)
第15回　Test (試験)

さ行

【成績評価の方法】
試験　60%　レポート　20%　出席　20%
There will be regular homework assignments, such as summaries of the lectures, and a written test at the end. 宿題（講義の要約など）を定期的に出す。最後に筆記試験がある。（いずれも日本語OK）
In order to improve your English hearing ability, regular attendance is essential. Students who skip too many classes will fail.英語の聴解力を磨くためには毎回の出席は欠かせない。欠席の多い受講生は落第する。

【参考文献】
特に無し。関連資料を随時配る。

【備考】
・英語による講義

科目名　クラス　講義区分	
世界市民－天皇制について考える　01＜春＞ 世界市民－天皇制について考える　02＜秋＞	
鈴　木　　健	２単位

【講義概要】
今日、世界の先進資本主義諸国の政治の現実に比して、日本のそれにはいくつかの「異常」な特徴がある。第二次世界大戦における日本の侵略行為を否定する異常、大戦後の日米関係における対米従属をかたくなに保持しようとする異常、大企業の利益を至上命題とする異常などである。いずれも大書特筆される異常ぶりであるが、その異常さにおいてかの大戦が侵略戦争であったことを否定する異常に止めを刺す。アジア諸国との関係悪化を承知でなお靖国参拝を強行した小泉元首相の政治行為が、あの戦争の侵略的性格を否定する異常の具体的な表現の一つの形であることは言うまでもない。この異常は何によるのか。
本講義では、この異常の根源をなすと考えられる天皇制をとりあげ、それが日本の支配層を構成する諸勢力の制度的・思想的基盤として、現にどのように機能しているのか、そもそも歴史的にどのように機能してきたのかという問題について考えてみることにする。

【学習目標】
本講義は、天皇制が日本列島における王権支配の特殊な形態として確立、定着し、時々の「実権」を掌握する者たちによって支配の正当化の根拠として利用されてきたという事実、ならびに、そのようなものとして利用されたのはなぜかという問題に関する受講生の理解を明瞭にすることを目標としている。天皇制について無自覚なままにイデオロギー注入されてきた受講生の意識の中に、天皇制に関する知的転換を惹き起こすことを目標としていると言い換えても良い。

【講義計画】
第１回　ガイダンス－今、天皇制について考えるのはなぜか、古代の天皇制①
第２回　古代の天皇制②
第３回　古代の天皇制③
第４回　古代の天皇制④
第５回　古代の天皇制⑤
第６回　中世の天皇制①
第７回　中世の天皇制②
第８回　中世の天皇制③
第９回　中世の天皇制④
第10回　近世の天皇制①
第11回　近世の天皇制②
第12回　近世の天皇制③
第13回　近現代の天皇制①
第14回　近現代の天皇制②
第15回　近現代の天皇制③

【成績評価の方法】
試験　100%
講義中に10回のテストを行い、６回以上の受験と６割以上の得点によって合格とする。

【参考文献】
①歴史科学協議会編『天皇・天皇制をよむ』（東大出版会、2008年）
②吉田孝『歴史の中の天皇』（岩波書店）
③吉田裕『昭和天皇の終戦史』（岩波書店）
その他、講義中に適宜紹介する。

【備考】
受講者は、配布されるレジュメ・資料、あるいは参考文献を参照しながら、当日の講義の内容を振り返り、併せて、次回の講義内容について、レジュメ・参考文献等の関連箇所をよく読んでおくことが望ましい。

科目名　クラス　講義区分	
世界市民－日本とアメリカの刑事司法制度　＜春＞	
大久保　正　人	２単位

【講義概要】

これまで、多くの市民にとって刑事司法制度（刑事手続・刑事裁判等）は、裁判官・検察官・弁護人という法律の専門家だけが関与するものであり、我々の日常生活とは関係のない「他人事」であると考えられていました。しかし、裁判員制度が導入された社会においては、一般市民であれ、刑事司法制度に無関心でいることは許されず、その「準備（心構え）」をしておくことが必要になっています。

本講義においては、「裁判員」時代の一般市民に必要とされる、刑事司法制度の「基礎」を学習していきます。

【学習目標】

本講義は、刑事司法制度を初めて学ぶ学生を対象として、制度の「全体像」を把握することを目標とします（細かい「論点」の研究は行いません）。

毎回、詳細なレジュメを配布します。板書は一切しませんので、講義中は、その内容について、頭の中で「イメージ」を膨らませてみてください。

【講義計画】

第１回　はじめに（刑事司法手続とは）
第２回　裁判員制度（１）　基礎知識編
第３回　裁判員制度（２）　発展編
第４回　裁判員制度（３）　世界の裁判制度編
第５回　アメリカの刑事手続（１）　概要
第６回　アメリカの刑事手続（２）　司法取引
第７回　アメリカの刑事手続（３）　陪審制度
第８回　刑罰制度（１）　懲役・禁錮・罰金、犯罪者の処遇
第９回　刑罰制度（２）　死刑
第10回　少年非行・少年犯罪（少年手続）
第11回　精神障害者の犯罪（刑法第39条）
第12回　犯罪と捜査（１）　犯罪・捜査
第13回　犯罪と捜査（２）　科学捜査・プロファイリング
第14回　おわりに（総復習）
第15回　試験

【成績評価の方法】

試験　100％　レポート　０％　出席　０％
原則として「試験」のみで評価する予定ですが、状況によっては「出席」を考慮する可能性もあります。

【参考文献】

テキストは使用しません（レジュメを配布）。
参考文献は、必要に応じて紹介します。

【備考】

「準備学習の指示」
予習：新聞・テレビ・ネット等を通して、この分野に興味を抱いてください。
復習：配布したレジュメを読み返し、想像力を膨らませてください。

科目名　クラス　講義区分	
世界体験入門　＜春＞	
梅　山　秀　幸	２単位

【講義概要】

海外事情および異文化への対処法など海外における生活上必要となる基本的な事項を受講者に講義するだけでなく、留学と海外ワークキャンプなどを経験した在学生と海外から本学に来ている留学生の話を聞きます。さらに世界各地で活躍している卒業生、NGOなどで国際協力に関わって人などをゲスト講師として招き、海外での活動と生活に関する実体験に基づく話を受講者に伝えたい。学期中に数回「前回までのまとめ」を設定し、前回までの講義の振り返りとディスカッションのための時間を取る予定です。

【学習目標】

子の講義は、今後、留学と海外研修、また海外での就職などにつながるような動機づけのための科目です。この講義を通して世界への関心を深めることを目標とします。そのためには、単に受身で講義を聴くだけでなく、積極的に講義に参加してもらいたい。

【講義計画】

第１回　世界を体験する方法：授業のガイダンス
第２回　インドネシアの国際ワークキャンパスの報告
第３回　海外研修セミナーの報告
第４回　前回までのまとめ
第５回　留学のすすめ
第６回　留学生との交流
第７回　前回までのまとめ
第８回　生のイタリアに触れる
第９回　生のフランスに触れる
第10回　ニューヨークでの留学体験
第11回　前回までのまとめ
第12回　海外青年協力隊の活動
第13回　国際協力と開発とは何か（１）
第14回　国際協力と開発とは何か（２）
第15回　総まとめ

【成績評価の方法】

試験　60％　レポート　20％　出席　20％
毎回講義の終了時に提出する出席カード（コメントを書く）と、課題レポートの提出、期末試験の成績を総合的に評価して、成績を決めます。

【参考文献】

必要に応じて講義中に紹介します。

【備考】

・インテグレーション科目
・10L生対象

さ行

科目名　クラス　講義区分	
世界の英語　＜春集＞	
野　原　康　弘	4単位

【講義概要】
最近、グローバル化が進行する中、英語は世界中で国際言語の地位を獲得している。英語の国際化は、英語の多様化を招き、いろいろな英語が登場してきている。イギリス英語とアメリカ英語が中心だった時代は幕を閉じ、イギリス周辺だけでも、スコットランド英語、ウェールズ英語、アイルランド英語があり、イギリスから遠く離れた地域にも、カナダ英語、オーストラリア英語、南アフリカ英語、インド英語、シンガポール英語が堂々とその存在をアピールするようになってきている。
もともと一つであった英語が、それぞれの国や地域で、それぞれの歴史と文化を背景に、現地の言語と癒合しながら独自の発達を遂げてきている。
この講義では、それぞれの英語の歴史的な背景と特徴を解説していくことにする。

【学習目標】
英語という言語の誕生と発展に関する簡単な歴史を理解すること。
英語から生じた変種の英語の特徴をそれぞれ把握すること。
標準英語と変種の英語がこれからどのように変化していくのかを考察すること。

【講義計画】
第１回　授業計画の詳しい説明
　　(講義の順番は変更する場合があります)
第２回　インド・ヨーロッパ語
第３回　英語の先祖
第４回　ブリテン島のケルト人
第５回　ローマの支配
第６回　アングロ・サクソン人
第７回　ヴァイキングの侵略
第８回　ノルマン人の征服
第９回　英語の復活
第10回　英語の海外進出とピジン英語
第11回　英語の方言
第12回　ウェールズ英語(１)
第13回　ウェールズ英語(２)
第14回　スコットランド英語(１)
第15回　スコットランド英語(２)
第16回　アイルランド英語(１)
第17回　アイルランド英語(２)
第18回　アメリカ英語(１)
第19回　アメリカ英語(２)
第20回　カナダ英語(１)
第21回　カナダ英語(２)
第22回　オーストラリア英語(１)
第23回　オーストラリア英語(２)
第24回　南アフリカ英語
第25回　インド英語(１)
第26回　インド英語(２)
第27回　シンガポール英語
第28回　英語の将来
第29回　期末試験

【成績評価の方法】
試験　70%　出席　30%
９回以上の欠席は単位認定対象外になります。

【参考文献】
講義中に適宜指示します。

【備考】
[準備学習の指示]
講義終了時に、次の講義に向けての課題を出しますので真剣に取り組んでください。

科目名　クラス　講義区分	
世界のメディア　＜通期＞	
取　屋　淳　子	4単位

【講義概要】
現在、世界から瞬時にあらゆる情報を得ることが出来る時代である。しかし、それらは受け取る側の文化や価値観によって異なってくる。
この講義では、日本が世界に誇るアニメやマンガなどに焦点を当て、異文化での受容を通して、世界のメディアを違う角度から深く考察していく。

【学習目標】
日頃から慣れ親しんでいるアニメやマンガ、映画などを中心にさまざまな角度から分析していくことで、「ニッポン」を客観的に見ていく。
同時に、同じ作品が世界でどのように受容されているのかを探究することで、グローバル化のさまざまな側面を明らかにしていきたい。

【講義計画】
第１回　オリエンテーション
第２回　メディアとは何か？
第３回　メディアの影響力
第４回　世界の中の日本
第５回　グローバル化する「ニッポン」①
第６回　グローバル化する「ニッポン」②
第７回　グローバル化する「ニッポン」③
第８回　グローバル化する「ニッポン」④
第９回　グローバル化する「ニッポン」⑤
第10回　グローバル化する「ニッポン」⑥
第11回　グローバル化する「ニッポン」⑦
第12回　メディアの立場①
第13回　メディアの立場②
第14回　講義のまとめ①
第16回　メディアの役割
第17回　グローバル化する「ニッポン」①
第18回　グローバル化する「ニッポン」②
第19回　グローバル化する「ニッポン」③
第20回　グローバル化する「ニッポン」④
第21回　グローバル化する「ニッポン」⑤
第22回　グローバル化する「ニッポン」⑦
第23回　グローバル化する「ニッポン」⑧
第24回　アジアの中の日本Ⅰ
第25回　アジアの中の日本Ⅱ
第26回　発信する側と受信する側①
第27回　発信する側と受信する側②
第28回　まとめⅠ
第29回　まとめⅡ

【成績評価の方法】
出席、授業内でのレポート、試験から総合的に評価する。

【教科書】
プリントを配布する。

【参考文献】
講義中に、適宜、紹介する。

科目名　クラス　講義区分		
専修基礎演習		
日下隆平 日下隆平 岩津洋二 佐々木英哲 中井紀明 中井紀明 和栗珠里	01＜春＞ 02＜春＞ 03＜春＞ 08＜春＞ 12＜春＞ 13＜春＞ 17＜春＞	2単位

【講義概要】
この演習では、専門分野の異なる教員が、それぞれの守備範囲に応じて具体的な事例をいくつか取り上げ、その事例をもとに授業を展開していく運びとなる。担当教員は受講生が提出した課題に対してフィードバックを行い、受講生がアカデミック・リテラシーを容易に修得できるよう取り計らう。

(1)学問の方法と関連知識を修得する。
日本という極東で生活する者がヨーロッパ・アメリカ文化を研究する今日的意義はどこにあるか、欧米文化をどのように読み解くことができるか、分析する何らかの方法はあるのか、どのようにしたら関連情報にアクセスできるのか、等について担当教員から手ほどきを受ける。
(2)プレゼンテーションの技術を身につける。
研究対象をヨーロッパ・アメリカ文化に据え、各人はその問題点をさぐる。そのうえで、口頭発表を行い、議論し、論文の形でまとめあげる。このような一連の作業に必要な技術を身につける。

【学習目標】
ヨーロッパ・アメリカ文化を研究対象に据えたうえで、アカデミック・リテラシーの修得を目指す。すなわち(1)学問の方法と関連知識、(2)プレゼンテーションの技術を修得する。

【講義計画】
第1回　ヨーロッパ・アメリカ文化の今日的状況(1)
第2回　ヨーロッパ・アメリカ文化の今日的状況(2)
第3回　ヨーロッパ・アメリカ文化の歴史的背景(1)
第4回　ヨーロッパ・アメリカ文化の歴史的背景(2)
第5回　ヨーロッパ・アメリカ文化を分析するツール(1)
第6回　ヨーロッパ・アメリカ文化を分析するツール(2)
第7回　ヨーロッパ・アメリカ文化を分析するツール(3)
第8回　論文の読み方(1)
第9回　論文の読み方(2)
第10回　レポート論文作成の技術と担当教員によるフィードバック(1)
第11回　レポート論文作成の技術と担当教員によるフィードバック(2)
第12回　口頭発表、担当教員によるコメント、ディスカッション(1)
第13回　口頭発表、担当教員によるコメント、ディスカッション(2)
第14回　口頭発表、担当教員によるコメント、ディスカッション(3)

【成績評価の方法】
試験　20%　レポート　40%　出席　40%
レポートには口頭発表も含まれる。出席とは、単に教室に「いる」ということではない。受講生には積極的に参加したかどうかが問われることになる。平常試験では、その学問分野に特有の用語や事象を説明するよう求められることがある。また、担当者によっては平常試験を行わない専修基礎演習もある。その場合は、レポート、出席の配分が多くなる。

【備考】
【準備学習の指示】
日頃から機会を捉えてヨーロッパ・アメリカの文化（芸術作品）に触れるよう心がける。
あわせて言語の壁を乗り越える訓練を積んでおく。
・ヨーロッパ文化専修対象

科目名　クラス　講義区分		
専修基礎演習		
梅山秀幸 片平幸 友沢昭江	04＜春＞ 05＜春＞ 11＜春＞	2単位

【講義概要】
国際教養学部のJapanese Studies専修の学生として必要な基礎的な素養を身につけることをめざします。従来の「日本研究」と違う新しい視点で「日本」をとらえ、発信するため、日本語と英語のコミュニケーション力を伸ばします。講義ではなく学生一人一人が分担をもち、発表する形式で進めます。学期中に最低一回は留学生を招いて、「外からみた日本」について知る機会をもちます。また大阪府内の博物館、地域に出向いて「日本」を感じます。

【学習目標】
「日本」を発信するために求められる基本的な知識を得るための日本語文献を読むことから始め、発信の手段となる英語力を伸ばします。具体的には日本語文献を2冊、英語の文献（日本について書かれた短めの論文、新聞記事）や英語による日本文化紹介の映像を視聴して、内容理解とともに日本を紹介するためのキーワードなどを学びます。

【講義計画】
第1回　授業の内容と進め方についての説明。参加学生による自己紹介。
日本語文献(1)の紹介と発表分担者を決める。
第2回　日本語文献(1)
第3回　日本語文献(1)
第4回　日本語文献(1)
第5回　日本語文献(1)
第6回　日本語文献(1)のまとめ
第7回　Begin Japanology(1)
第8回　Begin Japanology(1)
第9回　桃山学院大学の留学生を招いての交流
第10回　Begin Japanology(2)
第11回　Begin Japanology(2)
第12回　フィールドトリップ
第13回　Begin Japanology(3)
第14回　Begin Japanology(3)
第15回　まとめ

【成績評価の方法】
レポート　50%　出席　50%
文献の分担発表を最重要ししますが、授業中の参加姿勢や出席も同程度に重要です。

【教科書】
加賀野井秀一 日本語は進化する一情意表現から論理表現は 日本放送出版協会

【参考文献】
・関連する文献については授業中に適宜紹介します。
・「Begin Japanology」(NHK)

【備考】
・Japanese Studies 専修対象

さ行

科目名　クラス　講義区分		
専修基礎演習		
串田久治 深見純生	06＜春＞ 14＜春＞	２単位

【講義概要】
明治以後の日本は、欧米型の近代化を推し進め、さらに戦争・植民地支配を経験することで、人びとの間では「脱亜入欧」（アジアを脱して欧米に入る）の考え・心性が強まり、今日に至っている。社会に吹いているこの「脱亜入欧」という逆風の中にあって、あえてアジア文化専修を志望した受講生の熱意は貴重である。この授業では、アジアを学ぶ意義について考えることを含めて、アジアとアジア諸地域に関する基礎知識の習得をめざす。それに加え、専門的な学習を進めるために必要な文献検索やプレゼンテーションの方法、レポート作成の技法の習得・レベルアップをはかる。

【学習目標】
アジアというもの、アジアと日本の関わり、そしてアジア諸地域に関する基礎知識を習得すること。また専門的学習のための文献検索・プレゼンテーション・レポート作成の技法を習得しレベルアップすること。

【講義計画】
１回目はオリエンテーション。その後は大きく二つの分野からなる。第一に、「アジアとは何か」「脱亜入欧」「日本とアジアの関係」などのテーマで適切な文献を読み、要約し、関連することがらを自分たちで調べ、その内容を口頭発表するという形で進める。（５回を予定。）
第二に、受講生がもっとも興味を持っている国を選んで、それぞれバーチャル旅行を試みる。各人が日本を出発して現地に到着する方法、現地で訪れたい都市や観光スポットについて調べ、その国の文化や歴史など、新しく発見したことを発表する。この発表が一巡したら、各人が自分の研究対象国についてさらに調べたことがら講義をする（あるいは各国についての体験談を語る）。（４回＋４回を予定。）

【成績評価の方法】
レポート　50%　出席　50%
出席状況、受講態度、口頭発表、レポートを総合的に評価する。

【参考文献】
授業のなかで適宜指示する。

【備考】
現代アジア論をあわせて受講すること。
・アジア文化専修対象

科目名　クラス　講義区分		
専修基礎演習		
境　真理子 佐野明子 南出和余	07＜春＞ 09＜春＞ 16＜春＞	２単位

【講義概要】
現代社会の中で、メディアとの関わりを遮断して生きていくことはほとんど不可能である。その一方で、メディアのあり方自体も、人々がどのように情報を受容したり発信したりするかということと深く関りながら、社会の中で形作られてきたものでもある。
基礎演習では、２年次以降に専門的に学ぶことになる「メディア文化」について、専修の入門編となるような知識や技術を学ぶ。講義の形式も取り入れながら、専修で学ばねばならないこととその方法を具体的に指導し、メディアの基礎的知識が学べるよう設計される。

【学習目標】
メディア文化専修で取り上げるテーマ理解のため、基礎的な概念と方法を学習する。１年次に学んだレポート作成とプレゼンテーションの力をベースに、議論や実践を積み重ねながら、さまざまなメディアの特性を分析し、現代の諸問題への答えを探る分析力を培う。

【講義計画】
第１回　オリエンテーション・ガイダンス
　　１回から14回まで、それぞれの内容は専修の入門編と位置づけられる。
第２回　メディア文化の基礎
第３回　マスメディアの基礎
第４回　ネットワーク社会と情報検索
第５回　メディアと私たち①　メディアと私たちの関係
第６回　メディアと私たち②　透明化・環境化するメディア
第７回　メディアと私たち③　メディア・リテラシーの基本的な考え
第８回　メディア遊び①メディア特性を知る、身近なメディア機器の利用
第９回　メディア遊び②メディア特性を知る、身近なメディア機器で作る
第10回　表現①メディアについてリサーチし、まとめる
第11回　表現②調べたメディアについて発表する
第12回　表現③調べたメディアについて発表する
第13回　メディアの影響と効果
第14回　総合ディスカッション

【成績評価の方法】
試験　０%　レポート　50%　出席　50%
出席と随時実施する小レポートの課題、および授業への積極的な参加を総合して評価する。

【参考文献】
授業で、推薦書リストを配布する。

【備考】
【準備学習の指示】
本授業では教科書は指定していませんが、講義のなかで書籍や映像作品などを随時推薦、指示します。またメディア関連用語に慣れていない場合は、メディアの基礎知識を事前に学ぶなど、授業にのぞむ準備をしてください。日ごろから「メディア」や「ジャーナリズム」にかかわる書籍、記事、広告、映画、テレビなどに接し、それらを注意深く読み解く習慣をつけておいてください。
・メディア文化専修対象

科目名　クラス　講義区分	
専修基礎演習　10<春>	
清　水　真　一	2単位

【講義概要】
この演習は英語コミュニケーション特待生留学に参加しなかった学生を対象とする。本演習をとおして、学問の方法と関連基礎知識の修得を目指す。具体的には、まず専修関連分野にかかわる複数の基本文献を輪読し、基本的な概念や議論展開の仕方を学ぶと同時に、できうる限り批判的な観察を加えつつ内容の把握・整理をおこない、問題の所在を明らかにしていくという基礎的作業がすすめられる。かかる後、プレゼンテーションをおこない、フロアとの質疑・討論を経ることによって、参加者の主体的な問題解決への旅立ちに役立てばと願っている。かかる仕方で「演習」への橋渡しとなれば幸いである。

【学習目標】
以上の一連の作業は文献の講読を演習形式でおこなうことで始まる。報告者と質問者、さらに、プレゼンテーションにおける司会・タイムキーパーなどの役割分担をあらかじめ決定しておく。プレゼンテーションは英語でおこなうことを原則とする。参加者は最終回にレポートを提出することが義務づけられる。全員参加型の演習を目指すためにも、出席は重視されるし受講生の積極的参加が望まれる。

【講義計画】
第１回　ガイダンス、報告分担・役割分担の決定
第２回　文献①の講読　報告と討議
第３回　文献①の講読　報告と討議
第４回　文献①の講読　報告と討議
第５回　文献①の講読　報告と討議
第６回　文献②の講読　報告と討議
第７回　文献②の講読　報告と討議
第８回　文献②の講読　報告と討議
第９回　文献②の講読　報告と討議
第10回　文献③の講読　報告と討議
第11回　文献③の講読　報告と討議
第12回　文献③の講読　報告と討議
第13回　文献③の講読　報告と討議
第14回　まとめ

【成績評価の方法】
報告と討論（40%）、出席（30%）、レポート（30%）
なお、欠席３回以上の場合、単位は認定しない。出席にかかわる評価は、割りふられた報告分担・役割分担を積極的に担って演習に参加することを前提とする。

【備考】
09L生のみ履修可。本演習への参加が意義あるものとするためには、参加者の主体的な学びの態度と積極的な演習参加の両方が必須である。
・英語コミュニケーション専修対象

科目名　クラス　講義区分	
専修基礎演習　15<春> 専修基礎演習　18<秋>	
Michael　Carroll	2単位

【講義概要】
The course will be held entirely in English, and the theme will be Study Abroad, Language and Culture.
授業はすべて英語で行う。海外留学と文化と言葉をテーマとする。

【学習目標】
The purpose of this class is to build on the experiences of the students who have returned from overseas, to consolidate English language skills, and to develop oral presentation skills.
この演習が掲げる目標は次の通り。（１）特待生留学で得た経験をいかす。（２）英語運用能力の定着をはかる。（３）プレゼンテーション及びエッセイ・ライティングのスキルに磨きをかける。

【講義計画】
第１回　Introduction to the course
第２回　Orientation Handbook 1
第３回　Orientation Handbook 2
第４回　Orientation Handbook 3
第５回　Orientation Handbook 4
第６回　Presentation skills 1
第７回　Presentation skills 2
第８回　Presentation skills 3
第９回　Presentation skills 4
第10回　First assessed presentation
第11回　Presentation evaluations
第12回　Final Presentations
第13回　Evaluation and summary
第14回　Discussion: Where to next?

【成績評価の方法】
Orientation Handbook (33%)
Oral Presentations (33%)
Weekly journal/vocabulary notebook (33%)
No more than three absences will be allowed.
欠席３回以上の場合、単位は認められない。

【備考】
オーリエンテーション・ハンドブックの評価の一点として、授業の時間以外に様々な「2010年度留学オリエンテーション」で発表する事が必要です。
As one part of the assessment for the Orientation Handbook, students may be required to give presentations at orientation sessions for students going overseas in 2010.
・英語コミュニケーション専修対象

さ行

科目名　クラス　講義区分	
専門資料論　＜春＞	
本　間　栄　男	２単位

【講義概要】
学術文献と一般資料との違い、分野による学術文献の特徴、学術文献の利用方法などについて解説する。

【学習目標】
司書として資料の扱い方を学ぶというだけではなく、その他の職業に就いても、あるいは一般利用者としても専門的な資料を扱う場面がありえる。そのさいに役立つ情報リテラシーの基礎を学ぶことが目標である。

【講義計画】
第１回　はじめに：専門分野の特性
第２回　専門資料の種類と特徴
第３回　専門資料の種類と特徴
第４回　専門資料の種類と特徴
第５回　一次資料の活用演習
第６回　学術文献の歴史
第７回　学術文献の歴史
第８回　主要な二次資料
第９回　専門辞典と百科辞典
第10回　専門辞典と百科辞典
第11回　専門辞典と百科辞典
第12回　二次資料の活用演習
第13回　二次資料の活用演習
第14回　まとめ
第15回　まとめ

【成績評価の方法】
試験　50%　出席　50%

【備考】
【準備学習の指示】
本学の図書館を探索し、普段は訪れない書架（特に地下書庫）などを見学する。その際に、図書の分類、配架の方法などに注意すること。

科目名　クラス　講義区分	
戦略管理会計　＜秋＞	
谷　　武　幸	２単位

【講義概要】
管理会計は経営戦略を実現するためのシステムです。管理会計では、経営戦略の実現に向けて将来を計画(plan)し、このプランの実行(do)プロセスにおいてプランの実現をチェック(check)し、必要なアクション(action)をとるという一連のサイクル、つまりPDCAサイクルを回します。このクラスでは、経営戦略に焦点を当てた管理会計システムつまり戦略管理会計システムを講義します。

【学習目標】
この講義では、戦略管理会計の基礎的知識の習得を目指します。これらをマスターしておけば、管理会計の最近のトピックスの学習に進むことができます。

【講義計画】
第１回　管理会計とマネジメントコントロール(１)
第２回　管理会計とマネジメントコントロール(２)
第３回　管理会計と経営戦略
第４回　長期経営計画
第５回　設備投資計画
第６回　ABC/ABM
第７回　価値連鎖分析
第８回　品質コストマネジメント
第９回　バランスト・スコアカード(１)
第10回　バランスト・スコアカード(２)
第11回　非営利組織の戦略マネジメント
第12回　原価企画(１)
第13回　原価企画(２)
第14回　環境コストマネジメント

【成績評価の方法】
試験　100%

【教科書】
谷　武幸 エッセンシャル管理会計 中央経済社

【備考】
準備学習の指示
　履修にあたっては、講義前に教科書をあらかじめ読んでおくこと。また、講義内容の要点をプリントして配布するので、この資料にしたがって復習を行うこと。
・02～07生は読替一覧参照

科目名　クラス　講義区分	
総合人間学　＜通期＞	
寺　木　伸　明	4単位

【講義概要】
20世紀に多くの学問で専門分野の細分化が起き、さまざまな「学」が生まれた。しかし、個別の「学」では、今日の人類が直面する地球環境、人口、教育、人権などの諸問題に十分答えることができない。21世紀には、学際的な人間に関する、新たな総合学が必要とされる。この講義は上述のような学問的要請に応じて、複数の講師によって行われる「インテグレーション」科目として実施される。内容は次のとおりである。

1．ヒト学入門：自然におけるヒトの位置、ヒトの行動の進化、ヒトの地理的多様性の理解
2．人間思想史：東西の哲人が語った人間像の理解と、人間理解の哲学的アプローチの理解
3．文学とヒューマニズム：愛・孤独・不安・挫折・苦悩等とヒューマニズム文学作品のもつ人間性へのメッセージの理解
4．異文化理解：東西文化の特徴と地理的条件、民族性、文化摩擦と国際交流の理解
5．国際人権論：アイヌをはじめとする世界の少数民族と先住民族の文化と歴史・現状、インド・日本などにおける身分差別の歴史と現状、人権に関わる国連の活動と国際法の理解

【学習目標】
自然科学と人文・社会科学の最新の研究成果を踏まえながら、新たな学際的総合教育をめざす。ここで人間とは、生物種ヒトとその文化の双方を含み、現代文明のもとでさまざまな問題に直面しながら、科学・技術、法律、教育、芸術、宗教などを生み出している主体ととらえる。文化の多様性・相対性を認めつつも、異なる文化を持つ人々の間での共通性を解明することによって、ヒューマニズムとは何かという人間学の目標にも迫っていきたい。

【講義計画】
第１回　授業の到達目標及びテーマ、授業の概要、授業計画、参考書、学生に対する評価等についての説明
第２回　自然におけるヒトの位置
第３回　ヒトの進化の道のり
第４回　ヒトの特徴：形態と行動
第５回　現代文明とヒト
第６回　脳科学の最前線
第７回　ギリシア人の「人間」理解
第８回　西洋近代思想の「人間」理解
第９回　イスラム教の「人間」理解
第10回　仏教の「人間」理解
第11回　儒教の「人間」理解
第12回　イエスの「人間」理解
第13回　苦しむ存在としての人間
第14回　“Outlaws”－「法の外」で生きる人間：中国の場合
第15回　これまでのまとめと質疑応答
第16回　偏見と差別と人間
第17回　アイルランド移民の歌―故国喪失者の風景
第18回　ドストエフスキー“罪と罰”
第19回　英米のSF小説が描く“ヒューマニティ”
第20回　メルヴィル“白鯨”をめぐって
第21回　日本文学にみるヒューマニズム
第22回　江戸演劇の中の子ども
第23回　異文化へのアプローチ
第24回　学校における異文化理解
第25回　世界の人権問題
第26回　インドのカースト差別と日本の部落差別
第27回　国連における人権保障システム
第28回　多文化社会における人権教育のあり方
第29回　年間のまとめ。質疑応答
第30回　試験

【成績評価の方法】
試験　70%　出席　30%
成績評価は、授業の内容に基づいて、どれだけ人間について総合的に理解できたかを基本的な観点とする。毎回、出席カードに講義の感想・意見・疑問などを書いて提出してもらう。これを出席点としてカウントする。学年末試験の点数を基本として、出席点を加味して総合的に評価する。

【参考文献】
尾本惠市『ヒトはいかにして生まれたか』岩波書店、1998年
沖浦和光・寺木伸明・友永健三『アジアの身分制と差別』解放出版社、2004年
その他、授業中に必要に応じて紹介する。

【備考】
準備学習の指示
講義はシラバスに沿って、インテグレーション形式で行われるが、各講義の最後に次回講義の講師とテーマを紹介するので、次回の講師のプロフィール、講義テーマに関係の深いと思われる著書などを調べ、読んでおくことが望まれる。
・インテグレーション科目

さ行

科目名　クラス　講義区分		
ソーシャルワーク演習Ⅰ		
郭　麗　月 石　田　易　司 川　井　太加子 福　田　公　教 栄　セツコ 松　端　克　文 丸　山　裕　子	01＜秋＞ 02＜秋＞ 03＜秋＞ 04＜秋＞ 05＜秋＞ 06＜秋＞ 07＜秋＞	2単位

【講義概要】

この科目では、社会福祉士に求められる相談援助に係る価値・知識・技術を習得するための基礎（自己覚知やコミュニケーション技術等）を前半で学習し、後半では、他科目との関連性も視野に入れ、社会福祉専門職の実践に必要とされる援助（支援）活動のための基本的態度・技術・視点を総合的かつ統合的に学習することを目的とする。

具体的な課題別の相談援助事例等を活用し、実践に必要とされる様々な知識や技術をシミュレーション学習を通して、総合的に学ぶ。

【学習目標】

社会福祉専門職の実践に必要な価値・知識・技術を総合的かつ統合的に養い、ソーシャルワーク演習Ⅱの学習に繋げる。

【講義計画】

第１回　オリエンテーション（ソーシャルワーク演習ⅠⅡⅢの目的と流れ）
第２回　自己覚知　①（自己理解：個人指導）
第３回　自己覚知　②（他者理解：集団指導）
第４回　自己覚知　③（自己理解、他者理解：振り返り）
第５回　基本的なコミュニケーション技術の習得　①（各コミュニケーション方法の概要の説明：集団指導）
第６回　基本的なコミュニケーション技術の習得　②（各コミュニケーションスキルの基礎を学ぶ：個別指導、集団指導）
第７回　基本的な面接技術の習得　①　（ビデオ教材を用いて具体的な利用者像を想定し具体的な援助方法を討議する。：集団指導）
第８回　基本的な面接技術の習得　②　（事例やビデオ教材などを用いて、ソーシャルワーク技術を活用した具体的な援助方法についてロールプレイなどを行う：個別指導、集団指導）
第９回　社会的排除について　具体的な利用者像を想定した相談援助事例から面接技術を学ぶ（集団に対する相談援助事例を含む。）
第10回　虐待（子ども・高齢者）具体的な利用者像を想定した相談援助事例から面接技術を学ぶ（集団に対する相談援助事例を含む。）
第11回　家庭内暴力（D.V）具体的な利用者像を想定した相談援助事例から面接技術を学ぶ（集団に対する相談援助事例を含む。）
第12回　低所得者　具体的な利用者像を想定した相談援助事例から面接技術を学ぶ（集団に対する相談援助事例を含む。）
第13回　ホームレス　具体的な利用者像を想定した相談援助事例から面接技術を学ぶ（集団に対する相談援助事例を含む。）
第14回　上記以外の危機状態にある相談援助事例（権利擁護活動を含む。）から学ぶ
第15回　まとめ

【成績評価の方法】

出席・授業の参加態度と課題の提出状況を総合して評価する

【参考文献】

ワークブック社会福祉援助技術演習１　対人援助の基礎

【備考】

・02～08生は読替一覧参照

科目名　クラス　講義区分		
ソーシャルワーク演習Ⅱ		
梓　川　一 大　垣　芳　美 川　東　光　子 塩　田　祥　子 武　田　祐　子 丸　山　裕　子 安　原　佳　子 藤　原　慶　二	01＜秋集＞ 02＜秋集＞ 03＜秋集＞ 04＜秋集＞ 05＜秋集＞ 06＜秋集＞ 07＜秋集＞ 08＜秋集＞	4単位

【講義概要】

実習前のソーシャルワーク演習Ⅱでは、これまで学習した講義などとの関連から、より具体的、実際的な場面を想定して、社会福祉専門職として実践に必要とされる支援活動のための基本的態度・技術・視点を総合的かつ統合的に養うことを目的とする。

実践活動に必要とされるさまざまな知識や技術をシュミレーション学習を通して、総合的に学習する。

【学習目標】

他の講義やソーシャルワーク演習Ⅰ・社会福祉フィールドワークなどで学んだ内容を、ソーシャルワーク実習を視野にいれ、より具体的、実際的場面を想定して、自らの中で統合し、考察を深めることができる。

【講義計画】

第１回　オリエンテーション(ソーシャルワーク演習Ⅱの目的と方法)
第２回　ソーシャルワーク実践における技術とは
第３回　援助的な関係とは(Ⅰ)
第４回　援助的な関係とは(Ⅱ)
第５回　コミュニュケーション・マナー(Ⅰ)
第６回　コミュニュケーション・マナー(Ⅱ)
第７回　援助の基本的技法としての面接(Ⅰ)
第８回　援助の基本的技法としての面接(Ⅱ)
第９回　援助の基本的技法としての面接(Ⅲ)
第10回　援助の基本的技法としての面接(Ⅳ)
第11回　社会福祉専門職をめざす自分を理解する(Ⅰ)
第12回　社会福祉専門職をめざす自分を理解する(Ⅱ)
第13回　社会福祉専門職をめざす自分を理解する(Ⅲ)
第14回　あなたならどうする？(Ⅰ)
第15回　あなたならどうする？(Ⅱ)
第16回　事例研究法と事例
第17回　ソーシャルワーク実践における価値と倫理
第18回　記録について(Ⅰ)
第19回　記録について(Ⅱ)
第20回　記録について(Ⅲ)
第21回　事例研究(Ⅰ)
第22回　〃
第23回　事例研究(Ⅱ)
第24回　〃
第25回　体験的ケーススタディ(Ⅰ)
第26回　〃
第27回　体験的ケーススタディ(Ⅱ)
第28回　〃
第29回　まとめと自己評価
第30回　〃

【成績評価の方法】

レポート　20%　出席　80%
出席回数のみならず、授業への参加態度を重視し、提出レポートも合わせて総合的に評価する

【教科書】

必要に応じて、担当者が作成したプリントを配布する

【参考文献】

「新社会福祉援助技術演習」社会福祉教育方法・教材開発研究会編　中央法規
「タイ人援助ワークブック」対人援助実践研究会編　久美KK
「実習生のための対人援助技術」社会福祉実習研究会編　中央法規
「現場の力」尾崎新著　誠信書房
「社会福祉学原論」岡村重夫著　全国社会福祉協議会
「社会福祉小六法」
その他事例集

【備考】

【準備学習の指示】

演習に必要な教材は、できるかぎり事前に配布するように努力するので、事前学習をこころがけること。

また、必要に応じ、ソーシャルワーク論Ⅰ・Ⅱにおける関連部分の理論学習の復習をし、事前準備を行って演習に臨むこと。

・06～08生は読替一覧参照

科目名　クラス　講義区分		
ソーシャルワーク実習指導Ⅰ		
郭　麗月 伊藤高章 川井太加子 福田公教 栄　セツコ 松端克文 丸山裕子	01＜春＞ 02＜春＞ 03＜春＞ 04＜春＞ 05＜春＞ 06＜春＞ 07＜春＞	2単位

【講義概要】
ソーシャルワーク演習Ⅰでは、社会福祉士に求められる相談援助に係る知識と技術を習得するための基礎となる、自己覚知や、コミュニケーション技術について前半で学び、後半では、他の科目との関連性も視野に入れつつ、社会福祉専門職として実践に必要とされる援助（支援）活動のための基本的態度・技術・視点を総合的かつ統合的に養うことを目的とする。
具体的な課題別の相談援助事例等（集団に対する相談援助事例を含む。）を活用し、実践活動に必要とされるさまざまな知識や技術をシュミレーション学習を通して、総合的に学習する。

【学習目標】
ソーシャルワーク演習Ⅱの学びに繋がるように社会福祉専門職として実践に必要とされる援助（支援）活動のための基本的態度・技術・視点を総合的かつ統合的に養うことができる。

【講義計画】
第１回　オリエンテーション（ソーシャルワーク演習ⅠⅡⅢの目的と流れ）
第２回　自己覚知　①（自己理解：個人指導）
第３回　自己覚知　②（他者理解：集団指導）
第４回　自己覚知　③（自己理解、他者理解：振り返り）
第５回　基本的なコミュニケーション技術の習得　①（各コミュニケーション方法の概要の説明：集団指導）
第６回　基本的なコミュニケーション技術の習得　②（各コミュニケーションスキルの基礎を学ぶ：個別指導、集団指導）
第７回　基本的な面接技術の習得　①　（ビデオ教材を用いて具体的な利用者像を想定し具体的な援助方法を討議する。：集団指導）
第８回　基本的な面接技術の習得　②　（事例やビデオ教材などを用いて、ソーシャルワーク技術を活用した具体的な援助方法についてロールプレイなどを行う：個別指導、集団指導）
第９回　社会的排除について　具体的な利用者像を想定した相談援助事例から面接技術を学ぶ（集団に対する相談援助事例を含む。）
第10回　虐待（児童・高齢者）具体的な利用者像を想定した相談援助事例から面接技術を学ぶ（集団に対する相談援助事例を含む。）
第11回　家庭内暴力（D.V）具体的な利用者像を想定した相談援助事例から面接技術を学ぶ（集団に対する相談援助事例を含む。）
第12回　低所得者　具体的な利用者像を想定した相談援助事例から面接技術を学ぶ（集団に対する相談援助事例を含む。）
第13回　ホームレス　具体的な利用者像を想定した相談援助事例から面接技術を学ぶ（集団に対する相談援助事例を含む。）
第14回　上記以外の危機状態にある相談援助事例（権利擁護活動を含む。）から学ぶ
第15回　まとめ

【成績評価の方法】
出席・授業の参加態度と課題の提出状況を総合して評価する

【参考文献】
ワークブック社会福祉援助技術演習１　対人援助の基礎

【備考】
【準備学習の指示】
少人数クラスで授業が進行するので、各クラスで出される課題に十分な準備して臨むこと。
・02～08生は読替一覧参照

科目名　クラス　講義区分	
ソーシャルワーク論Ⅰ　＜通期＞	
丸山裕子	4単位

【講義概要】
制度としての社会福祉を具体的に実現するための実践方法であるソーシャルワークについて、その基礎的な理解と実践活動にとって重要と思われる様々な知識の獲得を目的としている。ソーシャルワーク実践論の入門と位置づけ、ソーシャルワークの視点、実践概念、実践の構成要素、実践方法、実践の過程とその展開、各論的方法の特性などの解説と考察を通して、総合的な視野から理解を深める。

【学習目標】
1　社会福祉概念を明確にすること
2　ソーシャルワーク概念を明確にすること
3　ソーシャルワーク実践の構成要素への考察を深めること
4　ソーシャルワーク実践研究としての過程研究への考察を深めること
5　ソーシャルワークの実践方法への考察を深めること
6　ソーシャルワーク実践への専門的・科学的視点を明確にすること
7　ソーシャルワーク・インターベンション（intervension）の意義・方法・体系について理解を深めること

【講義計画】
第１回　社会福祉の概念と特色
第２回　ソーシャルワーク実践と社会福祉（社会福祉士とソーシャルワーカー含む）
第３回　ソーシャルワーク概念（Ⅰ）
第４回　ソーシャルワーク概念（Ⅱ）
第５回　ソーシャルワークの歴史（Ⅰ）
第６回　ソーシャルワークの歴史（Ⅱ）
第７回　ソーシャルワークの歴史（Ⅲ）
第８回　ソーシャルワーク実践方法の枠組み
第９回　ソーシャルワーク実践の構成要素
第10回　ソーシャルワーク実践の価値と倫理
第11回　ソーシャルワーク実践の思考方法と視座
第12回　エコシステム視座の特徴（Ⅰ）
第13回　エコシステム視座の特徴（Ⅱ）
第14回　エコマップを用いた事例研究（Ⅰ）
第15回　エコマップを用いた事例研究（Ⅱ）
第16回　実践モデルとアプローチ
第17回　ソーシャルワーク実践のフィールドとソーシャルワーカーの役割
第18回　ソーシャルワーク実践における過程の意義
第19回　ソーシャルワーク実践過程の枠組みと問題
第20回　局面過程の展開（Ⅰ）
第21回　局面過程の展開（Ⅱ）
第22回　局面過程の展開（Ⅲ）
第23回　実践者の記録から学ぶソーシャルワークの原則（Ⅰ）
第24回　実践者の記録から学ぶソーシャルワークの原則（Ⅱ）
第25回　実践者の記録から学ぶソーシャルワーク支援に必要な知識と技術（Ⅰ）
第26回　実践者の記録から学ぶソーシャルワーク支援に必要な知識と技術（Ⅱ）
第27回　実践者の記録から学ぶソーシャルワーク支援に必要な知識と技術（Ⅲ）
第28回　ソーシャルワーク実践における最近の動向（Ⅰ）
第29回　ソーシャルワーク実践における最近の動向（Ⅱ）
第30回　まとめ

【成績評価の方法】
試験　90%　レポート　5%　出席　5%
評価は、客観テストや小レポートなどを含め総合的に行うが、参加態度は重視する。主体的な取り組みの姿勢は、高く評価する。

【教科書】
基本的には、担当者が講義資料を作成する。資料は、授業進度に応じ随時配布するが、1年間の講義終了時にはそれらをとじると一冊の講義録となるように作成している。

【参考文献】
そのつど紹介する。
伊藤淑子『社会福祉援助技術とは何か』一橋出版

さ行

黒木保博他編著『福祉キーワードシリーズ　ソーシャルワーク』中央法規
日本社会福祉実践理論学会編『新版　社会福祉実践基本用語辞典』など

【備考】
【準備学習の指示】
　ソーシャルワーク実践論の基盤となる科目である。なれない専門用語や抽象的な思考を求められる部分もあり、むずかしいと感じる部分も多いと思うが、予習・復習など必要な学習を行い、講義の内容を自らのものとして理解するようにこころがけること。
・02～08生は読替一覧参照

科目名　クラス　講義区分	
ソーシャルワーク論Ⅱ　＜通期＞	
石　田　易　司	4単位

【講義概要】
特にグループの視点から、ソーシャルワークとソーシャルワーカーについて、学びます。ケースワークとの違いを理解し、コミュニティづくりも視野に入れて学習します。実際の授業では体験を多く取り入れますので、出席を重視します。

【学習目標】
1, 個別援助技術、集団援助技術、地域援助技術について、最新の情報を入れながら具体的方法論を学ぶ。
2, 社会福祉調査法、社会福祉計画、社会福祉運営管理、社会活動法、ケアマネジメント、スーパービジョン等の技術論、方法論について詳しく学習し、実践に役立つ知識、技術を身につける。
3, 具体的事例を多くこなすことにより、実践感覚を身につける。

【講義計画】
第１回　社会福祉援助技術の意義と機能１
第２回　社会福祉援助技術の意義と機能２
第３回　社会福祉援助技術の実践領域と適応領域１
第４回　社会福祉援助技術の実践領域と適応領域２
第５回　個別援助技術の展開過程１
第６回　個別援助技術の展開過程２
第７回　集団援助技術の展開過程１
第８回　集団援助技術の展開過程２
第９回　地域援助技術の援助原則と具体的展開１
第10回　地域援助技術の援助原則と具体的展開２
第11回　社会福祉調査法の理論と技術１
第12回　社会福祉調査法の理論と技術２
第13回　社会福祉計画の理論と技術１
第14回　社会福祉計画の理論と技術２
第16回　社会福祉の運営管理１
第17回　社会福祉の運営管理２
第18回　社会活動法の理論と技術１
第19回　社会活動法の理論と技術２
第20回　ケアマネジメントの目的と概念１
第21回　ケアマネジメントの目的と概念２
第22回　ケアマネジメントの構成要素と過程１
第23回　ケアマネジメントの構成要素と過程２
第24回　ケアマネジャーの問題とその解決
第25回　スーパービジョン１
第26回　スーパービジョン２
第27回　効果測定と評価１
第28回　効果測定と評価２
第29回　全体のまとめと社会福祉士の倫理

【成績評価の方法】
レポート　50%　出席　50%

【教科書】
石田　易司　体験するグループワーク・ラーニングバイドウイング
エルピス社

【参考文献】
新しいグループワーク（YMCA同盟）
グループワーク入門（ミネルヴァ書房）

【備考】
準備学習の指示：事前に教科書の「豆知識」欄を読んでおくこと。
また、授業後には体験と理論を整理しておくこと
・02～08生は読替一覧参照

科目名　クラス　講義区分	
組織倫理学　＜春集＞	
谷　口　照　三	４単位

【講義概要】

現代社会は、組織社会と言われている。組織は強力なパワーを持つ。それは、組織が「固有の倫理的価値」を創り出すことと無関係ではない。倫理的な生活を生きようとする人々の能力は、その「組織の倫理」に深く影響されている。それ故に、我々は、組織が非倫理的および倫理的になる可能性に、強い関心を注がなければならない。

本講義において特に留意した論点は、六点ある。第一点は、組織倫理を語る背景となる現代社会の諸特徴とそれらの倫理的意味を解釈することである。第二点は、かかる解釈とそれに基づく実践の枠組みを構築するために「倫理と道徳の区別と関連」を明確にすることである。第三の点は、「個人の責任の希薄化」と「個人の非倫理的行動」を誘発する現代組織の論理と仕組みを明示することである。第四の留意点は、前者の論点を受け、個人や組織の「責任とは自己の応答可能性を拓いていくことである」という点を説明するために、責任概念の再構築を試みることである。この再構築は、リスポンシビリティ（responsibility）を「応答可能性」と捉え、そのサイクルとプロセスから説明しようとするものである。五点目は、組織倫理を語ることは「組織の責任」を語ることであり、その責任とは「組織自体の応答可能性を拓いていくこと」に他ならないという点である。そのためには、「最高のリーダーシップ」として「組織道徳ないし倫理の創造」が継続的、漸進的になされる必要がある。最後の留意点は、その創造すべき「組織道徳」ないし「組織倫理」の内容や構造は何か、という問題である。

【学習目標】

この講義を受講する学生諸君は、上述の留意点で示したことを参考に、組織社会をめぐる倫理的問題状況を自分なりに解釈し、それを土台に社会や組織の経営の将来動向を説明出来るようにすること、を目標にしなければならない。そのために理解しておかなければならない多くの用語がある。開講時に「2010年度組織倫理学主要用語リスト」を配布する。講義の前後に、各自「用語リスト」を用い、関連する用語が理解出来ているかどうか確認することが肝要であろう。

【講義計画】

第１回　序論―現代社会の特徴と倫理的問題状況―
第２回　序論―現代社会の特徴と倫理的問題状況―
第３回　序論―現代社会の特徴と倫理的問題状況―
第４回　第　１章　現代における倫理・道徳問題を解釈するための一つの枠組み
第５回　第　１章　現代における倫理・道徳問題を解釈するための一つの枠組み
第６回　第　１章　現代における倫理・道徳問題を解釈するための一つの枠組み
第７回　第　２章　企業倫理から組織倫理へ
第８回　第　２章　企業倫理から組織倫理へ
第９回　第　２章　企業倫理から組織倫理へ
第10回　第　３章　組織倫理を語る視座― 組織倫理硬直化のメカニズムの必然性と組織倫理創造の必要性―
第11回　第　３章　組織倫理を語る視座― 組織倫理硬直化のメカニズムの必然性と組織倫理創造の必要性―
第12回　第　３章　組織倫理を語る視座― 組織倫理硬直化のメカニズムの必然性と組織倫理創造の必要性―
第13回　第　４章　組織倫理学構築の基礎としての責任概念の再吟味と再構築
第14回　第　４章　組織倫理学構築の基礎としての責任概念の再吟味と再構築
第15回　第　４章　組織倫理学構築の基礎としての責任概念の再吟味と再構築
第16回　第　５章　組織倫理学構築の基礎的枠組み：「経営の公益性」の位相
第17回　第　５章　組織倫理学構築の基礎的枠組み：「経営の公益性」の位相
第18回　第　６章　組織倫理学の中心的論点と構成要素
第19回　第　６章　組織倫理学の中心的論点と構成要素
第20回　第　７章　社会倫理と組織倫理
第21回　第　７章　社会倫理と組織倫理
第22回　第　８章　事業倫理と組織倫理
第23回　第　８章　事業倫理と組織倫理
第24回　第　９章　技術倫理と組織倫理
第25回　第　９章　技術倫理と組織倫理
第26回　第10章　「場の倫理」としての組織倫理と「内省的道徳」としての組織道徳―応答可能性の動態的組織化―
第27回　第10章　「場の倫理」としての組織倫理と「内省的道徳」としての組織道徳―応答可能性の動態的組織化―
第28回　結論―共有されうる未来社会への倫理的課題―

【成績評価の方法】

試験　100％

ただし、毎回「ミニット・ペーパー」（記名式で１分程度の時間で質問やコメントなどを書いてもらうペーパー）を配布し回収する。また、適時、リポートを課す予定。これらは、主体的に勉強してもらいたいために行うものである

【教科書】

テキストは使用しない。個々のテーマごとレジュメを、また適時資料を配布する。

【参考文献】

適時指示する。

さ行

科目名　クラス　講義区分		
卒業論文［SW］		
石田　易司 川井　太加子 黒田　隆之 栄　セツコ 福田　公教 松端　克文 丸山　裕子 安原　佳子 伊藤　高章	01＜通期＞ 02＜通期＞ 03＜通期＞ 04＜通期＞ 05＜通期＞ 06＜通期＞ 07＜通期＞ 08＜通期＞ 09＜春集＞	4単位

【講義概要】
３回生の演習で積み上げてきた学習を深め、卒業論文という形にして書き上げることを目的とする。そのため、この授業では、各自、研究したいテーマを設定し、それに基づき、参考文献の紹介および検索方法、論文の書き方等に関して、指導する。
　基本的には、個人指導あるいはグループ指導とする。

【学習目標】
卒業論文の作成を本講義の最終目標とする。
その過程でテーマの設定、内容の構成、先行研究や参考文献の渉猟と読解、データ収集等の各段階において、随時、まとめ、発表、討論を行う。

【講義計画】
前半：テーマの設定・参考文献の収集・論文の組み立てをし、中間発表会を行う。
後半：卒業論文を完成させる。

【成績評価の方法】
卒業論文の内容で評価する。

【教科書】
適宜紹介

【参考文献】
適宜紹介する

科目名　クラス　講義区分	
村落社会学　＜春集＞	
清水由文	4単位

【講義概要】
本講義の内容は「農と食の社会学」として講義します。ところで、日本の食料自給率が41％であるのをご存じですか。これは先進諸国の中で一番低い数字なのです。そしてその不足食料は世界のあらゆる国から輸入することにより補っているのです。見かけは飽食の国ですが、現実は違うのです。それでは1960年ぐらいは自給率が60％であった日本がなぜ現在のようになったのでしょうか。それは日本の1960年代の農業政策、1970年代の食の変化、最近の経済のグローバル化と関係があるのですが、それらと関連付けて農村・農業・農民と消費者の食の変化の視点から考える必要があるのです。本講義では農民・農業の問題と消費者の食に対する変化をとおして、日本における農と食の問題を考えていくことにします。

【学習目標】
まず前半部では農民・農業・農村社会の特徴を戦前から現在までの変化を社会の変化と関連づけて理解できることに主眼をおきます。すなわち戦前の農業・農村社会が農地改革でどのように変化したのか、1960年代以降の高度成長経済によりどのように日本の農業・農村が変化したかを理解することを目標にします。そして現在の日本の農業・農村社会が高齢化、過疎化により農村が崩壊し、限界集落化していること、それに対する農村の活性化の必要性を検討します。後半部では、消費者に対する食の変化を中心に検討していきます。食の近代化、食の外部化、家族の変化と食、食品偽装問題、BSE問題、子供の食の崩壊などをテーマにして消費者の食の変化を考えます、最後に農と食の変化を関連づけることが本講義の最終目標です。

【講義計画】
第１回　講義計画の詳細を資料により説明します。参考文献および成績評価の仕方についても説明しますので、必ず出席してください。
第２回　戦前の農業・農村社会の特徴
第３回　戦前の大地主の事例研究
第４回　戦後の農地改革の意義とそれによる農業・農村の変化
第５回　1961年の農業基本法の特徴と問題点
第６回　高度経済成長による農業・農村の変化
第７回　現代の日本における農業の特徴
第８回　日本の伝統的農村社会の研究史
第９回　伝統的農村社会における基礎単位としての「家」について
第10回　高齢化、過疎化による農村社会の崩壊および限界集落
第11回　農業・農村社会の活性化
第12回　農民と都市民との交流
第13回　グリーンツーリズムの特徴
第14回　グリーンツーリズムの事例―京都府美山町の事例
第15回　前半部のまとめ
第16回　食料自給率の計算方法と現状
第17回　主食としての米問題
第18回　食料輸入の問題
第19回　遺伝子組み換え食料について
第20回　食生活の近代化について
第21回　食の外部化―内食、中食、外食について
第22回　食のインスタント化の事例
第23回　ファーストフードの問題
第24回　マクドナルド化とマクドナルドの歴史と現状
第25回　スローフード運動について
第26回　食と家族の関連
第27回　BSEの歴史と問題
第28回　食品偽装問題
第29回　後半部のまとめ
第30回　農と食の関連について

【成績評価の方法】
試験　80％　レポート　20％
授業中に特定のテーマによる小レポートを提出してもらうが、それは単に出席を意味するのではなく、評価して平常点の20％とする。

【教科書】
未定
特に指定しないが、資料を配布する。また講義内容に対応した視聴覚教材を利用して、理解度を深めたい。

【参考文献】
随時講義中に指示する。

【備考】
毎回配布資料に基づいて講義後ノートを作成しておくこと。

科目名　クラス　講義区分	
大学生活入門セミナー　01<春>	
牧　野　丹奈子	２単位

【講義概要】
「桃山学院大学に入ったけれど、講義で先生の言うことが分からない。教科書を読んでも分からない。課題が書けない。何か大学に行きづらい。」

このようなことがないように、この大学入門セミナーでは、桃山学院大学を理解することと慣れ親しむことを目的とします。具体的には、大学施設を有効に利用できること、経営学部の専門の講義の概要を理解すること、講義やゼミで効果的な勉強をするための基礎力をつけること、このセミナーを通じて友達の輪を作ることを目的とします。特に、「読む」、「書く」、「聞く」、「話す」の４つの基本的スキルを向上させながら、大学の雰囲気やまわりりの人たちにも慣れていくようにすることを狙っています。

【学習目標】
以下を学習目標とします。
１．経営学部の専門の講義の概要を学ぶ
２．講義におけるノートの取り方を学ぶ
３．レジュメの作り方を学ぶ
４．プレゼンテーションの仕方を学ぶ

＊全回出席を原則とします。

【講義計画】
第１回　（第１回の授業でさらに詳しい説明があります。）
　　授業の概略説明と自己紹介
第２回　図書館の活用の仕方
第３回　ノートの作り方・レジュメの作り方
第４回　ノートの作り方（ミニ講義１）
第５回　ノートの作り方（ミニ講義２）
第６回　経営学部の専門の講義の内容（１）
第７回　経営学部の専門の講義の内容（２）
第８回　経営学部の専門の講義の内容（３）
第９回　経営学部の専門の講義の内容（４）
第10回　プレゼンテーションの仕方
第11回　グループ発表（１）
第12回　グループ発表（２）
第13回　基礎学力テスト
第14回　キャリア支援講義

【成績評価の方法】
レポート等の提出とその内容、授業中の態度等で成績評価を行います。

＊無断欠席４回以上した場合、単位認定対象外となります。

【教科書】
第６回（予定）以降、「講義計画」をテキストとして利用します。

【備考】
＜準備学習の指示＞経営学部の専門の講義について「講義計画」を読んでおくこと。
＊講義の順序を入れ替える場合があります。
・編転入生対象

科目名　クラス　講義区分	
大学生活入門セミナー　02<春>	
野　原　康　弘	２単位

【講義概要】
「大学にはいったけれど、講義で先生の言うことがわからない。教科書を読んでもわからない。課題が書けない。何か大学に行きづらい。」
このようなことがないように、大学生活入門セミナーでは、桃山学院大学を理解することとなれ親しむことを目的とします。具体的には、大学の施設を有効に利用できること、講義やゼミで効果的な勉強をするための基礎力をつけること、このセミナーを通じて友達の輪を作ることを目的とします。特に、「読む」、「書く」、「聞く」、「話す」の４つの基礎的スキルを向上させながら、大学の雰囲気やまわりの人たちにも慣れていくようにすることを狙っています。

【学習目標】
＜学習目標＞
１　講義におけるノートの取り方を学ぶ
２　レジュメの作り方を学ぶ
３　発表・報告・討論の仕方を学ぶ

＊全回出席を原則とする。

【講義計画】
第１回　（第１回でさらに詳しい説明があります。）
　　授業の概略説明と自己紹介
　　＊授業順序を入れ替える場合があります。
第２回　図書館の活用の仕方
第３回　大学での授業の受け方と勉強の仕方
第４回　ノートの作り方（ミニ講義）（１）
第５回　ノートの作り方（ミニ講義）（２）
第６回　ノートの作り方（ミニ講義）（３）
第７回　大学生活および入門セミナーについての意見交換
第８回　報告の仕方（文献購読と発表）（１）
第９回　報告の仕方（文献購読と発表）（２）
第10回　討論（１）
第11回　討論（２）
第12回　本授業の反省会とカリキュラムの説明
第13回　大学の試験とレポート作成
第14回　キャリア支援講義
第15回　総まとめ

【成績評価の方法】
レポート　100％
４回以上の欠席は単位認定対象外になります。

【参考文献】
授業中に指示します。

【備考】
［準備学習の指示］
　授業には積極的に参加してください。
　出された課題にも真剣に取り組んでください。
・外国人留学生対象

さ・た行

科目名　クラス　講義区分		
大学生活入門セミナー		
信　夫　千佳子 村　山　　博 野　田　俊　範 野　田　俊　範 岸　本　喜樹朗 朴　　大　栄 朴　　大　栄 山　本　順　一 牧　野　丹奈子 河　合　隆　治 正　亀　芳　造 正　亀　芳　造 松　尾　順　介 村　上　伸　一 村　上　伸　一	03＜春＞ 04＜春＞ 05＜春＞ 06＜春＞ 07＜春＞ 08＜春＞ 09＜春＞ 10＜春＞ 11＜春＞ 12＜春＞ 13＜春＞ 14＜春＞ 15＜春＞ 16＜春＞ 17＜春＞	２単位

【講義概要】
「大学に入ったけれど、講義で先生の言うことがわからない。教科書を読んでもわからない。課題が書けない。何か大学に行きづらい。」
　このようなことがないように、大学生活入門セミナーでは、桃山学院大学を理解することと慣れ親しむことを目的とします。具体的には、大学の施設を有効に利用できること、講義やゼミで効果的な勉強をするための基礎力をつけること、このセミナーを通じて友達の輪を作ることを目的とします。特に、「読む」,「書く」,「聞く」,「話す」の４つの基礎的スキルを向上させながら，大学の雰囲気やまわりの人たちにも慣れていくようにすることを狙っています。

【学習目標】
１．　講義におけるノートの取り方を学ぶ。
２．　レジュメの作り方を学ぶ。
３．　発表・報告・討論の仕方を学ぶ。

＊全回出席を原則とする。

【講義計画】
第１回　授業の概略説明と自己紹介
第２回　図書館　オリエンテーション
第３回　情報センター　オリエンテーション
第４回　ノートの作り方（ミニ講義）（１）
第５回　ノートの作り方（ミニ講義）（２）
第６回　ノートの作り方（ミニ講義）（３）
第７回　大学生活及び入門セミナーについての意見交換
第８回　報告の仕方（文献講読と発表）（１）
第９回　報告の仕方（文献講読と発表）（２）
第10回　討論（１）
第11回　討論（２）
第12回　本授業の反省会とカリキュラムの説明
第13回　基礎学力テスト
第14回　キャリア支援講義

【成績評価の方法】
レポート等の提出とその内容、授業中の態度等。
＊無断欠席４回以上は、単位認定対象外となります。

【教科書】
適宜指示します。

【参考文献】
適宜指示します。

【備考】
＊上記「授業計画」については、第１回の授業でさらに詳しい説明があります。また、授業順序を入れ替える場合があります。
【準備学習の指示】
各クラスの担当教員の指示に従ってください。

科目名　クラス　講義区分		
大学入門セミナー		
佐々木　英　哲 Philip　Billingsley 境　　真理子 今　澤　浩　二 和　栗　珠　里 Gonzales Dario 村　中　淑　子 清　水　真　一 梅　山　秀　幸 佐　野　明　子 串　田　久　治 南　出　和　余 青　野　正　明	01＜春＞ 02＜春＞ 03＜春＞ 04＜春＞ 05＜春＞ 06＜春＞ 07＜春＞ 08＜春＞ 09＜春＞ 10＜春＞ 11＜春＞ 12＜春＞ 13＜春＞	２単位

【講義概要】
このセミナーの前半は、講義の受け方やノートの取り方といった、大学で授業を受けるための基本的な方法を指導します。また、図書館や情報センターの利用についての基礎的ガイダンスを行ないます。
後半は、インターネット検索を含めた情報収集から、情報を総合してレポートを作成するまでの方法の指導を行ないます。

【学習目標】
このセミナーを通じて、国際教養学部で「何を、どう学ぶのか」について考えていきます。また、学生生活一般に関わるガイダンスや履修指導を受けて、２年次以降、５つの専修のうちどの専修に進むのかということも考えます。

【講義計画】
自己紹介・自己PR
図書館の利用方法
情報センターの利用方法
講義の受け方
ノートの取り方
読書指導
レポートの書き方

【成績評価の方法】
出席（毎回出席が原則）50%、課題提出50%を目安とします。

【参考文献】
授業中に適宜紹介します。

科目名　クラス　講義区分	
多文化共生入門－日本におけるイスラーム　＜春＞	
今　澤　浩　二	2単位

【講義概要】
現在、日本にはさまざまな文化的背景を持つ人々が暮らしているが、異文化に対する無理解によって摩擦も起こっている。この講義では、日本におけるイスラームを題材として取り上げ、日本でムスリム（イスラーム教徒）がどのような生活を送り、また日本社会が彼らをどのように見ているのかといった事例を検討し、それを通して、多文化共生のあり方を考える。

【学習目標】
この講義では、日本におけるイスラーム教徒の生活を取り上げるが、イスラームに限らず、さまざまな異文化と共生していくにはどうすればよいか考えを深めることを目標とする。

【講義計画】
第１回　多文化共生とは
第２回　イスラームとは何か①
第３回　イスラームとは何か②
第４回　イスラームとは何か③
第５回　イスラームとは何か④
第６回　イスラームとは何か⑤
第７回　日本におけるイスラームの歴史
第８回　日本のムスリム人口
第９回　就学と就労
第10回　宗教儀礼の実践
第11回　食の問題
第12回　日本のモスク
第13回　イスラームと死
第14回　多文化共生のために

【成績評価の方法】
試験　90%　出席　10%
初回の授業で、講義内容や成績評価の方法などについて詳しく説明するので、必ず出席すること。

【参考文献】
桜井啓子『日本のムスリム社会』（ちくま新書、2003年）
河田尚子『日本人女性信徒が語るイスラーム案内』（つくばね舎、2004年）

科目名　クラス　講義区分	
多文化共生入門－ヨーロッパの移民　＜秋＞	
岩　津　洋　二	2単位

【講義概要】
グローバル時代を迎えて、国や民族を越えた交流はますます日常的になってきている。異なる文化を理解し受け入れることが21世紀に生きる人々の必須の課題となりつつある。多文化の共生する社会にしか21世紀の未来はないからだ。しかし、島国の日本では「多文化社会」への理解はいまだに乏しい。発想を転換して、国や民族を越えて考えることは簡単なことではないのである。
今日のヨーロッパはEUという組織を作って、近代社会の基本的な枠組みとなってきた国民国家を越える統合を推進しながら、異文化の担い手である移民の増大にともなう諸問題に直面している。ヨーロッパの移民問題は社会が異文化とどう対応するかという課題を考えるための好例となっている。

【学習目標】
昔から多くの移民の受入れてきたヨーロッパの実態を学びながら、多文化共生という課題にともなう諸問題への理解を深めたい。

【講義計画】
第１回　ガイダンス
第２回　移民という存在
第３回　ヨーロッパの移民の歴史
第４回　移民の実態
第５回　旧植民地からの移民
第６回　ヨーロッパ人の移動
第７回　移民受入れの２つの方針
第８回　移民をめぐる諸問題
第９回　反移民感情
第10回　文化の対立としての移民問題
第11回　多文化的環境を生きる
第12回　日本における移民問題
第13回　多文化共生をめざして
第14回　まとめ

【成績評価の方法】
試験　50%　レポート　50%
レポートは授業中に随時提出を求める。

【参考文献】
授業中に適宜指示する。

科目名　クラス　講義区分	
地域経済論　＜春集＞	
芝　村　篤　樹	４単位

【講義概要】
主に、近現代の大阪を対象に、地域経済、地域社会、地域政治について歴史的・総合的に講義する。100年余りの日本近現代都市の歴史は、二回の大きな転換期を経験した。1920年代～30年代と、1950年代半ばからの約20年間である。講義ではその転換期を重点に見て、第三の大転換期を経過しつつある現代都市の諸問題について考えたい。

【学習目標】
都市の時代といわれる現在、日本近現代都市について歴史的に考察することを通し、日本都市の現状と課題を明らかにする。同時に、都市の歴史を考えることで、近代社会とは何か、その課題とは何かを考える。

【講義計画】

第１回	＜はじめに＞	
	都市とは何か？なぜ日本近現代都市について考えるか？	
第２回	１.日本近代都市の形成	①前近代の都市
第３回	１.同上	②近代都市への転換
第４回	１.同上	③大阪の都市近代化
第５回	２.1920年・30年代の都市	①第一次世界大戦と都市化
第６回	２.同上	②都市問題と都市機能
第７回	２.同上	③都市政策の展開
第８回	２.同上	④都市改造
第９回	２.同上	⑤都市専門官僚制
第10回	２.同上	⑥転換の結果
第11回	３.都市と戦争	①経済と社会
第12回	３.同上	②大空襲と被害
第13回	４.都市における戦前と戦後	①断絶と連続
第14回	４.同上	②都市と農村
第15回	５.高度経済成長期の都市	①高度経済成長とは？
第16回	５.同上	②都市化の様相
第17回	５.同上	③経済成長の明と暗
第18回	５.同上	④大阪の変貌
第19回	５.同上	⑤高度経済成長政策
第20回	５.同上	⑥革新自治体
第21回	５.同上	⑦革新自治体の功罪
第22回	６.現代都市の諸問題	①歴史としての現代都市
第23回	６.同上	②情報化・消費化
第24回	６.同上	③大阪学の問題点
第25回	６.同上	④都市の成長管理
第26回	６.同上	⑤現代における都市と農村
第27回	６.同上	⑥現代都市の諸問題
第28回	講義のまとめ	①都市でどう生きる？

【成績評価の方法】
講義中に５.６回程度、小レポートを行う。それをふくめ、期末試験を行い評価する。

【教科書】
芝村篤樹 都市の近代・大阪の20世紀 思文閣出版

【参考文献】
講義中に紹介する。

科目名　クラス　講義区分	
地域研究Ｉ　＜通期＞	
松　村　昌　廣	４単位

【講義概要】
注意！　この講義は全ての学生が履修することができますが、知的準備ができていないとまず単位は取得できません。高校での地理、世界史、政治経済関連科目を十分習得した者、大学で「政治学」「社会学」「経済学」などを学び、社会科学的な発想や思考ができる者を対象としています。また、試験問題は思考力重視の総合的な論述試験を行いますから、暗記型の者には全く向きません。当然、９割以上の出席をしないと単位取得は困難だと思ってください。既に、「国際関係論」「国際政治事情研究」「地域研究」「政治学原論」など、国際関係の関連科目を履修したものを歓迎します。つまり、本講義は国際関係研究において中級レベルの者を履修者として想定しています。

この講義は地域研究の一分野としてアメリカ合衆国を取り扱います。地域研究（area study）とは特定の地域又は国を国際政治学と比較政治学の両方の分析視角から捉える学問分野です。この講義では、米国が覇権国として国際秩序のあり方に決定的なパワーを及ぼしていることから、米国の国内的諸要因にも十分な注意を払いながらも、米国の世界政策、とりわけその戦略の変遷、そしてその背後にある思想的背景や利害関係を理解することに焦点をあわせます。

【学習目標】
冷戦後、一極体制を築いたかに見えた米国は依然として覇権を維持しながらも、今日、中東に焦点とした反テロ軍事作戦、中国の台頭、経済金融危機など、様々な制約や困難に直面しています。この講義では、総合的な分析視角から、2009年に発足したオバマ政権が採りうる、また採るべき覇権維持戦略を考察します。この講義の単位を取得することによって、履修者は現在、米国の抱える喫緊の課題は何であるか、米国はどのような選択肢をもっているか、そのためにどのような政治面、軍事面、経済面を跨る総合的な戦略を採ることができるかについて概括的に理解できるようになります。

【講義計画】
第１回　比較政治学的アプローチ　―　システム論と政治文化
第２回　大統領と行政府
第３回　二大政党制の下における議会
第４回　財界と地域経済
第５回　社会勢力
第６回　聖書主義　―　旧世界との決別
第７回　社会契約論　―　米国社会成立の正当化
第８回　フェデラリスト・ペーパー
第９回　安全保障国家の成立と展開　―　四つの転換点
第10回　モンロー・ドクトリン
第11回　米国の政治経済的変容＜I＞　―　南北戦争
第12回　米国の政治経済的変容＜II＞　―　米墨戦争、米西戦争
第13回　ウッドロー・ウイルソン主義
第14回　前期まとめ
第15回　予備調整日・・・予定終了の場合は臨時テーマ
第16回　米国の政治経済的変容＜III＞　―　大恐慌とニューディール政策
第17回　トルーマン・ドクトリン
第18回　ジョージ・ケナンとNSC68
第19回　米国の政治経済的変容＜IV＞　―　軍産複合体の出現
第20回　米国の政治経済的変容＜V＞　―　動揺する経済覇権
第21回　デタント
第22回　バンスと人権外交
第23回　米国の政治経済的変容＜VI＞　―　戦略路線対立とシンクタンク
第24回　レーガン革命と「悪の帝国」
第25回　クリントン「拡大と関与の戦略」
第26回　ブッシュ・ドクトリン
第27回　米国覇権の下に戦略路線対立のパターン
第28回　米国の政治経済的変容＜VII＞　―　サブプライム・ローンと金融経済危機
第29回　オバマが直面する課題　―　レトリックと戦略の不在
第30回　予備調整日・・・予定終了の場合は臨時テーマ

【成績評価の方法】
試験　100％　レポート　０％　出席　０％
前期セメスター末と後期セメスター末の二回、論述式の試験を行う。各々、配点は50点とする。80点以上をA,70点以上79点以下はB、

60点以上69点以下はC,59点以下はDとする。

問題は講義に毎回出席しかつ理解しておかねければ回答できない総合的な内容とする。したがって、講義に十分出席しなかった者（出席率９割以上)、その内容を十分理解していないものには単位取得はほぼ不可能であろう。

【参考文献】
・松村昌廣『米国覇権と日本の選択　―　戦略論に見る米国パワーエリートの路線対立』勁草書房、2000年。
・松村昌廣『動揺する米国覇権』現代図書、2005年。

なお、米国に関して基礎知識に欠けるものには、以下の図書が必読。
・向井隆治『面白いほどわかる　新しいアメリカのしくみ』中経出版、2008年。

【備考】
【準備学習の指示】講義の進行に合わせて「参考文献」を読むように。「参考文献」はテキストとして講義中に逐次参照することはありませんが、本講義を理解し、試験に準備するためにも不可欠であることから、履修者は各々精読しておくこと。

科目名　クラス　講義区分	
地域研究Ⅱ　＜通期＞	
捧　　堅　二	４単位

【講義概要】
ヨーロッパの政治と社会について講義する。
西欧文明の伝統。世界史における西欧の台頭。近代政治思想。イギリス政治、スウェーデンの福祉国家、フランス政治、ドイツのナチズム、ソ連と共産主義。現在の各国政治。時々ビデオなどの映像を利用する。

【学習目標】
　現代のヨーロッパをヨリ深く認識できるための知識の習得をめざす。
関心事は現在のヨーロッパであるが、現在のヨーロッパを理解する上で必要な
範囲で歴史にも触れる。
　イギリス政治を通して、今日の自由主義的民主政治の諸要素を学ぶことには特に力を入れる。スウェーデンの「福祉国家」は日本が学ぶべきモデルに値するかにつても検討したい。自由主義、保守主義、社会主義、社会民主主義、共産主義についての基本的な知識も身につけてほしい。

【講義計画】
第１回　日本からの視点：アメリカか、ヨーロッパか？
第２回　西欧の伝統（古代ギリシア、古代ローマ、キリスト教）
第３回　西洋文明の世界的覇権
第４回　日本とヨーロッパ
第５回　21世紀初頭における「諸文明の衝突？」
第６回　イギリス（伝統と先進性）
第７回　イギリス（政治のしくみ）
第８回　比較政治　（議院内閣制と大統領制）
第９回　イギリス（選挙制度と二大政党制）
第10回　イギリス（政党と圧力団体）
第11回　イギリス（2010総選挙）
第12回　スウェーデンと福祉国家
第13回　社会民主主義と福祉国家
第14回　比較政治（福祉国家モデルの妥当性）
第15回　日本からの視点：「第三の道」はあるか？
第16回　フランス（フランス政治のしくみ）
第17回　比較政治（右翼と左翼）
第18回　フランス（今日のフランス政治）
第19回　ドイツ（ビスマルク、ワイマル共和制、ナチズム）
第20回　ドイツ(比例代表制と穏健多党制)
第21回　ドイツ(今日のドイツ政治)
第22回　ヨーロッパ連合(EU)
第23回　マルクスとレーニン：共産主義（革命的国家社会主義）の思想と政治
第24回　ロシア：共産主義体制（独裁・専制・全体主義）
第25回　比較政治（クーデターと革命）
第26回　共産主義勢力の「膨張」（１）
第27回　共産主義勢力の「膨張」（２）
第28回　1989年：共産主義運動の終焉
第29回　日本からの視点
第30回　まとめ

【成績評価の方法】
試験　０％　レポート　100％　出席　０％
　現時点では、短くて、ごくごく簡単なレポートを数回提出するやりかたを考えている。出席は取らないでおこうと思う。平常点で、プラス・アルファも考えている。
　しかし、最初の講義の際に、学生諸君の意見を聞き、それを積極的に取り入れて最終的に決めたい。（万一、出席を取ることに変更した場合でも、４年生、３年生の就職活動には配慮するつもりだ。）

【教科書】
使用しない

【参考文献】
マックス・ウェーバー『職業としての政治・職業としての学問』日経BP社、2009年
網谷龍介ほか編『ヨーロッパのデモクラシー』ナカニシヤ出版、2009年
河合秀和『比較政治・入門』有斐閣、2000年
サミュエル・P・ハンチントン『文明の衝突』集英社、1998年

サミュエル・P・ハンチントン『文明の衝突と21世紀の日本』集英社新書、2001年
大沢武男『ヒトラーとユダヤ人』講談社現代新書、1995年
宮本太郎『生活保障――排除しない社会』岩波文庫、2009
E・H・カー『カール・マルクス―その生涯と思想の形成』未来社、1998年
ロバート・ケーガン『ネオコンの論理』光文社、2003年
フランシス・フクヤマ『「大崩壊」の時代』上下、早川書房、2000年
ファリード・ザカリア『アメリカ後の世界』徳間書店2008年
田畑稔ほか『二一世紀入門』青木書店、1999年
その他、授業の際にあげる。

科目名　クラス　講義区分	
地域福祉論Ａ　＜春＞	
松　端　克　文	２単位

【講義概要】
本講では、地域福祉に関する理論や歴史をおさえながら、地域福祉の考え方や理念、地域福祉の構成要素、地域福祉の主体と対象、地域福祉に関わる組織や団体、専門職などについての理解を深める。
なお、地域福祉論は「地域福祉論Ａ」と「地域福祉論Ｂ」を通じて、社会福祉士受験資格を得るための必修科目となっている。したがって、Ａ・Ｂの受講を通じて、地域福祉に関する基礎的な内容が理解できるよう講義計画を立てている。

【学習目標】
①地域福祉の基本的考え方（人権尊重、権利擁護、自立支援、地域生活支援、 地域移行、社会的包摂等を含む。）について理解する。
②地域福祉の主体と対象について理解する。
③地域福祉に係る組織、団体及び専門職の役割と実際について理解する。

【講義計画】
第１回　新しい社会システムと地域福祉―地域福祉の基本的考え方、地域自立生活支援人権尊重、権利擁護、社会的包摂、地域生活移行など―
第２回　地域福祉の概念と範囲　①地域福祉理論の展開
第３回　地域福祉の概念と範囲　②地域福祉理論の類型化
第４回　地域福祉の主体と対象・構成要素
第５回　コミュニティと地域福祉―コミュニティの捉え方、地域コミュニティ型組織とアソシエーション型組織―
第６回　福祉コミュニティの形成と地域福祉
第７回　地域福祉の発展過程（歴史）①欧米における展開
第８回　地域福祉の発展過程（歴史）②日本における展開
第９回　行政組織と民間組織の役割と実際①地方分権化、行政と住民との協働、地域福祉計画、福祉圏域など
第10回　行政組織と民間組織の役割と実際　②社会福祉協議会の役割と実際（その１）
第11回　行政組織と民間組織の役割と実際　③社会福祉協議会の役割と実際（その２）
第12回　行政組織と民間組織の役割と実際　④NPO、コミュニティビジネス、企業の社会貢献活動など
第13回　行政組織と民間組織の役割と実際　⑤民生委員・児童委員、福祉委員、ボランティア、地域組織など
第14回　地域福祉における専門職の役割―専門職の役割、住民との関係、チームアプローチなど－
第15回　試験・まとめ

【成績評価の方法】
試験　80％　レポート　０％　出席　20％

【教科書】
上野谷加代子・杉崎千洋・松端克文編　よくわかる地域福祉（第４版）ミネルヴァ書房

【参考文献】
社会福祉士養成講座編集委員会編『地域福祉の理論と方法』中央法規.

【備考】
準備学習
シラバスを確認の上、テキストの該当箇所もしくは関連する箇所を中心に予習と復習をすること。
・02～08生は読替一覧参照

科目名　クラス　講義区分	
地域福祉論Ｂ　＜秋＞	
松　端　克　文	２単位

【講義概要】
本稿では、「地域福祉論Ａ」の内容をふまえ、主として地域福祉の推進方法について、コミュニティワーク・コミュニティオーガニゼーション、コミュニティソーシャルワーク、社会資源の活用・調整・開発、福祉ニーズの把握方法、地域トータルケアシステムの構築方法、サービスの評価方法、他職種・他機関との連携を含むネットワーキング、福祉教育、そして地域福祉計画・地域福祉活動計画などについての理解を深める。

【学習目標】
①地域福祉におけるネットワーキング（多職種・多機関との連携を含む。）の意義と方法及びその実際について理解する。
②地域福祉の推進方法（ネットワーキング、社会資源の活用・調整・開発、福祉ニーズの把握方法、地域トータルケアシステムの構築方法、サービスの評価方法を含む。）について理解する。

【講義計画】
第１回　地域福祉推進の基本的な考え方―地域福祉推進における住民参加など―
第２回　コミュニティソーシャルワークの考え方と方法
第３回　ソーシャルサポートネットワークとチームアプローチの考え方と方法
第４回　コミュニティワーク・コミュニティオーガニゼーションの歴史と考え方・方法
第５回　地域における福祉ニーズの把握方法―福祉ニーズの概念、把握の視点、アウトリーチの意義、質的な把握方法と量的な把握方法など―
第６回　地域組織化・福祉組織化の方法―地域住民・ボランティア・当事者の組織化―
第７回　ボランティアコーディネートの考え方と方法
第８回　地域福祉の主体と福祉教育
第９回　社会資源の活用・調整・開発の方法
第10回　地域トータルケアシステムの構築方法
第11回　地域福祉の財源の構成とその調達方法
第12回　地域福祉計画・地域福祉活動策定方法
第13回　地域福祉に関するサービス提供組織とその運営方法
第14回　地域福祉に関するサービスの評価の方法
第15回　試験・まとめ

【成績評価の方法】
試験　80%　レポート　０%　出席　20%

【教科書】
上野谷加代子・杉崎千洋・松端克文編　よくわかる地域福祉（第４版）ミネルヴァ書房

【参考文献】
社会福祉士養成講座編集委員会編『地域福祉の理論と方法』中央法規。

【備考】
シラバスを確認の上、テキストの該当箇所もしくは関連する箇所を中心に予習と復習をすること。
・02～08生は読替一覧参照

科目名　クラス　講義区分	
地誌　01＜春＞	
安　倉　良　二	２単位

【講義概要】
テーマ：「世界地誌－アジアとオセアニアー」
地誌学は，特定地域の自然と人文の各現象を総合的に考察する地理学の分野であり，その内容は多岐にわたる。本講義では，世界地誌の中でもアジアとオセアニアに着目し，地理学的な見方で当該地域のトピックを紹介することを目的とする。

【学習目標】
現在，高校では「地理」は選択制となっており，未履修の学生も多い。そこで本講義では大学レベルの地理学研究の成果をふまえつつも，中学・高校の「地理」で学ぶ基本的な項目についても随時紹介する。講義は毎回配布するレジュメを基に，書画カメラを用いて図表・写真を提示しながら進めたい。

【講義計画】
第１回　講義についてのガイダンス－「地誌学」とは－
第２回　東アジア①：韓国
第３回　東アジア②：中国（１）－自然環境と民族・文化－
第４回　東アジア③：中国（２）－農業と都市・人口問題－
第５回　東アジア④：中国（３）－鉱工業－
第６回　東南アジア①：自然環境と農林業
第７回　東南アジア②：鉱工業
第８回　東南アジア③：都市問題
第９回　南アジア①：自然環境と民族・文化
第10回　南アジア②：農業
第11回　南アジア③：鉱工業
第12回　オセアニア①：自然環境と民族・文化
第13回　オセアニア②：農業と鉱工業
第14回　オセアニア③：都市問題
第15回　試験・まとめ

【成績評価の方法】
試験　70%　出席　30%
今年度は試験に加えて，講義の最後に出席を兼ねた感想を書いてもらうことで学生の関心を問いたい。なお，試験については，大問を４～５題出し，1問は全員解答，他の問題から２問ほど選択してもらうことを考えている（論述式）。

【参考文献】
講義において随時説明する予定である。

【備考】
【準備学習の指示】
本講義では，高校で地理を学んでいない学生が多いことを考慮して，高校で用いられる資料集も適宜活用しながら進めるが，基本的な事項については可能であれば高校の教科書にも目を通して頂きたい。
・02～07生対象

た　行

科目名　クラス　講義区分	
地誌　02<秋>	
安　倉　良　二	２単位

【講義概要】
テーマ：「世界地誌－アフリカ・ヨーロッパ・アメリカを中心に－」
地誌学は，特定地域の自然と人文の各現象を総合的に考察する地理学の分野であり，その内容は多岐にわたる。本講義では，世界地誌の中でもアフリカ，ヨーロッパとアメリカに着目し，地理学的な見方で当該地域のトピックを紹介することを目的とする。

【学習目標】
現在，高校では「地理」を履修していない学生が多い。そこで本講義では，大学レベルの地理学研究の成果をふまえつつ，中学・高校の「地理」で履修する内容についても適宜紹介する。講義は基本的に，毎回配布するレジュメをベースに進めるが，書画カメラを用いて図表類も適宜提示し，各テーマについての理解を深めてもらう。

【講義計画】
第１回　講義に関するガイダンス－「地誌学」とは－
第２回　アフリカ①－自然環境と民族・文化－
第３回　アフリカ②－農業と鉱工業－
第４回　アフリカ③－都市問題－
第５回　ヨーロッパ①－自然環境と民族・文化－
第６回　ヨーロッパ②－農業と鉱工業－
第７回　ヨーロッパ③－EU統合に伴う地域的インパクト－
第８回　ヨーロッパ④－都市問題－
第９回　北アメリカ①－自然環境と民族・文化－
第10回　北アメリカ②－農業－
第11回　北アメリカ③－鉱工業と都市問題－
第12回　中南アメリカ①－自然環境と民族・文化－
第13回　中南アメリカ②－農業－
第14回　中南アメリカ③－鉱工業－
第15回　試験・まとめ

【成績評価の方法】
試験　70%　出席　30%
今年度は試験に加えて，講義の最後に出席を兼ねた感想を書いてもらうことで学生の関心を問いたい。なお，試験については，大問を４～５題出し，1問は全員解答，他の問題から２問ほど選択してもらうことを考えている（論述式）。

【参考文献】
講義において随時説明する予定である。

【備考】
【準備学習の指示】
本講義では，高校で地理を学んでいない学生が多いことを考慮して，高校で用いられる資料集も適宜活用しながら進めるが，基本的な事項については可能であれば高校の教科書にも目を通して頂きたい。
・02～07生対象

科目名　クラス　講義区分	
地誌［4］　01<通期>	
佐々木　育　子	４単位

【講義概要】
21世紀を生きる私達は、好むと好まざるとにかかわらず、世界の諸地域と関わりをもち、その動きに影響される。
諸地域は如何にして形成され、そこに住む人々は何を求め、どのように生活しているかを、日本を含めいくつかの国を中心にこの講義では見ていく。
人数にもよるが、実際に地域を見るフィールドワークも実施の予定。

【学習目標】
社会科の教師を目指す人は、「世界」を知らねばならない。「世界」を知るための目をもたねばならない。そのための基礎力を養うことを目標とする。

【講義計画】
第１回　はじめに-地誌を学ぶにあたって-
第２回　世界の地誌
　　１．アングロアメリカ①
第３回　　アングロアメリカ②
第４回　２．EU諸国①
第５回　　EU諸国②
第６回　３．ロシアと旧ソ連邦諸国①
第７回　　ロシアと旧ソ連邦諸国②
第８回　４．西アジア～北アフリカ①
第９回　　西アジア～北アフリカ②
第10回　５．サハラ以南のアフリカ①
第11回　　サハラ以南のアフリカ②
第12回　６．オセアニア
第13回　７．ラテンアメリカ①
第14回　　ラテンアメリカ②
第15回　前期のまとめ
第16回　８．南・東南アジア①
第17回　　南・東南アジア②
第18回　９．東アジア①
第19回　　東アジア②
第20回　日本の地誌
　　１．近畿圏①
第21回　　近畿圏②
第22回　２．中部圏①
第23回　　中部圏②
第24回　３．首都圏①
第25回　　首都圏②
第26回　４．東北・北海道地方
第27回　５．中国・四国地方
第28回　６．九州地方①
第29回　　九州地方②
第30回　後期のまとめ

【成績評価の方法】
出席状況（参加姿勢も含む）とレポート（授業中の小レポートも加味）で総合的に評価する

【教科書】
帝国書院編集部　世界の諸地域NOW　2010-図説地理資料　帝国書院　920円

【参考文献】
A.授業中に適宜紹介
B.地図帳（最新のものが望ましい）は各自用意のこと

【備考】
「準備学習の指示」
　今　世界の諸地域・国で何が起きているか！
日々、新聞（１面・国際面）や、インターネット（ニュース＝主な出来事・国際）を見る習慣を身につけておくこと。
・08～10生対象